どうとく Support Book

一緒に
考えませんか。
道徳の授業

どうとく Support Book を

あなたの授業づくりのいつもそばに

基本的な理論　／　内容項目集　／　授業づくりのポイント集
見取りと評価の工夫　／　「協働による授業づくり」の推進
道徳科用語集

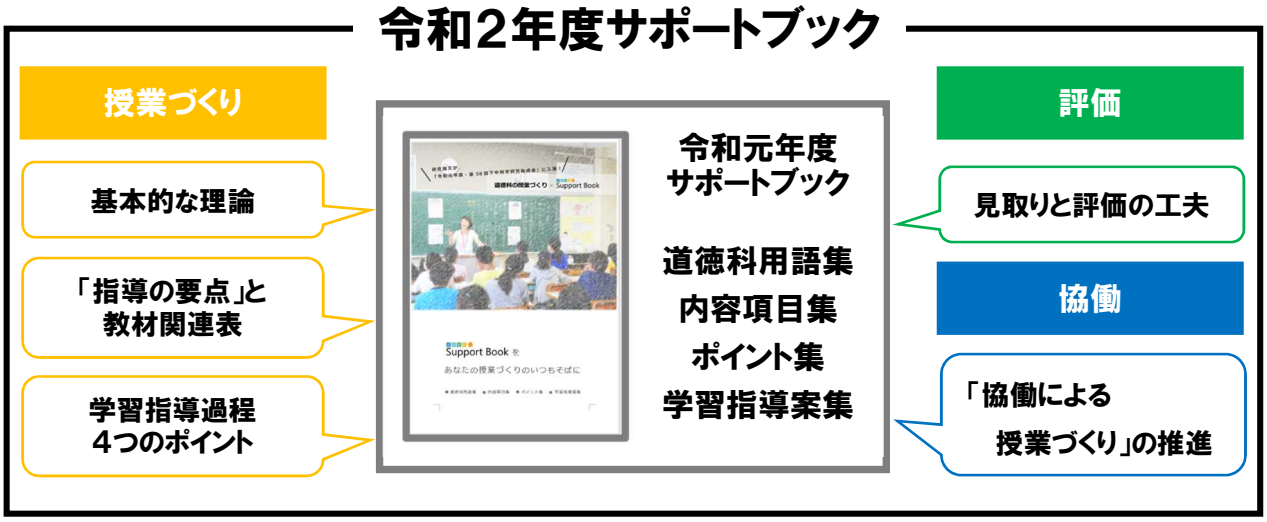
はじめに

道徳科の授業づくりに活用できるサポートブックについて

宮城県総合教育センター令和元年度専門研究道徳教育研究グループでは，「考え，議論する道徳」を目指したサポートブックの作成と活用を通して，よりよく生きるための基盤となる道徳性を育む道徳科の授業づくりを提案しました。

サポートブックは，道徳科用語集，内容項目集，ポイント集，学習指導案集で構成されており，教師一人一人の授業づくりを支援する資料です。本サポートブックの内容及び表現については，学習指導要領を基にしております。

令和２年度は，「授業づくり」「評価」「協働」の３つをキーワードにサポートブックの充実・改善を図り，サポートブックが「考え，議論する道徳」の授業づくりや校内研修会を行う際に更に活用しやすい資料となるようにしました。



学校における活用例

学級担任の先生 指導に関わる先生	○授業づくりを行う際に押さえておきたい基本的な理論を理解する。 ○授業づくりのポイントをつかむ。 ○内容項目と指導の要点を理解し，授業のねらいを明確にする。 ○授業構想から評価までの流れを理解し，評価に生かす。 ○学習指導案を作成する際の参考資料として活用する。
研究主任 道徳教育推進教師	○職員会議等の参考資料として活用する。 ○授業づくりや評価についての共通理解を図る際の資料とする。 ○サポートブックを活用して校内研修会を実施する。 ○授業検討会の際にサポートブックを参考に協議する。
初任者研修を 担当する先生	○初任者研修の参考資料として活用する。 （基本的な理論・学習指導過程の構想・学習指導案の書き方等）

各学校において，児童生徒の実態を踏まえて，授業づくりや校内研修会を行う際に，本サポートブックを活用されることを願っています。

Ｓｕｐｐｏｒｔ　Ｂｏｏｋ　　目次

基本的な理論　・・・・・・・　3

内容項目集・「指導の要点」と教材関連表　・・・・・・・　9

授業づくりのポイント集　・・・・・・・　５９

見取りと評価の工夫　・・・・・・・　８３

協働による授業づくりの推進　・・・・・・・　９３

道徳科用語集　・・・・・・・１０５

【基本的な理論】

目次

教科化の背景 ・・・・・・・・5

道徳科の目標 ・・・・・・・・6

「考え，議論する道徳」の捉え方 ・・・・・・・・8

教科化の背景

道徳はどうして教科化されたのですか。

深刻ないじめ問題がきっかけとなり，改めてこれまでの道徳教育と道徳の時間の実態や現状が見直され，改善を図るために教科化することになりました。道徳の「教科化をすすめる理由」として，**現行の道徳教育における指導法・内容のばらつき等の改善が必要であること**を挙げた上で**「いじめ防止に大きな効果が期待できる」「学校教育の真の中核としての役割を果たせるようにすべき」**などといったことが挙げられています。

道徳教育の重要性を再認識し，更に充実することと改善することが求められているのですね。では，これからの道徳の時間に求められていることとはどのようなものでしょうか。

これまでの道徳の時間の課題

・読み物教材の登場人物の心情理解に終始する指導。
・望ましいと分かっていることを言わせたり，書かせたりすることに終始する指導。
・主題やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合いの指導。
・年間 35 時間の授業が計画的に行われていない実態。

これからの道徳科に求められていること

教科化によって求められていることに，道徳科の授業の「質的転換」と「量的確保」があります。

・**「質的転換」**・・・道徳科の授業が，児童生徒の資質・能力を育てるための授業へと改善していこうとするもの。
・**「量的確保」**・・・年間 35 時間の授業をしっかりと積み重ねていくこと。

これまでの道徳の時間の成果として，学校の教育目標に即して充実した指導を重ね，確固たる成果を上げている優れた取組がたくさんあります。これまでの指導の仕方を振り返り，それぞれの指導の意図をもう一度見つめ直してよりよい方向へと改善を図っていくことが大切です。

参考文献

[1] 赤堀博行：「特別の教科　道徳」で大切なこと　(2017)　P18-46　東洋館出版社
[2] 「特別の教科　道徳」の全面実施に向けてのリーフレット　宮城県教育委員会
[3] 浅見哲也：「こだわりの道徳授業レシピ」　(2020)　P10-17 P52-54　東洋館出版社

道徳科の目標

道徳科では，児童生徒にどのような力を育てるのですか。

児童生徒に育てる力については，道徳科の目標に示されています。教科化に伴って，道徳科の目標も明確で理解しやすいものになりました。目標を詳しく確認してみましょう。

道徳科の目標

第１章総則の第１の２の(２)に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養うため**，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して，**道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。**

小・中学校学習指導要領「第３章　特別の教科　道徳」第１

※（　）は中学校の目標

道徳性を養うために

- **道徳的判断力**
- **道徳的心情**
- **道徳的実践意欲と態度**

を育てることが目標です。

授業のねらいは，これらの諸様相に基づいて設定することになります。

- **道徳的判断力**
  それぞれの場面において善悪を判断する能力のことです。
- **道徳的心情**
  道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情のことです。
- **道徳的実践意欲と態度**
  道徳的実践意欲は，道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり，道徳的態度は，それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構えのことです。

P.105～110 道徳科用語集へ
P.67 ポイント集　ねらいの設定へ

参考文献

[1] 「特別の教科　道徳」の全面実施に向けてのリーフレット　宮城県教育委員会
[2] 文部科学省：小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　P16-21　あかつき
[3] 文部科学省：中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　P13-18　教育出版

道徳科に求められる学習活動とはどのようなものですか。

道徳科の目標

第１章総則の第１の２の(２)に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，**道徳的諸価値についての理解**を基に，**自己を見つめ**，**物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え**，**自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して**，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

小・中学校学習指導要領「第３章　特別の教科　道徳」第１

（　）は中学校の目標

道徳科の目標に示されているような学習（下線部）が道徳科の目指す授業の姿ということになりますね。

そうですね。この下線部が，道徳科で目指す児童生徒の学習活動を示しています。ですから，道徳科では，道徳性を構成する諸様相を育てることに向けて

（１）道徳的諸価値について理解する
（２）自己を見つめる
（３）物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
（４）自己（人間として）の生き方についての考えを深める

授業をしていくことが大切になってきます。

（１）道徳的諸価値について理解する

道徳的価値の意義及びその大切さについて理解することです。

→〈価値理解〉〈人間理解〉〈他者理解〉→**P.105～110 道徳科用語集へ**

（２）自己を見つめる

自分との関わり，つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方，考え方と照らし合わせながら，更に考えを深めることです。

（３）物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

物事を一面的に捉えるのではなく，児童生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え，様々な視点から物事を理解し，主体的に学習に取り組むことです。

（４）自己（人間として）の生き方について考えを深める

道徳的価値の理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として，自己（人間として）の生き方について考えを深めていくことです。

参考文献

[1] 浅見哲也：「こだわりの道徳授業レシピ」　(2020)　P22-24　東洋館出版社
[2] 文部科学省：小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　P16-21　あかつき
[3] 文部科学省：中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　P13-18　教育出版

「考え，議論する道徳」の捉え方

道徳では，どのような授業が求められているのですか。

発達の段階に応じ，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え，向き合う「考える道徳」,「議論する道徳」へと転換を図ることが求められています。→**P.105～110「道徳科用語集」へ**

「考え，議論する道徳」

「考え」とは？

これまでの経験や感じ方と照らし合わせながら，自分との関わりで考えること。

主体的

「議論する」とは？

多様な考え方，感じ方と出会い交流すること。

対話的

考えることで自分の考え方，感じ方を明確にし，議論することを通して，自己（人間として）の生き方について考えを深めること。

深い学び

※（　）は中学校

「考え，議論する道徳」の授業を実践することは，「特別の教科　道徳」における，主体的，対話的で深い学びとつながります。

道徳的価値について自分との関わりで考え，他者と対話したり協働したりしながら，多様な考え方や感じ方に触れることで，改めて道徳的価値と向き合い，自己を見つめることができるのですね。

参考文献

[1] 文部科学省：小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編 P2-3　あかつき
[2] 文部科学省：中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編 P2-3　教育出版
[3] 赤堀博行：「特別の教科　道徳」で大切なこと　(2017)　P120-154　東洋館出版社
[4] 平成29年度　道徳教育ハンドブック　杜の都の道徳教育　P20-22　仙台市教育委員会

【内容項目・「指導の要点」と教材関連表】　目次

A　主として自分自身に関すること

（小）善悪の判断，自律，自由と責任　（中）自主，自律，自由と責任・・・・・・・ 10
（小）正直，誠実　（中）自主，自律，自由と責任・・・・・・・ 12
（小）節度，節制　（中）節度，節制・・・・・・・ 14
（小）個性の伸長　（中）向上心，個性の伸長・・・・・・・ 16
（小）希望と勇気，努力と強い意志　（中）希望と勇気，克己と強い意志・・・・ 18
（小）真理の探究　（中）真理の探究，創造・・・・・・・ 20

B　主として人との関わりに関すること

（小）親切，思いやり　（中）思いやり，感謝・・・・・・・ 22
（小）感謝　（中）思いやり，感謝・・・・・・・ 24
（小）礼儀　（中）礼儀・・・・・・・ 26
（小）友情，信頼　（中）友情，信頼・・・・・・・ 28
（小）相互理解，寛容　（中）相互理解，寛容・・・・・・・ 30

C　主として集団や社会との関わりに関すること

（小）規則の尊重　（中）遵法精神，公徳心・・・・・・・ 32
（小）公正，公平，社会正義　（中）公正，公平，社会正義・・・・・・・ 34
（小）勤労，公共の精神　（中）社会参画，公共の精神・・・・・・・ 36
（小）勤労，公共の精神　（中）勤労・・・・・・・ 38
（小）家族愛，家庭生活の充実　（中）家族愛，家庭生活の充実・・・・・ 40
（小）よりよい学校生活，集団生活の充実　（中）よりよい学校生活，集団生活の充実 42
（小）伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度　（中）郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度 44
（小）伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度　（中）我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度 46
（小）国際理解，国際親善　（中）国際理解，国際貢献・・・・・・・ 48

D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

（小）生命の尊さ　（中）生命の尊さ・・・・・・・ 50
（小）自然愛護　（中）自然愛護・・・・・・・ 52
（小）感動，畏敬の念　（中）感動，畏敬の念・・・・・・・ 54
（小）よりよく生きる喜び　（中）よりよく生きる喜び・・・・・・・ 56

A 主として自分自身に関すること

内容項目　小学校「善悪の判断，自律，自由と責任」
中学校「自主，自律，自由と責任」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.28,29
(中) p.26,27

発達段階に応じた指導

小学校低学年	よいことと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。
小学校中学年	正しいと判断したことは，自信をもって行うこと。
小学校高学年	自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をすること。
中学校	自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A－(1)	積極的に行うべきよいことと，人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。また，よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして，小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していくことが大切である。また，身近な事例を踏まえ，人としてしてはならないことをしないことについて，一貫した方針をもち，毅然とした態度で指導していくことが重要である。
小学校中学年 A－(1)	正しいことを行えないときの後ろめたさや，自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え，正しいと判断したことは自信をもって行い，正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。特に，正しくないと考えられることを人に勧めないことはもとより，人から勧められたときにきっぱりと断ったり，正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるように指導することが大切である。
小学校高学年 A－(1)	自由と自分勝手の違いや，自由だからこそできることやそのよさを考えたりして，自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。また，自由に伴う自己責任の大きさについては，自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して，多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが，自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を一層深めることにつながる。
中学校 A－(1)	小学校における指導内容を更に発展させ，より高次の自立心や自律性を高め，規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず，自己の気高さに気付かせ，何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても，自ら考え，判断し，自分の自由な意志に基づいて決定し，それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し，失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。 さらに，悪を悪としてはっきり捉え，それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは，自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で，善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付き，自分の行為の動機の純粋さにとどまらず，その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず，自らを律し，自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し，人間としての誇りをもった，責任ある行動がとれるように指導することが大切である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ａ　小学校「善悪の判断，自律，自由と責任」　中学校「自主，自律，自由と責任」＞

	学年	小１		小２		小３		小４		小5	小6	中１		中２		中３	
	教材名／指導の要点	ダメ	それって、おかしいよ	わすれられないえがお	おれたものさし	二つの声	SL公園で	ドッジボール	全校遠足とカワセミ	遠足の子どもたち	修学旅行の夜	傍観者でいいのか	父のひとこと	あの子のランドセル	金語楼さんのこと	ある日の午後から	スイッチ
低学年	よいことと人間としてしてはならないことを区別すること。	○	◎		○												
	よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こすこと。	◎		◎													
	よいと思ったことを進んで行うこと。		○	○	◎												
中学年	正しいことを行えないときの後ろめたさについて考えること。					◎		○									
	正しいことを行ったときの充実した気持ちについて考えること。								◎								
	正しいと判断したことを自信を持って行うこと。					○	○	◎	○								
	正しくないと判断したことは行わないようにすること。					○	◎		○								
	正しくないことを人から勧められたときにきっぱりと断ること。						○		○								
	正しくないと考えられることをしている人を止めること。						○	○									
高学年	自由と自分勝手の違いを考えること。										○						
	自由だからできることとそのよさを考えること。									○							
	自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感すること。									◎							
	自由に伴う自己責任の大きさを多面的・多角的に理解すること。										◎						
中学校	自己の気高さに気付くこと。														○		
	何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとること。											○	○	○		○	
	自分の自由な意志に基づいて決定し,それに対して責任をもたなければならないことを実感すること。												◎		○		◎
	悪を悪としてはっきり捉え，それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くこと。											◎		○			
	善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付くこと。															◎	
	自分の行為が及ぼす結果についても深く考えること。											○	○	◎		○	○
	自らを律し，自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し，人間としての誇りをもった，責任ある行動をとること。												○		◎		

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.30,31
(中) p.26,27

内容項目　小学校「正直，誠実」
中学校「自主，自律，自由と責任」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	うそをついたりごまかしたりしないで，素直に伸び伸びと生活すること。
小学校中学年	過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること。
小学校高学年	誠実に，明るい心で生活すること。
中学校	自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A－(2)	うそやごまかしをしないで明るい心で楽しく生活することの大切さを押さえておくことは，児童が成長の過程で健康的な自己像を確立していくためにも大切なことである。
小学校中学年 A－(2)	正直であるからこそ，明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し，この段階の活動的な特徴を生かしながら，児童それぞれが元気よく生活できるようにしていくことが望まれる。
小学校高学年 A－(2)	一人一人の誠実な生き方を大切にしながら，みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが大切である。一方で，よくないことと知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまうことは，決して心地のよいものではなく，後ろめたさから，誇りや自信を失ってしまうことにつながることを考えられるように指導することが必要である。
中学校 A－(1)	小学校における指導内容を更に発展させ，より高次の自立心や自律性を高め，規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず，自己の気高さに気付かせ，何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても，自ら考え，判断し，自分の自由な意志に基づいて決定し，それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し，失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。 さらに，悪を悪としてはっきり捉え，それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは，自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で，善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付き，自分の行為の動機の純粋さにとどまらず，その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず，自らを律し，自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し，人間としての誇りをもった，責任ある行動がとれるように指導することが大切である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ａ　小学校「正直，誠実」　中学校「自主，自律，自由と責任」＞

	学年	小１			小２		小３		小４		小５	小６	中１		中２		中３	
	教材名 / 指導の要点	どんぐり	あのね	いたずらがき	さるへいと立てふだ	金のおの	一本のアイス	ぬれた本～リンカーン	ひびが入った水そう	「あかいセミ」	見えた答案	手品師	傍観者でいいのか	父のひとこと	あの子のランドセル	金語楼さんのこと	ある日の午後から	廃品回収で学んだこと
低学年	うそやごまかしをしないで明るい心で楽しく生活することの大切さに気付くこと。	◎	◎	◎	◎	◎												
中学年	正直であるからこそ，明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解すること。						◎	◎	◎	◎								
高学年	一人一人の誠実な生き方を大切にしながら，みんなと楽しい生活ができるようにしていくこと。											○						
	よくないことと知りつつも周囲に流されることや傍観者として過ごすことは，誇りや自信を失うことにつながること。										◎							
中学校	自己の気高さに気付くこと。															○		
	何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとること。												○	○	○		○	
	自分の自由な意志に基づいて決定し，それに対して責任をもたなければならないことを実感すること。													◎		○		○
	悪を悪としてはっきり捉え，それを毅然として退け善を行おうとする心の大切さに気付くこと。												◎		○			
	善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付くこと。																◎	
	自分の行為が及ぼす結果について深く考えること。												○	○	◎		○	○
	自らを律し，自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し，人間としての誇りをもった，責任ある行動をとること。													○		◎		◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目　小学校「節度，節制」
　　中学校「節度，節制」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小)　p.32,33
(中)　p.28,29

発達段階に応じた指導

小学校低学年	健康や安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をすること。
小学校中学年	自分でできることは自分でやり，安全に気を付け，よく考えて行動し，節度のある生活をすること。
小学校高学年	安全に気を付けることや，生活習慣の大切さについて理解し，自分の生活を見直し，節度を守り節制に心掛けること。
中学校	望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け，安全で調和のある生活をすること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A－(3)	時刻を守り時間を大切にすることや，生活に一定のリズムを与え，わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり，そのような生活が快適な毎日を送ることにつながることに気付かせ，基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるように繰り返し指導する必要がある。
小学校中学年 A－(3)	適宜，自分でできることを考えさせるようにすることが求められる。また，低学年の内容として示されていた基本的な生活習慣に関する具体的な事項については，この段階では内容の表現上は省略されているが，児童の状況に応じて適宜，継続的に指導していく必要がある。
小学校高学年 A－(3)	基本的な生活習慣は心身の健康を維持増進し，活力のある生活を支えるものであることへの理解を一層深めるようにする必要がある。また，児童一人一人が自分の生活を振り返り，改善すべき点などについて進んで見直しながら，望ましい生活習慣を積極的に築くとともに，自ら節度を守り節制に心掛けるように継続的に指導することが求められる。
中学校 A－(2)	まず，小学校段階からの節度，節制の大切さについて理解を一層深めるとともに，生活全般にわたり安全に配慮して，心身の調和のある生活を送ることの意義をしっかりと考えることができるようにすることが大切である。そのために，そこでは行動の仕方や物事の処理の問題として捉えさせるだけでは十分ではない。心身の健康の増進，生涯にわたって学ぼうとする意欲や習慣，時間や物を大切にすること，常に安全に配慮して生活すること，望ましい生活習慣を身に付けることなどが，充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを，生徒自らが自覚できるようにすることが大切である。 さらに，改めて基本的な生活習慣や防災訓練，交通安全等の安全に関わる活動の意義について学ぶ機会を設けることが大切である。きまりある生活を通して自らの生き方を正し，節度を守り節制に心掛け，安全で調和のある生活の実現に努めることが，自分自身の将来を豊かにするものであることを自覚できるようにすることが何よりも重要である。単に日々の生活だけの問題ではなく，自らの生き方そのものの問題であり，人生をより豊かなものにすることとの関係で学ぶことができるようにすることが必要である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ａ　小学校「節度，節制」　中学校「節度，節制」＞

	学年	小１			小２			小３		小４		小５		小６		中１		中２		中３	
	教材名／指導の要点	じゅぎょうがはじまりますよ	きをつけて	かぼちゃのつる	じぶんでオッケー	「かむかむメニュー」	わがままな大男	ゆうすけの朝	こうすけならだいじょうぶ	いっしょになって、わらっちゃだめ	目ざまし時計	流行おくれ	大きなじこをよぶ「ヒヤリ・ハット」	お母さん、お願いね	「すんまへん」でいい	山に来る資格がない	古びた目覚まし時計	白ご飯を目指して―萩野公介	田老の生徒が伝えたもの	早朝ドリブル	スマホに夢中！
低学年	時刻を守り時間を大切にすることや，生活に一定のリズムを与え，わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切であることに気付くこと。	◎		◎			◎														
	規則正しい生活が，快適な毎日を送ることにつながることに気付くこと。		○		◎																
	基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるようにすること。		◎	○	○	◎															
中学年	自分でできることを考えること。								◎	◎											
	身の回りの安全に気を付けること。							◎			◎										
	自分自身で考えて行動し，度を過ごすことなく節度のある生活のよさを考えること。							○	○	○	○										
高学年	基本的な生活習慣は心身の健康を維持増進し，活力のある生活を支えるものであることを理解すること。														◎						
	生活を振り返り，改善すべき点などについて進んで見直しながら，望ましい生活習慣を築くこと。											○	◎	○							
	自ら節度を守り節制に心掛けながら望ましい生活習慣を築くこと。											◎	○	◎	○						
中学校	心身の健康の増進が充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。															○		◎		◎	
	生涯にわたって学ぼうとする意欲や習慣が充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																	○	○	○	
	時間や物を大切にすることが充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																○				
	常に安全に配慮して生活することが充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。															○			◎		◎
	望ましい生活習慣を身に付けることが充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																◎			○	
	きまりある生活を通して自らの生き方を正し，節度を守り節制に心掛け,安全で調和のある生活の実現に努めることが，自分自身の将来を豊かなものにすることを自覚すること。															◎	○				○

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目　小学校「個性の伸長」
中学校「向上心，個性の伸長」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小） p.34,35
（中） p.30,31

発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分の特徴に気付くこと。
小学校中学年	自分の特徴に気付き，長所を伸ばすこと。
小学校高学年	自分の特徴を知って，短所を改め長所を伸ばすこと。
中学校	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ａ－(４)	児童の長所を積極的に認め，励まし，児童自身が具体的な場面で芽生えてくる自分の長所にできるだけ多く気付き，実感していけるようにすることが，よさを伸ばすことにつながっていく。
小学校中学年 Ａ－(４)	友達など他者との交流の中で互いを認め合い，自己を高め合える場を設定したりして，長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切である。
小学校高学年 Ａ－(４)	この段階においては，自己の生き方を見つめ，自分の特徴を多面的・多角的に捉えることが必要である。そうすることにより，自分自身の長所と短所の両面が見えてくる。その際，まず，自分が気付いた長所に目を向けて現状を維持し続けることの大切さや，更に積極的に長所を伸ばそうとする態度を育てる必要がある。そして同時に自分の短所などもしっかり見極め，短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ，それを課題として改善していく努力も重ねつつ，自分自身を伸ばしていくことが大切である。また，自己を振り返って改めるところは改め，自己を高めようとする意欲や態度は，継続されなければ将来にわたっての自己実現とはならず，本当の個性にはなっていかない。 指導に当たっては，このことをよく理解し，具体的な実践を試みることができるようにすることも重要である。
中学校 Ａ－(３)	まず，短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえつつ，かけがえのない自己を肯定的に捉え（自己受容）させるとともに，自己の優れている面などの発見に努め（自己理解）させることが大切である。自分のよさは自分では分からないことが多いため，生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い，高め合う人間関係をつくっていくように指導することが重要となってくる。 さらに，自己との対話を深めつつ，自分自身のよさを伸ばしていくようにすることが大切である。例えば，優れた古典や先人の生き方との感動的な出会いを広げる中で，充実した人間としての生き方についての自覚を深め，これまで気付かなかった自分自身のよさや個性を見いだしていくこともある。教師は，生徒がそれぞれの人生で培ってきた個性を大切にし，生徒のよさの発見に努めなければならない。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ａ　小学校「個性の伸長」　中学校「向上心，個性の伸長」＞

	学年	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
	教材名 / 指導の要点	ええところ	ありがとう、りょうたさん	じゃがいもの歌	うめのき村の四人兄弟	感動したこと、それがぼくの作品～パブロ・ピカソ	あこがれのパティシエ～好きな道を歩む	自分の性格が大嫌い！	私は十四歳	ぼくにもこんな「よいところ」がある
低学年	自分の長所にできるだけ多く気付き，実感すること。	◎	◎							
中学年	他者との交流の中で，自分の長所を伸ばそうとすること。			◎	◎					
高学年	自分が気付いた長所に目を向け，積極的に長所を伸ばそうとすること。					◎	◎			
	短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ，短所を課題として改善していき，自分自身を伸ばそうとすること。					○				
	自己を振り返り，改めることは改め，高めようとする意欲や態度を継続しようとすること。						○			
中学校	短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ，自己を肯定的に捉えられること。							◎		
	自己の優れている面などの発見に努めること。							○	◎	○
	自己との対話を深めつつ，自分自身のよさを伸ばしていくこと。								○	◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.36,37
(中) p.32,33

内容項目　小学校「希望と勇気，努力と強い意志」
中学校「希望と勇気，克己と強い意志」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
小学校中学年	自分でやろうと決めた目標に向かって，強い意志をもち，粘り強くやり抜くこと。
小学校高学年	より高い目標を立て，希望と勇気をもち，困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
中学校	より高い目標を設定し，その達成を目指し，希望と勇気をもち，困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A－(5)	自分のやるべき勉強や仕事にはどのようなものがあり，しっかり行うことの意義を自覚させる必要がある。また，家族や教師の励ましや賞賛，適切な助言などの下に，自分がやるべき勉強や仕事を，自分がやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導することが大切である。やり遂げたときの喜びや充実感を味わい，努力した自分に気付くことができるように指導することが大切である。
小学校中学年 A－(5)	目標を立て，あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ，今よりよくなりたいという願い，努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。目標を実現するためには，自分自身の努力だけでなく，家族や教師など，周りの人の励ましや賞賛があることに気付き，粘り強く努力しようとする態度を育てることが大切である。
小学校高学年 A－(5)	苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き，失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ，希望をもつことの大切さや，希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して，児童の中により積極的で前向きな自己像が形成されるようにすることが大切である。
中学校 A－(4)	まず，生活の中で具体的な目標を設定させ，その実現に向けて努力する体験をさせ，その体験を振り返って，目標の達成には何が必要かを考えたり，自らの歩みを自己評価させたりすることが大切である。そして，達成できたときの成就感や満足感を繰り返し味わわせるとともに，希望をもつが故に直面する困難や失敗の体験を勇気をもって受け止め振り返る活動を通して，目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感させ，困難や失敗を乗り越える自分なりの方法について考えさせることが重要である。一方で，努力が全て思いどおりの結果に結び付くわけではない。したがって，教師は生徒の努力を評価し，挑戦することから逃げないで努力し続ける姿勢が大切であることを伝えていくことが重要である。 さらに，様々な人の生き方に学びながら，生涯をかけての理想や目標をもち，困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが，日々の生活を充実することにつながるとともに，文化や社会の発展を支える力ともなってきたことに気付かせることが大切である。また，困難や失敗を乗り越える強い意志や逆境から立ち直る力を育むには，積極的な自己像の形成や困難に直面したときの心構えについて繰り返し学習し，積極的な思考や行動を習慣化していく指導も効果的である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ａ　小学校「希望と勇気，努力と強い意志」　中学校「希望と勇気，克己と強い意志」＞

	学年	小１		小２		小３		小４		小５		小６		中１	中２	中３
	教材名 / 指導の要点	うかんだうかんだ	こぐまのらっぱ	さかあがりできたよ	ぼくは「のび太」でした	一りん車にのれた	「あんぱんの日」～木村安兵衛・英三郎	ぼくのへんしん	花丸手帳	いつも全力で	ベートーベン	心をつなぐ音色	夢	風を感じて―村上清加のチャレンジ	左手でつかんだ音楽	高い遠い夢
低学年	自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うことの意義を自覚すること。		◎		◎											
	自分がやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。			◎	○											
	やり遂げたときの喜びや充実感を味わい，努力した自分に気付くこと。	◎	○	○												
中学年	目標を立て，あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志をもつことについて考えを深めること。					◎			○							
	苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さについて考えを深めること。					○										
	今よりよくなりたいという願いについて考えを深めること。					○	○	◎								
	努力しようとする姿について考えを深めること。						◎		○							
	目標を実現するためには，自分自身の努力だけでなく，周りの人の励ましや賞賛があることに気付くこと。					○	○	○								
	粘り強く努力しようとすること。								◎							
高学年	希望をもつことの大切さについて考えること。									◎	○	◎	○			
	希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えること。									○	◎	○	◎			
中学校	生涯をかけての理想や目標をもち，困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが，日々の生活を充実することにつながることに気付くこと。													○		◎
	生涯をかけての理想や目標をもち，困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが，文化や社会の発展を支える力になってきたことに気付くこと。														◎	
	積極的な自己像の形成や困難や失敗に直面したときの心構えについて考えること。													◎	○	○

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目　小学校「真理の探究」
中学校「真理の探究，創造」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小)　p.38,39
(中)　p.34,35

発達段階に応じた指導

小学校高学年	真理を大切にし，物事を探究しようとする心をもつこと。
中学校	真実を大切にし，真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年	
小学校中学年	
小学校高学年 A－(6)	真理を求める態度を大切にし，物事の本質を見極めようとする知的な活動を通して興味や関心を刺激し，探究する意欲を喚起させることが大切である。そのためには，物事を多面的・多角的に見ようとする開かれた心をもって，疑問を探究し続けることの大切さを実感させることである。また，生活の中で思い付いたことをそのままにすることなく，自分の生活を少しでもよりよくしていくために工夫していこうとする心を育てることが，新たな見方や考え方の発見や創造につながる。このように日々の生活の充実とその指導を通して，将来の夢や理想を実現することにつながっていく。
中学校 A－(5)	まず，生徒自身の学習体験を振り返りながら，分からないことを謙虚に受け止めて探究し続け，真理や真実を求めつつ，好奇心をもって意欲的に学び，工夫して新しいものを創造していこうとする積極的な態度を育てることが重要である。一般的に，科学的な真実や真理は個々の具体的な自然現象や社会現象の背景にあるものであり，何もないところから突然生まれるものではない。したがって，真実や真理の探究には，広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心や，結論を鵜呑みにせずに論理的・批判的に考える姿勢が必要であることに気付かせ，疑問や問いを探究し続けることが新たな見方や考え方の発見や創造につながり，自分の生涯を豊かにすることにつながることを自覚できるようにすることが必要である。 さらに，真実や真理を探究して社会の発展や学問，科学技術に貢献した人々の生き方に学ぶとともに，それらの人々の探究心を支えたものについて考え，生徒が自らの生き方に生かすことができるよう工夫することが重要である。また，高等学校段階への発展を踏まえて，葛藤や論争のある問題を道徳的な視点で取り上げ，よりよい解決を目指して協働で探究することを通して，生徒がアイディアを出し合って，よりよい見方や考え方を主体的・協働的に創っていく学習活動を実践し，創意工夫して新しい見方や考え方を生み出すことを生徒が身近なこととして体験できるようにすることが大切である。

「指導の要点」と教材関連表　＜A　小学校「真理の探究」　中学校「真理の探究，創造」＞

	学年	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
	教材名 / 指導の要点					ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ	まんがに命を～手塚治虫 日本のテレビアニメの生みの親	「どうせ無理」という言葉に負けない	赤土の中の真実	日本から世界へ、そして宇宙へ ―インスタントラーメンの誕生
低学年										
中学年										
高学年	物事を多面的･多角的に見ようとする開かれた心をもって，疑問を探究し続けることの大切さを実感すること。					◎	○			
	生活をよりよくしていくために工夫していこうとすること。					○	◎			
中学校	分からないことを謙虚に受け止め探究し続け，真理や真実を求めつつ，好奇心をもって意欲的に学び，工夫して新しいものを創造していこうとすること。							◎		○
	真実や真理の探究には，広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心が必要であることに気付くこと。							○		
	真実や真理の探究には，結論を鵜呑みにせずに論理的・批判的に考える姿勢が必要であることに気付くこと。								○	
	疑問や問いを探究し続けることが新たな見方や考え方の発見や創造につながり，自分の生涯を豊かにすることを自覚すること。								◎	○
	真実や真理を探究して社会の発展や学問，科学技術に貢献した人々の生き方を学ぶとともに，それらの人々の探究心を支えたものについて考え，自分の生き方に生かすこと。							○	○	◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目　小学校「親切，思いやり」
　　中学校「思いやり，感謝」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小）p.40,41
（中）p.36,37

発達段階に応じた指導

小学校低学年	身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。
小学校中学年	相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
小学校高学年	誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｂ－(6)	幼い人や高齢者，友達など身近にいる人に広く目を向けて，温かい心で接し，親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして，身近にいる様々な人々との触れ合いの中で，相手のことを考え，優しく接することができるようにすることが求められる。また，その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし，具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。
小学校中学年 Ｂ－(6)	相手の置かれている状況，困っていること，大変な思いをしていること，悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え，親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。
小学校高学年 Ｂ－(7)	特に相手の立場に立つことを強調する必要があり，自分自身が相手に対してどのように接し，対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また，人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え，思いやりの心とそれが伴った親切な行為を，児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには，児童が多様な人々と触れ合い，助け合って何かをするような機会を増やすとともに，それらの体験を生かし，思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。
中学校 Ｂ－(6)	まず，単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく，根本において自分も他者も，共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。そして，思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が，今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ，結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。 さらに，重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは，決して容易なことではない。これらのことを踏まえた上で，互いに支え合う経験を積みながら，温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし，人間として生きることに喜びを見いだすとともに，思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。なお，感謝の心は，他者との関わりに始まり，多くの社会の人々への感謝，さらには自然の恵みへの感謝へと次第に広がっていくものである。したがって，Ｃの視点やＤの視点との関連を図りつつ指導する必要がある。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｂ　小学校「親切，思いやり」　中学校「思いやり，感謝」＞

		小１			小２			小３			小４			小５		小６		中１		中２		中３	
	教材名／指導の要点	はしのうえのおおかみ	おばあちゃんがわらった	ぼくのはなさいたけど	くまくんのたからもの	かっぱわくわく	学きゅうえんのさつまいも	やさしい人大さくせん	一さつのおくりもの	六べえじいとちよ	なにかお手つだいできることはありますか？	ゆうきの心配	ポロといっしょ	ノンステップバスでのできごと	くずれ落ちただんボール箱	みんないっしょだよ～黒柳徹子	心に通じた「どうぞ」のひとこと	その人が本当に望んでること／思いやりの日々	心をつなぐバス	愛	心に寄りそう	埴生の宿	一冊の漫画雑誌
低学年	身近にいる人に広く目を向けて，温かい心で接し，親切にすることの大切さについて考えを深めること。		○	○		◎	○																
	身近にいる様々な人との触れ合いの中で相手のことを考え，優しく接すること。	○	◎		○	○	◎																
	優しく接することの結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れ，具体的に親切な行為ができるようにすること。	◎		◎	◎																		
中学年	相手の置かれている状況，困っていること，大変な思いをしていること，悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像して相手のことを考えること。							○	◎	◎	○	◎	◎										
	親切な行為を自ら進んで行うことができるようにすること。							◎	○	○	◎	○	○										
高学年	相手の立場に立ち，自分自身が相手に対してどのように接し，対処することが相手のためになるのかをよく考えること。													◎	◎	◎	○						
	人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え，思いやりを伴った親切な行為を全ての人に広げること。														○		◎						
中学校	自分も他者も共にかけがえのない存在であるということを自覚すること。																			◎		○	
	思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が，今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考え，結果として自己と他者との心の絆をより強くすることに気付くこと。																		◎		○	◎	
	重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは，容易なことではないことに気付くこと。																	◎				○	
	人間として生きることに喜びを見いだすとともに，思いやりと感謝の心と態度について考えること。																	○		○	◎		○
	感謝の心は，他者との関わりに始まり，多くの社会の人々への感謝，さらに自然の恵みへの感謝と次第に広がっていくことに気付くこと。																		○				◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.42,43
(中) p.36,37

内容項目　小学校「感謝」
中学校「思いやり，感謝」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。
小学校中学年	家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に，尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
小学校高学年	日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それに応えること。
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｂ－(7)	感謝の対象や具体的な内容を教師が適切に示す必要がある。世話をしてくれる人々の善意に気付き，感謝する気持ちを具体的な言葉に表し，行動に表す指導が求められる。
小学校中学年 Ｂ－(7)	自分の生活を支えてくれる人の思いを考え，その人たちの存在意義に対する理解を深め，尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。
小学校高学年 Ｂ－(8)	過去から，人々が何を願い，何を残し伝えてきたのか，それは自分の生活とどう関わり，支えられているのかに気付くことができるようにすることが大切である。支え合い助け合おうとする人々の善意に気付き感謝する心情や態度を育て，自他を尊重する温かな人間関係を築くことのできる資質・能力を育てることが求められる。温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し，人々の善意に応えて自分は何をすべきかを自覚し，進んで実践できるようにするところまで指導する必要がある。
中学校 Ｂ－(6)	まず，単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく，根本において自分も他者も，共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。そして，思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が，今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ，結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。 さらに，重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは，決して容易なことではない。これらのことを踏まえた上で，互いに支え合う経験を積みながら，温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし，人間として生きることに喜びを見いだすとともに，思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。なお，感謝の心は，他者との関わりに始まり，多くの社会の人々への感謝，さらには自然の恵みへの感謝へと次第に広がっていくものである。したがって，Ｃの視点やＤの視点との関連を図りつつ指導する必要がある。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｂ　小学校「感謝」　中学校「思いやり，感謝」＞

	学年	小１		小２	小３	小４	小５	小６	中１		中２		中３	
	教材名／指導の要点	がっこうにはね	みんなだれかに	じぶんがしんごうきに	大通りのサクラなみ木	紙しばいをつくって発表しよう	「ありがとう上手」に	土石流の中で救われた命	その人が本当に望んでること／思いやりの日々	心をつなぐバス	心に寄りそう	愛	一冊の漫画雑誌	埴生の宿
低学年	世話をしてくれる人々の善意に気付くこと。	◎	○	◎										
	感謝する気持ちを具体的な言葉に表し，行動に表すことができるようにすること。	○	◎	○										
中学年	自分の生活を支えてくれる人の思いを考え，その人たちの存在意義に対する理解を深めること。				◎	○								
	自分の生活を支えてくれる人に尊敬と感謝の念をもって接すること。					◎								
高学年	過去の人々の願いや残し伝えてきたことが，自分の生活とどう関わり，支えられているのかに気付くこと。							○						
	支え合い助け合おうとする人々の善意に気付き感謝することで，自他を尊重する温かな人間関係を築くこと。						○	◎						
	温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝すること。						◎							
	人々の善意に応えて自分は何をすべきかを自覚し，進んで実践すること。						○	○						
中学校	自分も他者も共にかけがえのない存在であるということを自覚すること。											◎		○
	思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が，今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考え，結果として自己と他者との心の絆をより強くすることに気付くこと。									◎	○			◎
	重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは，決して容易なことではないことに気付くこと。								◎					○
	人間として生きることに喜びを見いだすとともに，思いやりと感謝の心と態度について考えること。								○		◎	○	○	
	感謝の心は，他者との関わりに始まり，多くの社会の人々への感謝，さらに自然の恵みへの感謝へと次第に広がっていくことに気付くこと。									○			◎	

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目　小学校「礼儀」
　　中学校「礼儀」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小)　p.44,45
(中)　p.38,39

発達段階に応じた指導

小学校低学年	気持ちのよい挨拶，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接すること。
小学校中学年	礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接すること。
小学校高学年	時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接すること。
中学校	礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｂ－(８)	日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶などについて，具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせることが重要である。また，外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀についても考えさせることが重要である。
小学校中学年 Ｂ－(８)	この段階の児童が気の合う友達同士で仲間集団をつくる傾向が見られるため，誰に対しても真心をもって接する態度を育てるようにすることが特に重要である。人に頼むときや失敗して謝るときなど人との関わりを通して，真心は相手に態度で示すことができることに気付かせることもできる。また，家庭や地域社会での日常の挨拶，学習や給食の際の態度，校外学習など見学先での振る舞いなどについて考えさせることも大切である。
小学校高学年 Ｂ－(９)	行動範囲の広がりとともに様々な人との関わりも増えてくることから，挨拶などの礼儀は社会生活を営む上で欠くことのできないものであることを押さえ，礼儀作法の形にこめられた相手を尊重する気持ちを児童自身の体験などを通して考えさせることが効果的である。また，礼儀に対する意識を高めるために，自分の一日の生活の中にある礼儀を見直したり，武道や茶道など我が国に古くから伝わる礼儀作法を重視した文化に触れたりすることも考えられる。
中学校 Ｂ－(７)	まず，教えられ無意識に習慣として実践してきた受け身の姿勢から，挨拶の意義などを主体的に考え理解し，例えば，時・場所・場面（ＴＰＯ）に応じて，自ら挨拶をしてからお辞儀をするなど，適切な言葉や行動ができる自律した態度へ変わっていくことが求められる。日常生活において，時と場に応じた適切な言動を体験的に学習するとともに，形の根底に流れる礼儀の意義を深く理解できるようにすることが大切である。心情面を整えることによって，形として外に表すことができるようになることもある。 さらに，礼儀の形は時代や社会によって変わる相対的な面をもっている一方で，その精神は伝統として受け継がれるものもある。例えば我が国には伝統的な礼儀作法があるように，他国にもそれぞれの国に応じた礼儀作法がある。国際化の進展に伴い他国の人々に接する機会が多くなった今日，他国の礼儀についても理解を深め，他国の人々に気持ちよく接することができるように指導することが大切である。礼儀は，相手を人間として尊重する精神の現れであることを十分に理解させ，時と場に応じて主体的に適切な言動が行われることが求められている。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｂ　小学校「礼儀」　中学校「礼儀」＞

	学年	小１		小２		小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３
	教材名 / 指導の要点	あいさつ	おうだんほどうで	いそいでいても	「あいさつ」っていいな	あいさつをすると	「ありがとう」の言葉	オーストラリアで学んだこと	心を形に	朝市の「おはようございます」	あいさつ	言葉おしみ
低学年	日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶などについて，実感的に理解を深めること。	◎	◎	○	◎							
低学年	外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀について考えること。	○	○	◎	○							
中学年	誰に対しても真心をもって接すること。					○	◎					
中学年	真心は相手に態度で示すことができることに気付くこと。						○					
中学年	家庭や地域社会での日常の挨拶，学習や給食の際の態度，校外学習など見学先での振る舞いなどについて考えること。					◎						
高学年	挨拶などの礼儀は社会生活を営む上で欠くことのできないものであることを押さえること。							◎				
高学年	相手を尊重する気持ちを自分自身の体験などを通して考えること。								○			
高学年	礼儀に対する意識を高めること。							○	◎			
中学校	挨拶の意義などを主体的に考え，理解すること。									◎	○	
中学校	形の根底に流れる礼儀の意義を深く理解すること。										◎	○
中学校	他国の礼儀についても理解を深め，他国の人々に気持ちよく接することができるようにすること。									○		
中学校	礼儀は，相手を人間として尊重する精神の現れであることを十分に理解すること。											◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小） p.46,47
（中） p.40,41

内容項目　小学校「友情，信頼」
中学校「友情，信頼」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	友達と仲よくし，助け合うこと。
小学校中学年	友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと。
小学校高学年	友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。
中学校	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｂ－(９)	特に身近にいる友達と一緒に，仲よく活動することのよさや楽しさ，助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また，友達とけんかをしても，友達の気持ちを考え，仲直りできるようにする。そのためには，友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら，友達と仲よくする大切さを育んでいくようにする必要がある。
小学校中学年 Ｂ－(９)	友達のことを互いによく理解し，信頼し，助け合うことで，健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには，友達のよさを発見することで友達のことを理解したり，友達とのよりよい関係の在り方を考えたり，互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。
小学校高学年 Ｂ－(10)	健全な友達関係を育てていくことが一層重要になる。この段階が第二次性徴期に入るため，異性に対する関心が強まり，これまでとは異なった感情を抱くようになる。この異性間の在り方も根本的には同性間におけるものと同様，互いの人格の尊重を基盤としている。異性に対しても，信頼を基にして，正しい理解と友情を育て，互いのよさを認め，学び合い，支え合いながらよい関係を築こうとすることに配慮して指導することが大切である。
中学校 Ｂ－(８)	まず，友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であること，互いの個性を認め，相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させたい。友達であるからこそ，悩みや葛藤を経験し，共にそれを乗り越えることで，生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築くことができることへの自覚が重要である。友情は，人間にとってその人生を豊かにするかけがえのないものである。友情によって喜びは何倍にもなり，悲しみや苦しみは分かち合うことができる。人間として互いの人格を尊敬し高め合い，悩みや葛藤を克服することで，より一層深い友情を構築していこうとする意欲や態度を育んでいくことが肝要である。 さらに，自分から友情を築くための共通の課題について考えを深めたり，互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築かれることに気付いたりするための工夫が望まれる。そして，自ら友情を大切にし，育てようとする態度を育てることや，信頼を基盤として成り立つ友情が人間として生きる上で，いかに尊いものであるかを実感できるよう指導を工夫する必要がある。異性であっても，相手のものの見方や考え方を理解するなど，友情を築き，共に成長しようとする姿勢が求められる。各自の異性に対する姿勢を見直すきっかけとなるよう指導することも必要である。相手の内面的なよさに目を向け，相手の成長を心から願って互いに励まし合い，忠告し合える信頼関係のよさを味わわせたい。また，友情を培うために自分はどうあればよいか，友情とは何か，などについて発達の段階に応じて意見を交換し合うなど，発展的な指導を心掛けることも重要である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｂ　小学校「友情，信頼」　中学校「友情，信頼」＞

	学年	小１		小２		小３		小４		小５		小６		中１		中２		中３	
	教材名／指導の要点	こころはっぱ	二わのことり	ともだちやもんな、ぼくら	森のともだち	いいち、にいっ、いいち、にいっ	なかよしだから	ぼくらだってオーケストラ	大きな絵はがき	心のレシーブ	友の命	ばかじゃん！	言葉のおくりもの	班での出来事	短文投稿サイトに友達の悪口を書くと	みんなでとんだ！	ゴール	ライバルどうしの友情―スピードスケート　小平奈緒と李相花	合格通知
低学年	身近にいる友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさを実感すること。	◎	◎	○															
	身近にいる友達と一緒に助け合うことの大切さを実感すること。	○		◎	○														
	友達とけんかをしても，友達の気持ちを考え，仲直りできるようにすること。				◎														
中学年	友達のことを互いによく理解し，信頼し，助け合うことで，健全な仲間集団を積極的につくろうとすること。						○		○										
	友達のよさを発見することで友達のことを理解すること。					◎		◎											
	友達とのよりよい関係の在り方を考えること。						◎	○	◎										
	互いに助け合うことで友達の大切さを実感すること。					○		○											
高学年	健全な友達関係を育てていくこと。										○	◎	○						
	異性に対しても信頼を基にして，正しい理解と友情を育てること。									◎			◎						
	互いのよさを認め，学び合い，支え合いながらよい関係を築こうとすること。									○	◎								
中学校	友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であることを理解すること。														○		○		○
	互いの個性を認め，相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解すること。													○		◎		○	
	友達であるからこそ，悩みや葛藤を経験し，共にそれを乗り越えることで，生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築くことができることを自覚すること。																◎	○	○
	人間としての互いの人格を尊敬し高め合い，悩みや葛藤を克服することで，より一層深い友情を構築しようとすること。													○		○	○	◎	
	自分から友情を築くための共通の課題について考えを深めること。															○			
	互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築かれることに気付くこと。															○	○		
	自ら友情を大切にし，育てようとすること。														○				
	信頼を基盤として成り立つ友情が人間として生きる上で，いかに尊いものであるかを実感すること。														○	○		○	◎
	異性であっても相手のものの見方や考え方を理解するなど，友情を築き，共に成長しようとする異性に対する姿勢を見直すこと。													◎					
	相手の内面的なよさに目を向け，相手の成長を心から願って互いに励まし合い，忠告し合える信頼関係のよさを味わうこと。													○	◎				○

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目　小学校「相互理解，寛容」
　　中学校「相互理解，寛容」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小）ｐ.48,49
（中）ｐ.42,43

発達段階に応じた指導

小学校中学年	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすること。
小学校高学年	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
中学校	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高めていくこと。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年	
小学校中学年 Ｂ－(10)	相手の言葉の裏側にある思いを知り，相手への理解を深め，自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付くようにすることが大切である。日常の指導においては，児童同士，児童と教師が互いの考えや意見を交流し合う機会を設定し，異なる考えや意見を大切にすることのよさを実感できるように指導することが大切である。
小学校高学年 Ｂ－(11)	広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで，違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや，相手の過ちなどに対しても，自分にも同様のことがあることとして謙虚な心，広い心で受け止め，適切に対処できるように指導することが大切である。
中学校 Ｂ－(９)	まず，個性とは何かについて正しく理解するとともに，自らの意志に背いて他に同調するのではなく，自分の考えや意見を伝えること，そして互いの個性や立場を尊重し，広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てることが大切である。中学生は，他者の考えや立場を尊重し調和して生活していかなければならないと知っているが，その一方で，寛容に生きていくための処世の術のように理解していないか，問わなくてはならない。寛容は，他人の過ちを大目に見たり，見て見ぬふりをしたりすることではない。他人の過ちを許すことは，他人の不正を許すことではないのである。 さらに，いろいろなものの見方や考え方から学び，自分自身を高め，他者と共に生きるという自制を伴った気持ちで，判断し行動することの大切さを理解できるような指導の工夫が必要になる。このような指導を通して，例えばいじめや不正を見逃さず，排除しようとする主張や不正を指摘する資質や能力を培うことにつなげることができる。この内容項目の学習を通して，人間が相互に個性や立場を尊重することが，自分の人生にとってどのような価値をもつのか考えるとともに，誰もが様々な立場に立って個性を発揮することのよさと，相手や場面が変わっても，寛容の心をもち謙虚に他に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解できるようにすることが大切である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｂ　小学校「相互理解，寛容」　中学校「相互理解，寛容」＞

	学年	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１		中２		中３	
	教材名 / 指導の要点			たまちゃん、大すき	合い言葉は「話せばわかる！」	名医、順庵	銀のしょく台	いじめに当たるのはどれだろう	落語が教えてくれること	遠足で学んだこと	「注文のまちがえる料理店」	しあわせ	心にしみこむ“言葉の力” ―池上彰
低学年													
中学年	相手の言葉の裏側にある思いを知り，相手への理解を深めること。			◎									
	相手からの理解が得られるように思いを伝えること。				◎								
	異なる意見を大切にすることのよさを実感すること。				○								
高学年	広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。						◎						
	自分と異なる意見や立場を尊重することで，違いを生かしたよいものが生まれるといったよさを知ること。					○							
	相手の過ちなどに対しても謙虚な心，広い心で受け止め，適切に対処できるようにすること。					◎	○						
中学校	個性について正しく理解すること。								○			◎	
	自らの意志に背いて他に同調するのではなく，自分の考えや意見を伝えること。									○			
	互いの個性や立場を尊重し，広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとすること。								◎		○		○
	他者と共に生きるという自制を伴った気持ちで判断し行動することの大切さを理解すること。							◎					
	人間が相互に個性や立場を尊重することが，自分の人生にとってどのような価値をもつのか考えること。										◎	○	
	誰もが様々な立場に立って個性を発揮することのよさを理解すること。									◎	○		
	相手や場面が変わっても寛容の心をもち謙虚に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解すること。												◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.50,51
(中) p.44,45

内容項目　小学校「規則の尊重」
中学校「遵法精神，公徳心」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にすること。
小学校中学年	約束や社会のきまりの意義を理解し，それらを守ること。
小学校高学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り，自他の権利を大切にし，義務を果たすこと。
中学校	法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよい在り方について考え，自他の権利を大切にし，義務を果たして，規律ある安定した社会の実現に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C－(10)	身近な約束やきまりを取り上げ，それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し，しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また，みんなで使う物や場所を進んで大切にし，工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。
小学校中学年 C－(11)	一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し，それらを守るように指導していくことが大切である。さらに，社会集団を維持発展する上で，社会生活の中において守るべき道徳としての公徳を進んで大切にする態度にまで広げていく必要がある。特に，集団生活をする上で，一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くことや，集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分考えることが必要である。
小学校高学年 C－(12)	社会生活を送る上で必要であるきまりや，国会が定めるきまりである法（法律）などを進んで守り従うという遵法の精神をもつところまで高めていく必要がある。また，他人の権利を理解，尊重し，自分の権利を正しく主張するとともに，義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め，自分に課された義務についてはしっかり果たそうとする態度を育成することが重要である。また，身近な集団生活を送る上においても，みんなで互いの権利を尊重し合い，自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動ができるようにする必要がある。
中学校 C－(10)	まず，法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり，それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められる。自他の権利を大切にし，義務を果たすことで，互いの自由意志が尊重され，結果として規律ある安定した社会が実現することを理解した上で，社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て，日々の実践に結び付ける指導が必要である。その際，法やきまりを守ることは，自分勝手で放縦な反発等に対してそれらを許さないという意思をもつことと表裏の関係にある。 さらに，法やきまりの他律的な捉え方を越えて，「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができるようになるため，遵法精神には，「自分を裏切らない」という自尊心と，目の前の相手の心情に思いを巡らせ，外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心が関わっていることに気付かせる指導が求められる。また，高等学校段階への発展を踏まえて，自分たちを拘束すると感じる法やきまりが自分たちを守るだけでなく，自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせ，よりよいものに変えていこうとするなど積極的に法やきまりに関わろうとする意欲や態度を育てるとともに，権利と義務の関係について，例えば法的に強制力のない義務を果たすことが理性的な人間としての生き方につながることを考えさせるなど，公徳心に関わる道徳性を意識した指導の工夫が必要である。これらのことを踏まえて，自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら，「私」を大切にする心と「公」を大切にする心の関係について考えを深めさせることが望まれる。

「指導の要点」と教材の関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「規則の尊重」　中学校「遵法精神，公徳心」＞

	学年	小１		小２		小３		小４		小５		小６		中１		中２		中３	
	教材名／指導の要点	よりみち	みんなのボール	きいろいベンチ	かくしたボール	きまりじゃないか	黄色いかさ	日曜日のバーベキュー	雨のバスていりゅう所で	駅前広場はだれのもの	これって「けんり」？これって「ぎむ」？	ピアノの音が	星野君の二るい打	選手に選ばれて	ごみ箱をもっと増やして	宝塚方面行き―西宮北口駅	「いいね」のために？	缶コーヒー	二通の手紙
低学年	身近な約束やきまりは，みんなが気持ちよく過ごすためにあることを理解すること。		○	◎															
	身近な約束やきまりは，みんなが安心して過ごすためにあることを理解すること。	◎																	
	身近な約束やきまりをしっかりと守ろうとすること。				◎														
	みんなで使う物や場所を進んで大切にし，工夫して使おうとすること。		◎	○	○														
中学年	一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し，守ること。							◎											
	社会集団を維持発展する上で，社会生活の中において守るべき道徳としての公徳を進んで大切にすること。						◎		○										
	集団生活をする上で，一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くこと。								◎										
	集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分考えること。					◎													
高学年	社会生活を送る上で必要であるきまりや，法律などを進んで守り従うという遵法の精神をもつこと。									◎									
	他人の権利を理解，尊重し，自分の権利を正しく主張すること。										○								
	義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについて考えを深めること。										◎	○							
	自分に課せられた義務についてはしっかり果たそうとすること。												◎						
	みんなで互いの権利を尊重し合い，自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動をしようとすること。											◎	○						
中学校	法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり，それを遵守することの大切さについて自覚すること。															◎			◎
	自他の権利を大切にし，義務を果たすことで，互いの自由意志が尊重され，結果として規律ある安定した社会が実現することを理解すること。													◎		○		○	
	社会の秩序と規律を自ら高めていこうとすること。														○			◎	
	法やきまりの他律的な捉え方を越えて，「尊重したいから守る」という自律的な捉え方をすること。															○			
	自分たちを拘束すると感じる法やきまりが自分たちを守るだけでなく，自分たちの社会を安定的なものにしていることを考え，積極的に法やきまりに関わろうとすること。														◎				○
	権利と義務の関係について，法的に強制力のない義務を果たすことが理性的な人間としての生き方につながることを考えること。													○			○		
	自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら「私」を大切にする心と「公」を大切にする心の関係について考えを深めること。																◎		

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目　小学校「公正，公平，社会正義」
　　中学校「公正，公平，社会正義」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.52,53
(中) p.46,47

発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。
小学校中学年	誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接すること。
小学校高学年	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し，正義の実現に努めること。
中学校	正義と公正さを重んじ，誰に対しても公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C－(11)	日常の指導において，公正，公平な態度に根ざした具体的な言動を取り上げて，そのよさを考えさせるようにすることが大切である。また，偏見や差別が背景にある言動については，毅然として是正することが必要である。これらの指導を通して，児童が誰に対しても公正，公平に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C－(12)	不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに，そのことが人間関係や集団生活に支障を来たしいじめなどにつながることを理解させることが求められる。誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接することができるようにすることが重要である。
小学校高学年 C－(13)	不正な行為は絶対に行わない，許さないという断固たる態度を育てることが大切である。日頃から自分自身の考えをしっかりもち，同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意志を強くもったり，学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど，周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てるようにする。また，社会的な差別や不公正さなどの問題はいまだに多く生起している状況があるため，これらについて考えを巡らせ，社会正義の実現について考え，自覚を深めていく指導を適切に行うことが大切である。
中学校 C－(11)	まず，自己中心的な考え方から脱却して，公のことと自分のこととの関わりや社会の中における自分の立場に目を向け，社会をよりよくしていこうとする気持ちを大切にする必要がある。また，「見て見ぬふりをする」や，「避けて通る」という消極的な立場ではなく，不正を憎み，不正な言動を断固として否定するほどの，たくましい態度が育つように指導することが大切である。 さらに，この世の中から，あらゆる差別や偏見をなくすように努力し，望ましい社会の理想を掲げ，正義が通り，公平で公正な社会の実現に積極的に努めるよう指導する必要がある。 なお，正義の実現を目指す社会の在り方について考えることは，社会科における公民的分野の学習や，特別活動における集団生活の向上についての学習とも関連させ取り組むことが求められる。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「公正，公平，社会正義」　中学校「公正，公平，社会正義」＞

	学年	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１		中２		中３	
	教材名 / 指導の要点	みんないっしょ	大すきなフルーツポンチ	みさきさんのえがお	となりのせき	転校生がやってきた	田中正造	席替え	いじめっ子の気持ち	私のせいじゃない	渡良瀬川の鉱毒	無実の罪	伝えたいことがある
低学年	公正，公平な態度に根差した言動のよさを考えること。	○											
	偏見や差別が背景にある言動については，毅然として是正すること。		○										
	誰に対しても公正，公平に接することのよさを実感できるようにすること。	◎	◎										
中学年	不公平な態度が周囲に与える影響を考えること。			○	◎								
	不公平な態度が人間関係や集団生活に支障を来たしいじめなどにつながることを理解すること。				○								
	誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接することができるようにすること。			◎	○								
高学年	不正な行為は絶対に行わない，許さないこと。					○							
	周囲の雰囲気や人間関係に流されないこと。					○							
	社会的な差別や不公正さなどの問題について考えを巡らせ，社会正義の実現について考え，自覚を深めること。						◎						
中学校	公のことと自分のこととの関わりや社会の中における自分の立場に目を向け，社会をよりよくしていこうとする気持ちを大切にすること。								○	◎		○	○
	不正を憎み，不正な言動を断固として否定すること。							○		○		◎	
	この世の中から，あらゆる差別や偏見をなくすように努力し，望ましい社会の理想を掲げ，正義が通り，公平で公正な社会の実現に積極的に努めること。							◎	◎		◎	○	◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目　小学校「勤労，公共の精神」
　　中学校「社会参画，公共の精神」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小)　p.54,55
(中)　p.48,49

発達段階に応じた指導

小学校低学年	働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。
小学校中学年	働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。
小学校高学年	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。
中学校	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め，公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｃ－(12)	学級の清掃や給食などの当番活動，学級生活の充実に向けた係活動，家庭や地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとする意欲や態度に結び付けていくことが求められる。
小学校中学年 Ｃ－(13)	特に，身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考え，自分ができる仕事を見付けたり，集団生活の向上につながる活動に参加したりして，みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことが重要になる。
小学校高学年 Ｃ－(14)	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また，ボランティア活動など，社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとする態度を育てることが望まれる。
中学校 Ｃ－(12)	まず，学級活動や生徒会活動に積極的に参画するなどの体験を生かして，社会参画や社会連帯についての考えを深めさせ，現実の学校生活に生かすことができるよう公共の精神についての考えを深めさせることが大切である。生徒一人一人に自分も社会の一員であるという自覚を深めるようにして，互いに積極的に協力し合おうとする意欲を育てるように工夫することが必要である。 さらに，よりよい社会を実現するためには，社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身に付けるとともに，進んで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる必要がある。そして，進んで社会的な責任を果たすために，どのような行動を取るべきかを主体的に考えられるようにすることが重要になる。また，この内容項目を通じて，例えば，生徒が将来，選挙権を付与される年齢に達した際には，自分も社会の一員であるという認識のもと，積極的に権利を行使するという，主体的に社会に参画し，その発展に寄与する態度を養うという視点も重要である。 また，例えば，社会科の公民的分野での社会参画や社会連帯の在り方や公共の精神の学習など，他教科等と関連付けたり，高等学校段階への発展につなげたりすることも必要である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「勤労，公共の精神」　中学校「社会参画，公共の精神」＞

	学年	小１	小２	小３		小４		小５		小６		中１		中２		中３	
	教材名 / 指導の要点	ぼくのしごと	いま、ぼくにできること	ごみステーション	教えて！なんでもそうだん室	「もっこ」をせおって	点字メニューにちょうせん	お父さんは救命救急士	わたしのボランティア体験	うちら「ネコの手」ボランティア	桜守の話	楽寿号に乗って	本が泣いています	住みよい社会に	今度は私の番だ	加山さんの願い	社会からの無言の賞賛を感じる感性
低学年	学校や家庭，地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとすること。	◎	◎														
中学年	身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考えること。				◎												
	身の回りの生活の中で，自分ができる仕事を見付け，みんなのために働こうとすること。					◎	○										
	集団生活の向上につながる活動に参加し，みんなのために働こうとすること。			◎	○	○	◎										
高学年	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えること。							○			◎						
	社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解すること。								◎	◎							
	勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとすること。							◎	○	○	○						
中学校	社会参画や社会連帯についての考えを深め，現実の生活に生かすことができるよう，公共の精神についての考えを深めること。												○	○			
	自分も社会の一員であるという自覚を深め，互いに積極的に協力し合おうとすること。											○				○	○
	社会生活において互いに迷惑をかけることのない行動の仕方を身に付けること。												◎	◎			
	進んで社会と関わり，積極的な生き方を模索しようとすること。											◎			◎	◎	○
	進んで社会的な責任を果たすために，どのような行動を取るべきかを主体的に考えること。											○			○	○	◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目　小学校「勤労，公共の精神」
中学校「勤労」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小） p.54,55
（中） p.50,51

発達段階に応じた指導

小学校低学年	働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。
小学校中学年	働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。
小学校高学年	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。
中学校	勤労の尊さや意義を理解し，将来の生き方について考えを深め，勤労を通じて社会に貢献すること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｃ－(12)	学級の清掃や給食などの当番活動，学級生活の充実に向けた係活動，家庭や地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとする意欲や態度に結び付けていくことが求められる。
小学校中学年 Ｃ－(13)	特に，身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考え，自分ができる仕事を見付けたり，集団生活の向上につながる活動に参加したりして，みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことが重要になる。
小学校高学年 Ｃ－(14)	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また，ボランティア活動など，社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとする態度を育てることが望まれる。
中学校 Ｃ－(13)	まず，勤労の尊さを重んじる生き方を基に，社会における自らの役割や将来の生き方等についてしっかり考えさせることが大切である。保護者や地域の方に外部講師として，働くことの意味や大切さについて語ってもらう機会を設けることも効果的である。 さらに，体験的な学習を生かして，働くことの重要性について理解を深めさせることが重要である。そのためには，キャリア教育と関連させて，職場体験活動やボランティア活動，福祉体験活動などの体験活動を生かすなど指導の工夫が求められる。勤労の尊さや意義についての考えを深めるとともに，働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることが大切である。勤労を通して，社会貢献に伴う喜びが自らの充実感として生徒一人一人に体得され，心から満足でき，生きがいのある人生を実現しようとする意欲にまで高めたい。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「勤労，公共の精神」　中学校「勤労」＞

	学年	小１	小２	小３		小４		小５		小６		中１		中２		中３	
	教材名 / 指導の要点	ぼくのしごと	いま、ぼくにできること	ごみステーション	教えて！なんでもそうだん室	「もっこ」をせおって	点字メニューにちょうせん	お父さんは救命救急士	わたしのボランティア体験	うちら「ネコの手」ボランティア	桜守の話	新しいプライド	「看護する」仕事	宇宙人	我、ここに生きる	たんぽぽ作業所	好きな仕事か安定かなやんでる
低学年	学校や家庭，地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとすること。	◎	◎														
中学年	身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考えること。				◎												
	身の回りの生活の中で，自分ができる仕事を見付け，みんなのために働こうとすること。					◎	○										
	集団生活の向上につながる活動に参加したりして，みんなのために働こうとすること。			◎	○	○	◎										
高学年	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えること。							○			◎						
	社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解すること。								◎	◎							
	勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとすること。							◎	○	○	○						
中学校	勤労の尊さを重んじる生き方を基に，社会における自らの役割や将来の生き方等について考えること。											○		◎	◎	○	
	体験的な学習を生かして，働くことの重要性について理解を深めること。																○
	勤労の尊さや意義についての考えを深めること。											◎	○	○			
	働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を身に付けること。													○			◎
	勤労を通して，社会貢献に伴う喜びが自らの充実感として体得され，心から満足でき，生きがいのある人生を実現しようとすること。											○	◎		○	◎	○

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.56,57
(中) p.52,53

内容項目　小学校「家族愛，家庭生活の充実」
中学校「家族愛，家庭生活の充実」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つこと。
小学校中学年	父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
小学校高学年	父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをすること。
中学校	父母，祖父母を敬愛し，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C－(13)	家庭生活においては自分にできることを進んで手伝うなどして，積極的に家族と関わり，家族の一員として役に立つ喜びが実感できるようにしていくことが大切である。
小学校中学年 C－(14)	家庭生活において自分の行動が具体的に家族の役に立っていることを実感したり，家族に喜ばれ感謝されるという経験を積み重ねたりすることができるようにすることが必要である。自分が家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって，協力し合って楽しい家庭をつくろうとする積極的な姿勢をもつことができるようになる。家庭との連携を図りながら，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくろうとする態度を育てるよう指導することが大切である。
小学校高学年 C－(15)	自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して，尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えてみる機会を設定することが求められる。そして，充実した家庭生活を築いていくためには，家族の一員としての自分の役割を自覚し，家族のために，積極的に役立つことができるよう指導することが必要である。そのためにも，家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることについて考えを深められるよう指導することが大切である。
中学校 C－(14)	まず，父母や祖父母を敬愛する気持ちをより一層深めることが大切である。そして，自我意識が強まりつつある中で，家族関係を子供の視点だけでなく，家族のそれぞれの立場になって考えられるよう，多面的・多角的に捉えることができるよう指導することが大切である。 さらに，自分と家族との関わり，家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解し，家族の在り方について考えることも大切なことである。その際，自分が家族の中でどのような立場にあるのか，家庭生活を営む上で，自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え，家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが，自分の課題であることに気付くことができるようにすることが大切である。 また，例えば，技術・家庭科の家庭分野で家族・家庭と子供の成長を学習した後に改めて家庭生活や家族の有様について考えるなど，他教科等と関連した指導も積極的に行っていく必要がある。 なお，指導に当たっては，多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ，一人一人の生徒の実態を把握し十分な配慮を欠かさないようにすることが重要である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「家族愛，家庭生活の充実」　中学校「家族愛，家庭生活の充実」＞

	学年	小１	小２		小３		小４		小５	小６	中１	中２	中３
	教材名 / 指導の要点	かやねずみのおかあさん	だっておにいちゃんだもん	まる子のかぞくへのしつもん	耳の聞こえないお母さんへ	ぼくのおばあちゃん	お母さんのせいきゅう書	小さなお父さん	卵焼き	おばあちゃんのさがしもの	靴	ごめんね、おばあちゃん	背筋をのばして
低学年	自分にできることを進んで手伝うこと。	◎	○	○									
	積極的に家族と関わり，家族の一員として役に立つ喜びを実感すること。	○	◎	◎									
中学年	家庭生活において自分の行動が具体的に家族の役に立っていることを実感すること。				○	◎		◎					
	家族に喜ばれ感謝されるという経験を積み重ねること。				○	○		○					
	自分が家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって，協力し合って楽しい家庭をつくろうとする積極的な姿勢をもつこと。				◎	○	◎						
高学年	自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して，尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えること。								◎	○			
	充実した家庭生活を築いていくために，家族の一員としての自分の役割を自覚し，家族のために，積極的に役立つことができるようにすること。									◎			
	家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることについて考えを深めること。								○	○			
中学校	父母や祖父母を敬愛する気持ちをより一層深めること。											◎	
	家族関係を家族のそれぞれの立場になって考えられるよう，多面的・多角的に捉えること。										◎	○	○
	自分と家族との関わり，家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解し，家族の在り方について考えること。										○		◎
	自分が家族の中でどのような立場にあるのか，家庭生活を営む上で，自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え，家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくこと。											○	

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説

内容項目　小学校「よりよい学校生活，集団生活の充実」（小）p.58,59
中学校「よりよい学校生活，集団生活の充実」（中）p.54,55

発達段階に応じた指導

小学校低学年	先生を敬愛し，学校の人々に親しんで，学級や学校の生活を楽しくすること。
小学校中学年	先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
小学校高学年	先生や学校の人々を敬愛し，みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに，様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
中学校	教師や学校の人々を敬愛し，学級や学校の一員としての自覚をもち，協力し合ってよりよい校風をつくるとともに，様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｃ－(14)	児童が教師や友達と一緒に遊んだり学んだりして共に生活する機会を設定して，そのことを通して楽しさを味わい，学校のことをより深く知り，集団の中での行動の仕方を学び，自分の居場所をつくっていけるような指導をすることが望まれる。
小学校中学年 Ｃ－(15)	教師をはじめ学級や学校で自分を支え励ましてくれる様々な人々との関わりにおいて感謝と敬愛の念を深め，進んで学級や学校のために働くなど具体的な活動を通して，楽しく充実した学校生活が構築できるように指導していくことが求められる。
小学校高学年 Ｃ－(16)	様々な集団での活動を通して，集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付かせると同時に，集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとする態度を育てるよう指導することが大切である。
中学校 Ｃ－(15)	まず，生徒は学校や教師などへの関心が十分とは言えない状況の中，学校のよさや校風等を取り上げ，学級や学校の一員であることの自覚を促すことが必要である。生徒の立場に立って考え，共感的で確かな生徒理解に努めることにより人間関係を深めていくことも重要なことである。 さらに，自らの所属する集団の目的や意義を理解するとともに，個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなど，集団の在り方について多面的・多角的に考えられるようにすることが大切である。自分が所属する集団にのみ関心を寄せ，自分たちの利益のみを追求し，自分との関わりが薄いと思われる集団や成員に対して無関心になってはいないか省みることも必要である。利己心や狭い仲間意識を克服し，協力し合って，集団生活の向上に努める態度を育てることが重要である。生徒一人一人が集団の中で個性を失うことがないように留意して，それぞれが伸び伸びと自らのよさを発揮できるような集団の在り方を考えられるようにする必要がある。 また，例えば，特別活動における学校行事の儀式的行事で学校への所属感を深めた後や，文化・体育的行事において学校や学級での自らの役割や責任を果たした後などに，よりよい校風作りや集団生活の充実について考えるなど，他教科等と関連した指導も積極的に行っていく必要がある。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「よりよい学校生活，集団生活の充実」　中学校「よりよい学校生活，集団生活の充実」＞

	学年	小１		小２		小３	小４	小５		小６		中１	中２	中３
	教材名 ＼ 指導の要点	ようこそ、一ねんせい	もうすぐ二ねんせい	ひかり小学校のじまんはね	「三くみ大すき」	しょうたの手紙	秋空にひびくファンファーレ	かれてしまったヒマワリ	バトンをつなげ	せんぱいの心を受けついで	小さな連絡船「ひまわり」	全校一を目指して	四十七年に感謝をこめて	受けつがれる思い
低学年	教師や友達と一緒に遊んだり学んだりして共に生活する機会を通して楽しさを味わうこと。	◎	○		◎									
	学校のことをより深く知り，集団の中での行動の仕方を学び，自分の居場所をつくっていくこと。		◎	◎										
中学年	教師をはじめ学級や学校で自分を支え励ましてくれる様々な人々との関わりにおいて感謝と敬愛の念を深めること。						◎							
	進んで学級や学校のために働くなど，活動を通して楽しく充実した学校生活が構築できるようにすること。					◎	○							
高学年	様々な集団での活動を通して，集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付くこと。							○	○	◎	○			
	集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとすること。							◎	◎	○	◎			
中学校	学校のよさや校風等に触れ，学級や学校の一員であることを自覚すること。												◎	
	自らの所属する集団の目的や意義を理解すること。											○		◎
	個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなど，集団の在り方について多面的・多角的に考えること。													○
	利己心や狭い仲間意識を克服し，協力し合って，集団生活の向上に努めること。											◎		
	それぞれが伸び伸びと自らのよさを発揮できるような集団の在り方を考えること。													○

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説

内容項目 小学校「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」(小) p.60,61
中学校「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」(中) p.56,57

発達段階に応じた指導

小学校低学年	我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。
小学校中学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，国や郷土を愛する心をもつこと。
小学校高学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと。
中学校	郷土の伝統と文化を大切にし，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め，地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，進んで郷土の発展に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C－(15)	児童が住む町の身近な自然や文化などに直接触れる機会を増やしたり，そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで国や郷土への愛着を深め，親しみをもって生活できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C－(16)	地域の人々や生活，伝統，文化に親しみ，それを大切にすることを通して，郷土を愛することについて考えさせ，地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが必要である。さらに，自然や文化，スポーツなどへの関心も高まり，郷土から視野を広げて，我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。そこで，様々な活動を通して我が国の伝統と文化に関心をもち，これらに親しむ気持ちを育てるように指導することが必要である。
小学校高学年 C－(17)	機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり，直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して，伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し，努めていこうとする心構えを育てる必要がある。
中学校 C－(16)	まず，地域の人々との人間関係を問い直したり，地域社会の実態を把握させたりして，郷土に対する認識を深め，郷土を愛しその発展に努めるよう指導していく必要がある。問題意識をもち，進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲と態度を育てることが求められる。 しかしながら，多くの地域で，生徒たちは地域に住む人々との触れ合いや，共に協力して何かを成し遂げるという機会が少なくなってきている状況は否めない。そこでさらに，地域の方に郷土の伝統文化を尊重し郷土を愛する思いを語ってもらうことや，郷土について調べたことや地域の行事への参加体験等に基づいた話合いを通して，郷土に対する認識を深め，郷土を愛しその発展に努めるよう指導していく必要がある。また，地域社会に尽くし，自己の人生を大切にして生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちを育むよう指導の工夫に努めることも大切である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」　中学校「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」＞

	学年	小１	小２	小３		小４		小５		小６		中１		中２	中３
	教材名 / 指導の要点	みつけてみよう	ながいながいつうがくろ	ぼくのおべんとう	ふるさといいとこさがし	ふろしき	ふるさとを守った大イチョウ	正月料理	親から子へ、そして孫へと	白神山地	新しい日本に～龍馬の心	ぼくのふるさと	郷土を彫る	祭りの夜	島唄の心を伝えたい
低学年	児童の住む町の身近な自然や文化などに触れ，そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで，国や郷土への愛着を深め，親しみをもって生活できるようにすること。	◎	◎												
中学年	地域の人々や生活，伝統，文化に親しみ，それを大切にすることを通して，郷土を愛することについて考え，地域に積極的に関わろうとすること。			◎	◎		◎								
	我が国の伝統と文化に関心をもち，これらに親しむ気持ちをもつこと。			○		◎									
高学年	我が国の伝統や文化などのよさについて理解を深めること。							◎	○		○				
	伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し，努めていこうとすること。								◎	◎	◎				
中学校	問題意識をもち，進んで郷土の発展に努めようとすること。											◎		○	
	郷土に対する認識を深め，郷土を愛しその発展に努めること。											○	◎	◎	○
	地域社会に尽くし，自己の人生を大切にして生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちをもつこと。												○		◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説

内容項目 小学校「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」 (小) p.60,61
中学校「我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度」(中) p.58,59

発達段階に応じた指導

小学校低学年	我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。
小学校中学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，国や郷土を愛する心をもつこと。
小学校高学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと。
中学校	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに，日本人としての自覚をもって国を愛し，国家及び社会の形成者として，その発展に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C－(15)	児童が住む町の身近な自然や文化などに直接触れる機会を増やしたり，そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで国や郷土への愛着を深め，親しみをもって生活できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C－(16)	地域の人々や生活，伝統，文化に親しみ，それを大切にすることを通して，郷土を愛することについて考えさせ，地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが必要である。さらに，自然や文化，スポーツなどへの関心も高まり，郷土から視野を広げて，我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。そこで，様々な活動を通して我が国の伝統と文化に関心をもち，これらに親しむ気持ちを育てるように指導することが必要である。
小学校高学年 C－(17)	機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり，直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して，伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し，努めていこうとする心構えを育てる必要がある。
中学校 C－(17)	まず，我が国の発展に尽くし優れた伝統と文化を育んできた先人たちの努力とその精神をたどり，そのよさを理解して継承するとともに，新たな文化を創造してその発展に寄与していく責務があることを自覚し，国家及び社会の形成者として，そのことに努めていこうとする意欲と態度を育てる必要がある。そのためには，人間が既にそうした伝統や文化の中に身を置いて生きており，また身をもってそれらを理解する働きを通して先人たちと対話し，新たな伝統や文化を形成してきたことを踏まえる必要がある。 さらに，次の内容項目の「国際理解，国際貢献」との関わりをも踏まえて，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚に関する内容や，国際社会との関わりについて考えを深めることも求められる。グローバル化や情報通信技術などが進展すればするほど，日本人としての自覚をもつことが大切になってくる。 なお，その際，国を愛することは，偏狭で排他的な自国賛美ではなく，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚と責任をもって，国際貢献に努めようとする態度につながっている点に留意する必要がある。そのためにも，国を愛することと，次の内容項目の「国際理解，国際貢献」とは切り離せない関係にあることに配慮した指導が大切である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」　中学校「我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度」＞

	学年	小１	小２	小３		小４		小５		小６		中１	中２		中３
	教材名 ＼ 指導の要点	みつけてみよう	ながいながいつうがくろ	ぼくのおべんとう	ふるさといいとこさがし	ふろしき	ふるさとを守った大イチョウ	正月料理	親から子へ、そして孫へと	白神山地	新しい日本に～龍馬の心	古都の雅、菓子の心	心でいただく伝統の味	書道パフォーマンスの挑戦	花火と灯ろう流し
低学年	児童の住む町の身近な自然や文化などに触れ，そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで，国や郷土への愛着を深め，親しみをもって生活できるようにすること。	◎	◎												
中学年	地域の人々や生活，伝統，文化に親しみ，それを大切にすることを通して，郷土を愛することについて考え，地域に積極的に関わろうとすること。			◎	◎		◎								
	我が国の伝統と文化に関心をもち，これらに親しむ気持ちをもつこと。			○		◎									
高学年	我が国の伝統や文化などのよさについて理解を深めること。							◎	○		○				
	伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し，努めていこうとすること。								◎	◎	◎				
中学校	我が国の発展に尽くし優れた伝統と文化を育んできた先人の努力とその精神をたどり，そのよさを理解して継承すること。											◎	○	○	◎
	新たな文化を創造してその発展に寄与していく責務があることを自覚し，国家及び社会の形成者として，そのことに努めていこうとすること。												◎	◎	○
	国際社会との関わりについて考えを深め，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚と責任をもって国際貢献に努めようとすること。												○		

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材の関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.62,63
(中) p.60,61

内容項目　小学校「国際理解，国際親善」
中学校「国際理解，国際貢献」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	他国の人々や文化に親しむこと。
小学校中学年	他国の人々や文化に親しみ，関心をもつこと。
小学校高学年	他国の人々や文化について理解し，日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。
中学校	世界の中の日本人としての自覚をもち，他国を尊重し，国際的視野に立って，世界の平和と人類の発展に寄与すること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校 低学年 C－(16)	まず，身近な出来事や書籍，衣食住の中にある他国の文化に気付いたり，スポーツや身近な行事などを通じた他国との交流に触れたりしながら，他国の人々に親しみをもったり，自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできるようにすることが大切である。そして，他国の人々と交流したり，文化を味わったりしたことを互いに出し合ったり深めたりしながら，更に他国を知り，親しもうとする気持ちが高まるように工夫することが大切である。
小学校 中学年 C－(17)	児童の様々な生活や学習において，更に関心をもって他国の人々や他国の文化に気付き，郷土や自国の文化と他国の文化との共通点や相違点などにも目を向けられるようにすることが大切である。その上で，それぞれのよさを感じ取らせることが求められる。また，他国の人々もそれぞれの文化に愛着をもって生活していることを理解させるなどして，更に他国の文化に関心や理解を深めさせ，親しませることが大切である。また，自国の文化と他国の文化のつながりや関係にも目を向けさせることが大切である。
小学校 高学年 C－(18)	この段階においては，特に社会的認識能力が発達し，日常生活において新聞などのマスメディアに接することや社会科，外国語活動等で学習することによって，例えば，我が国と同様，他国にも国旗や国歌があり，相互に尊重すべきことなどを知る中で，他国への関心や理解が一層高まる。また，様々な学習において，他国の芸術や文化，他国の人々と接する機会も出てくる。 指導に当たっては，そのことを踏まえ，様々な文化やそれに関わる事柄を互いに関連付けながら国際理解を深め，国際親善に努めようとする態度を育てることが重要である。その際，他国の人々が，我が国と同じようにそれぞれの国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることについて一層理解が進むようにすることが大切である。また，日本人としての自覚や誇り，我が国の伝統と文化を理解し，尊重する態度を深めつつ，自分にできることを考えるなどして，進んで他国の人々とつながり，交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする国際親善の態度を養うことが求められる。
中学校 C－(18)	まず，他国には日本と同じように，その国の伝統に裏打ちされたよさがあることや，例えば，我が国と同様，他国にも国旗や国歌があり，相互に尊重すべきことなどを学習する中で，その国独自の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることなどを理解させることが大切である。その際，伝統や文化は，人間としての共通の願いから形成されてきているという理解に立って，他国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念が重視されなければならない。その上で，様々な文化のもつ多様性の尊重や価値観の異なる他者との共生などについても考えを深める必要がある。今後ますますグローバルな相互依存関係の中で生きていく中学生にとって，広く世界の諸情勢に目を向け，国際社会で生きる能力を身に付けることはこれまで以上に必要となる。そうした社会の変化に能動的に対応できるとともに，国際社会において自らの役割と責任を果たすことができる日本人となることが求められる。 さらに，世界の平和と人類の発展に貢献するという理想を抱き，その理想の実現に努めることが大切である。その理想の実現のための基本になるのは，国によってものの感じ方や考え方，生活習慣などが違っても，どの国の人々も同じ人間として尊重し合い，差別や偏見をもたずに公正，公平に接するということであり，このことは，日本人だけに求められるものではない道徳的価値である。 なお，宗教が社会で果たしている役割や宗教に関する寛容の態度などに関しては，教育基本法第 15 条の規定を踏まえた配慮を行うとともに，宗教について理解を深めることが，自ら人間としての生き方について考えを深めることになるという意義を十分考慮して指導に当たることが必要である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｃ　小学校「国際理解，国際親善」　中学校「国際理解，国際貢献」＞

	学年	小１	小２	小３	小４	小５		小６		中１	中２	中３	
	教材名／指導の要点	ぼくとシャオミン	ひろいせかいのたくさんの人たちと	三つの国	世界の小学生	「折り紙大使」～加瀬三郎	同じ空の下で	白旗の少女	エンザロ村のかまど	日本から来たおばさん	六千人の命のビザ	その子の世界、私の世界／そのこ	命見つめて
低学年	他国の人々に親しみをもったり，自分たちと異なる文化のよさに気付いたりすること。	◎	○										
低学年	他国を知り，親しもうとする気持ちをもつこと。	○	◎										
中学年	他国の人々や他国の文化に気付き，郷土や自国の文化と他国の文化との共通点や相違点などに目を向けること。			◎									
中学年	他国の人々もそれぞれの文化に愛着をもって生活していることを理解すること。				◎								
中学年	他国の文化に関心や理解を深め，親しむこと。				○								
中学年	自国の文化と他国の文化のつながりや関係に目を向けること。			○									
高学年	様々な文化やそれに関わる事柄を互いに関連付けながら国際理解を深め，国際親善に努めようとすること。					○		◎	○				
高学年	それぞれの国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることについて理解すること。						◎		○				
高学年	日本人としての自覚や誇り，我が国の伝統と文化を理解し，尊重すること。					◎		○					
高学年	進んで他国の人々とつながり，交流活動を進めたりより親しくしたりしようとすること。					○	○		◎				
中学校	その国独自の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解すること。									◎			○
中学校	様々な文化のもつ多様性の尊重や価値観の異なる他者との共生などについて考えを深めること。									○		○	◎
中学校	社会の変化に能動的に対応し，国際社会において自らの役割と責任を果たそうとすること。									○	○	◎	
中学校	国によってものの感じ方や考え方，生活習慣などが違っても，どの国の人々も同じ人間として尊重し合い，差別や偏見をもたずに公正，公平に接すること。										◎		○

（例）◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
(小) p.64,65
(中) p.62,63

内容項目　小学校「生命の尊さ」
中学校「生命の尊さ」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。
小学校中学年	生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること。
小学校高学年	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。
中学校	生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C－(17)	この段階においては，生命の尊さを知的に理解するというより，日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心になる。例えば，「体にはぬくもりがあり，心臓の鼓動が規則的に続いている」「夜はぐっすり眠り，朝は元気に起きられる」「おいしく朝食が食べられる」「学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる」などが考えられる。 指導に当たっては，これらの当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感させたい。また，自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや，自分の生命に対して愛情をもって育んできた家族の思いに気付くなど，自分の生命そのもののかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。そのことを喜び，すばらしいことと感じることによって，生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。
小学校中学年 C－(18)	生命は唯一無二であることや，自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り，育まれている尊いものであることについて考えたり，与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。あわせて，自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情や態度を育てることが求められる。
小学校高学年 C－(19)	家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ，生命の誕生から死に至るまでの過程，人間の誕生の喜びや死の重さ，限りある生命を懸命に生きることの尊さ，生きることの意義を追い求める高尚さ，生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど，様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。
中学校 C－(19)	まず，人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ，生命あるものは互いに支え合って生き，生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。例えば，それぞれの生命体が唯一無二の存在であること，しかもそれらは全て生きているということにおいて共通であるということ，自分が今ここにいることの不思議（偶然性），生命にいつか終わりがあること，その消滅は不可逆的で取り返しがつかないこと（有限性），生命はずっとつながっているとともに関わり合っていること（連続性），生命体の組織や生命維持の仕組みの不思議などを手掛かりに改めて考えさせることができる。そうした学習を通して，自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに，他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切である。 さらに，理科や保健体育，技術・家庭などの他教科等での学習も踏まえつつ，生命倫理に関わる現代的な課題を取り上げ，話し合い，多様な考えを交流することにより，生命とは何か，その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど，生命尊重への学びをより深めることもできる。 この内容項目は，道徳科の内容全体に関わる項目であり，他の内容項目の指導においても，生命尊重に関連する事項を扱う場合には，この内容項目との関連を意識した指導に留意したい。また，教育活動全体の取組を通じて，自己肯定感や自己有用感の高まりから，生徒一人一人の自尊感情を高めることにもつながるような指導の工夫も大切である。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｄ　小学校「生命の尊さ」　中学校「生命の尊さ」＞

	学年	小１			小２			小３			小４			小５			小６			中１			中２			中３		
	教材名 ／ 指導の要点	ハムスターのあかちゃん	どきどきどっきんぐ	いのちがあってよかった	たんじょう日	ぼく	ゆきひょうのライナ	ヌチヌグスージ（いのちのまつり）	いただいたいのち	おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね	わたしの見つけた小さな幸せ	バルバオの木	走れ江ノ電光の中へ	おばあちゃんが残したもの	コースチャぼうやを救え	クマのあたりまえ	命の重さはみな同じ	お母さんへの手紙	東京大空襲の中で	いのちって何だろう	決断！骨髄バンク移植第一号	見沼に降る星	奇跡の一週間	妹に	書かれなかった遺書	生まれてきてくれて、ありがとう	くちびるに歌をもて	たとえぼくに明日はなくとも
低学年	日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取り，「生きている証」を実感すること。	○	○	○		◎	○																					
	自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いに気付くこと。				◎																							
	自分の生命に対して愛情をもって育んできた家族の思いに気付くこと。			○	○																							
	自分の生命そのもののかけがえのなさに気付くこと。		◎	◎	○		◎																					
	生命の大切さを自覚すること。	◎				○	○																					
中学年	生命は唯一無二であることについて考えること。								○	◎			○															
	生命は自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り，育まれている尊いものであることについて考えること。							◎	◎		○																	
	与えられた生命を一生懸命生きることのすばらしさについて考えること。							○		○	◎	○	◎															
	自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとすること。									○		◎																
高学年	家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさから生命のかけがえのなさを自覚し，生命を尊重すること。														○			◎										
	生命の誕生から死に至るまでの過程から生命のかけがえのなさを自覚し，生命を尊重すること。													○														
	人間の誕生の喜びや死の重さから生命のかけがえのなさを自覚し，生命を尊重すること。													◎		○												
	限りある生命を懸命に生きることの尊さから生命のかけがえのなさを自覚し，生命を尊重すること。													○			○											
	生きることの意義を追い求める高尚さから生命のかけがえのなさを自覚し，生命を尊重すること。															◎		○	○									
	生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さから生命のかけがえのなさを自覚し，生命を尊重すること。														◎		◎		◎									
中学校	人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせること。																						◎	○	○			
	生命あるものは互いに支え合って生き，生かされていることに感謝の念をもつこと。																				◎	◎	○		◎	◎	◎	○
	自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに，他の生命を尊重する態度を身に付けること。																			◎	○		○	◎		○	○	◎

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

内容項目　小学校「自然愛護」
　　中学校「自然愛護」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小） p.66,67
（中） p.64,65

発達段階に応じた指導

小学校低学年	身近な自然に親しみ，動植物に優しい心で接すること。
小学校中学年	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り，自然や動植物を大切にすること。
小学校高学年	自然の偉大さを知り，自然環境を大切にすること。
中学校	自然の崇高さを知り，自然環境を大切にすることの意義を理解し，進んで自然の愛護に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｃ－(18)	この段階においては，特に身近な自然の中で楽しく遊んだり，自然と親しんだりする活動を行うことが多い。また，生活科の学習などを通して動物の世話や飼育をしたり，植物の栽培や観察などを根気よく丁寧に行ったりしながら，自然や動植物などと直接触れ合う多くの体験をしている。 指導に当たっては，児童のこうした活動や体験を通して，自然に親しみ動植物に優しく接しようとする心情を育てることが求められる。自然や動植物のもつ不思議さ，生命の力，そして，共に生きていることのいとおしさなどを自然や動植物と触れ合うことを通して実際に感じることによって，自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが強く育まれる。
小学校中学年 Ｃ－(19)	自然に親しみながら自然のもつ美しさやすばらしさを感得できるようにする必要がある。それらを踏まえて，身近なところから少しずつ自分たちなりにできることを，動植物と自然環境との関わりを考え実行しようとする意欲を高めることも大切である。
小学校高学年 Ｃ－(20)	自然環境と人間との関わりから，人間の生活を豊かにすることを優先し，十分な思慮や節度を欠いて自然と接してきたことに気付かせたい。その上で，人間も自然の中で生かされていることを自分の体験を基に考えられるようにすることが必要である。人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え，自分にできる範囲で自然環境を大切にし，持続可能な社会の実現に努めようとする態度を育むことが望まれる。
中学校 Ｃ－(20)	まず，例えば，すばらしい自然風景・絶景との出会いを振り返り，そこでの感動や不思議に思ったことなどの体験を生かして，人間と自然との関わりを多面的・多角的に捉え，自然を愛し，守ることといった環境の保全を通して，有限な人間の力を越えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。 さらに，高等学校段階への発展を踏まえて，自然を美の対象としてだけではなく，畏敬の対象として捉えさせることが大切である。その際，阪神・淡路大震災，東日本大震災などの災害の事実の理解から自然に対する人間の有限性を考えさせるなど，事実や事象の知的な理解を基にしながら，自然の中で生かされていることを謙虚に受け止める感性を高めることに留意する必要がある。そのことが，自然を外から制御する者となって保護するという自然への対し方ではなく，一人一人が自然との心のつながりを見いだし同行する者として生きようとする自然への対し方につながり，持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）のための教育でも求められる，現在及び未来の自然環境の課題に取り組むために必要な心を育てることになる。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｄ　小学校「自然愛護」　中学校「自然愛護」＞

	学年	小１		小２		小３		小４		小５		小６		中１	中２	中３
	教材名／指導の要点	ぼくのあさがお	ぼくのしろくま	げんきにそだて、ミニトマト	まいごになった赤ちゃんくじら	ツバメの赤ちゃん	ホタルの引っこし	また来年も待ってるよ	「ふれあいの森」で	一ふみ十年	イルカの海を守ろう	愛華さんからのメッセージ	タマゾン川	サクラに集う人の思い	冬の使者「マガン」	よみがえれ日本海！
低学年	自然に親しみ動植物に優しく接しようとすること。	○	◎	○	○											
	自然や動植物を大事に守り育てようとすること。	◎	○	◎	◎											
中学年	自然のもつ美しさやすばらしさを感得できるようにすること。						○	○	○							
	身近なところから自分たちにできることを，動植物と自然環境との関わりを考え実行しようとすること。					◎	◎	○	◎							
高学年	自然環境と人間との関わりから，人間の生活を豊かにすることを優先し，十分な思慮や節度を欠いて自然と接してきたことに気付くこと。									○			◎			
	人間も自然の中で生かされていることを自分の体験を基に考えること。											○				
	人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考えること。										◎		○			
	自分にできる範囲で自然環境を大切にし，持続可能な社会の実現に努めようとすること。									○	○	◎	○			
中学校	人間と自然との関わりを多面的・多角的に捉え，自然を愛し，守ることといった環境の保全を通して，有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止めること。													◎	◎	◎
	自然を美の対象としてだけではなく，畏敬の対象として捉えること。													○		

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

内容項目　小学校「感動，畏敬の念」
　　中学校「感動，畏敬の念」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小）p.68,69
（中）p.66,67

発達段階に応じた指導

小学校低学年	美しいものに触れ，すがすがしい心をもつこと。
小学校中学年	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
小学校高学年	美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたもの対する畏敬の念をもつこと。
中学校	美しいものや気高いものに感動する心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 Ｃ－(19)	児童が美しいものに触れて心が揺さぶられたときには，その思いを教師が大切にするとともに，児童の感動を他の児童にも共有できるように働きかけることで，児童自身がもっている初々しい感性を豊かに育んでいくことが考えられる。
小学校中学年 Ｃ－(20)	感性や知性が著しく発達する段階であることに配慮して，児童が自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心をもっている自分に気付き，その心を大切にし，更に深めていこうとする気持ちを高めるようにすることが重要である。
小学校高学年 Ｃ－(21)	文学作品，絵画や造形作品などの美術，壮大な音楽など美しいものとの関わりを通して，感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすることで，人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるようにすることが大切である。
中学校 Ｃ－(21)	まず，例えば，体験活動等における，自然の織りなす美しい風景や優れた芸術作品等の美しいものとの出会いを振り返り，そこでの感動や畏敬の念，不思議に思ったことなどの体験を生かして，人間と自然，あるいは美しいものとの関わりを多面的・多角的に捉えさせることが大切である。畏敬は，非日常的な体験を通して初めて自覚されることが多い。例えば，小さな子供が遊びの中で昆虫の命を奪ってしまったときに感じる恐ろしさや，その子供が同時に抱く命への尊敬の気持ちなど，これまでの経験を想起させ，生命の尊さの内容と関連させながら畏敬の念について話し合わせることで，抽象的な言葉による理解ではなく，人間理解に基づいて畏敬の念について深く考えることができる。 さらに，心の奥深さや清らかさを描いた文学作品等の気高いものとの出会いを振り返り，有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。こうした指導を通して豊かな心を育てることが，人間としての成長をより確かなものにすることにつながるのである。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｄ　小学校「感動，畏敬の念」　中学校「感動，畏敬の念」＞

	学年	小１	小２		小３		小４		小５		小６		中１	中２	中３
	教材名 ＼ 指導の要点	にじがでた	七つのほし	ガラスの中のお月さま	百羽のツル	しあわせの王子	一ぴきのセミに「ありがとう」	花さき山	ひさの星	一本松は語った	夜空～光の旅	青の洞門	火の島	夜は人間以外のものの時間	ハッチを開けて、知らない世界へ
低学年	感動を他の児童と共有すること。	◎	○	○											
	初々しい感性を豊かに育むこと。	○	◎	◎											
中学年	自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心をもっている自分に気付くこと。				◎	○	◎	○							
	自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心を大切にし，更に深めていこうとする気持ちを高めること。				○	◎	○	◎							
高学年	美しいものとの関わりを通して，感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすること。								○	◎	◎	○			
	感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすることで，人間としての在り方をより深いところから見つめ直すこと。								◎	○		◎			
中学校	人間と自然，あるいは美しいものとの関わりを多面的・多角的に捉えること。													◎	○
	抽象的な言葉による理解ではなく，人間理解に基づいて畏敬の念について深く考えること。												○	○	◎
	有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止めること。												◎		

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

内容項目　小学校「よりよく生きる喜び」
　　中学校「よりよく生きる喜び」

小・中学校学習指導要領
(平成２９年告示)解説
（小） p.70,71
（中） p.68,69

発達段階に応じた指導

小学校高学年	よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し，人間として生きる喜びを感じること。
中学校	人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し，人間として生きることに喜びを見いだすこと。

小学校・中学校学習指導要領解説　(2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年	
小学校中学年	
小学校高学年 Ｃ－(22)	まず自分だけが弱いのではないということや，人間がもつ強さ，気高さについて自分自身を振り返ることで理解できるようにすることが大切である。人間の弱さだけを強調したり，弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく，目指す生き方，誇りある生き方に近付けるということが大切である。このように，人間の強さや気高さを理解させることで，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方につなげるようにすることが求められる。
中学校 Ｃ－(22)	まず，自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり，弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく，自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。 さらに，人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから，内なる自分に恥じない，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が，自分の弱さを強さに，醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき，よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

「指導の要点」と教材関連表　＜内容項目Ｄ　小学校「よりよく生きる喜び」　中学校「よりよく生きる喜び」＞

	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1		中2		中3	
	教材名 / 指導の要点					そういうものにわたしはなりたい～宮沢賢治	義足の聖火ランナー～クリス・ムーン	銀色のシャープペンシル	花に寄せて	本当の私	良心とのたたかい	背番号１５が歩んだ道―黒田博樹―	足袋の季節
低学年													
中学年													
高学年	自分だけが弱いのではないことや，人間がもつ強さ，気高さについて理解すること。					○	◎						
	人間の強さや気高さを理解することで，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方につなげようとすること。					◎	○						
中学校	自分だけが弱いのではないことに気付くこと。							◎		○			○
	自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けること。							○		◎	◎	○	◎
	人間がもつ強さや気高さについて十分に理解すること。								◎		○		○
	先人の気高い生き方などから，内なる自分に恥じない，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方を見いだすこと。								○			◎	

（例）　◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点　　○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

どうとく Support Book

【授業づくりのポイント集】　目　次

01　教師の明確な意図を持つ

○ 内容項目を理解するポイント ・・・・・・・・62
○ 児童生徒の実態把握 ・・・・・・・・63
○ 教材の活用 ・・・・・・・・64
○ 教師の明確な意図 ・・・・・・・・66

02　本時のねらいを設定する

○ ねらいの設定 ・・・・・・・・67

03　学習指導過程を構想する

○ 導入の工夫 ・・・・・・・・68
○ 展開の工夫 ・・・・・・・・69
○ 終末の工夫 ・・・・・・・・70

04　指導方法を工夫する

○ 自分との関わりで考えさせる学習 ・・・・・・・・71
○ 問題解決的な学習 ・・・・・・・・72
○ 多面的・多角的に考えさせる学習 ・・・・・・・・73
○ 発問づくり ・・・・・・・・75
○ 道徳的行為に関する体験的な学習 ・・・・・・・・77
○ 板書の工夫 ・・・・・・・・78
○ 他の教育活動との関連 ・・・・・・・・79

05　子どもの学びを評価する

○ 道徳科の評価 ・・・・・・・・80
○ 指導要録と通知表における道徳科の評価の違い ・・・・・・・・81

道徳科の授業づくり

授業づくりで最も大切なのは「教師の明確な意図」。
教師の明確な意図を基に，本時のねらいの設定や
学習指導過程の構想，指導方法の工夫等を考えよう。

STEP 01 教師の明確な意図を持つ

内容項目を理解するポイント　児童生徒の実態把握
教材の活用　教師の明確な意図

STEP 02 本時のねらいを設定する

ねらいの設定

STEP 03 学習指導過程を構想する

導入の工夫　展開の工夫　終末の工夫

STEP 04 指導方法を工夫する

自分との関わりで考えさせる学習　問題解決的な学習
多面的・多角的に考えさせる学習　発問づくり
道徳的行為に関する体験的な学習　板書の工夫
他の教育活動との関連

STEP 05 児童生徒の学びを評価する

道徳科の評価
指導要録と通知表における道徳科の評価の違い

学習指導過程４つのポイント

「考え，議論する道徳」の学習指導過程を構想する際には，以下の４つのポイントを押さえることが大切です。

道徳的価値の理解を基に

導入

問題意識を持たせる

道徳的価値に根差した問題について，児童生徒にこれまでの経験と照らし合わせて考えさせ，ねらいとする道徳的価値について，考える必然性を持たせます。

例：ねらいとする道徳的価値をどのように捉えているか，実現できているか等について考えさせる。

導入の工夫 P.68

展開

自分との関わりで考えさせる

ねらいとする道徳的価値について，児童生徒に自分の問題として受け止めさせ，自分の事として考えさせます。

例：教材の登場人物を自分に置き換えて考えさせる。
日常生活や学校生活等を想起して考えさせる。

展開の工夫 P.69
自分との関わりで考えさせる学習 P.71

多面的・多角的に考えさせる

物事を一つの見方ではなく，様々な見方で考えさせたり，様々な角度から考察させたりすることで，ねらいとする道徳的価値についての考えを深めさせます。

例：様々な登場人物の立場で考えさせる。
ねらいとする道徳的価値を支える様々な根拠を考えさせる。

展開の工夫 P.69
多面的・多角的に考えさせる学習 P.73

終末

自己(人間として)の生き方について考えさせる

自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として，自己（人間として）の生き方について考えを深めさせます。

例：学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめ，これからへの思いや生き方について考えさせる。

終末の工夫 P.70

内容項目を理解するポイント

児童生徒の発達段階に応じた指導

内容項目を理解するときのポイントを教えてください。

内容項目を理解するときのポイントは，**児童生徒の発達段階に応じた指導**と**計画的な指導**の２点です。
例１のように，同じ「個性の伸長」という内容項目でも，児童生徒の発達段階に応じて，**指導する内容は異なります。**小学校，中学校の指導内容を確認することが大切です。

例１「個性の伸長」（小・中学校学習指導要領解説）

第１学年及び第２学年	自分の特徴に気付くこと
第３学年及び第４学年	自分の特徴に気付き，長所を伸ばすこと
第５学年及び第６学年	自分の特徴を知って，短所を改め長所を伸ばすこと
中学校	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求すること

計画的な指導

例２の①～⑤のように，１つの内容項目に**複数の道徳的価値が含まれている**場合があります。
複数の道徳的価値を１つの教材で扱うことが難しい場合は，１単位時間に指導するのではなく，小学校は低，中，高学年のそれぞれ２年間，中学校は３年間の中で計画的に指導することが大切です。

今日の授業では，「節度，節制」の「身の回りを整え」に関する部分を考えさせていく等，授業で取り扱う道徳的価値を絞って，計画的に指導していくことが大切なのですね。

例２「節度，節制」（小学校学習指導要領解説　第１学年及び第２学年）
健康や安全に気を付け①，物や金銭を大切にし②，**身の回りを整え**③，わがままをしないで④，規則正しい生活をすること⑤

参考文献

[1]	文部科学省：小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編		p32 - 34	あかつき
[2]	道徳教育編集部：道徳教育　2018年　6月号		p68 - 70	明治図書

児童生徒の実態把握

道徳科における児童生徒の実態把握について教えてください。

道徳科における児童生徒の実態把握とは，**道徳的価値に根差した問題**を把握することです。専門家会議では，道徳的価値に根差した問題として，以下の４つの問題が例示されています。

専門家会議で例示された４つの問題と実態把握例

1. **道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題**
   物を大切にしない，ルールを守らない，わがままな児童生徒が多い。

2. **道徳的諸価値について理解が不十分または誤解していることから生じる問題**
   相手の気持ちを考えることなく，何かをしてあげることが親切と捉えている児童生徒が多い。自由とは自分の思うままに行動してよいことと捉えている児童生徒が多い。

3. **道徳的諸価値のことは理解しているが，それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題**
   あいさつは大切だと分かっているが，なかなかできない児童生徒が多い。
   いじめはダメだと分かっているが，公正，公平に消極的な態度の児童生徒が多い。

4. **複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題**
   友達に間違っていることを正直に伝えた方がよいか，相手のことを考えて黙っていた方がよいか悩み，どのように行動したらよいか判断できない児童生徒が多い。

児童生徒の道徳的価値に根差した問題は，発達段階や生活体験，道徳科以外の教育活動と関わっているため，授業の実施時期によって異なります。学級担任を中心に，日頃の児童生徒との関わりの中で，道徳的価値に根差した問題について，**どのようなことが身に付きつつあり，どのようなことが課題として残されているのか**を把握することが大切です。

参考文献

[1] 道徳教育編集部：道徳教育　2018年　9月号　p68 - 70　明治図書
[2] 平成28年７月22日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議：「特別の教科　道徳」の指導方法・評価等について（報告）　p6

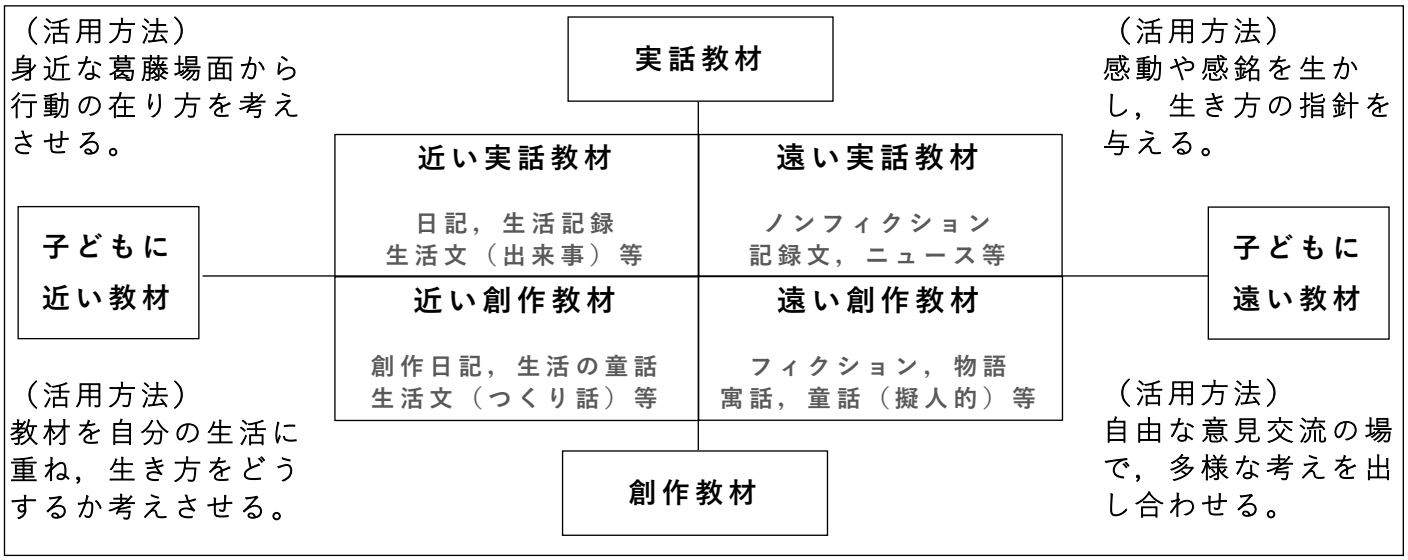
教材の活用

教材の活用の仕方で，大切なポイントは何ですか？

大切なポイントは２つあります。
①教材の特質を教師が捉えること，
②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを決めること
です。ものの感じ方，考え方は生活経験等によって一人一人違います。集団での話合いを可能にするために，教材を共通の素材として使用します。教材に含まれる複数の道徳的価値について児童生徒に考えさせ，自分との関わりで道徳的価値を深めさせます。

①教材の特質を教師が捉えること

「教材群四タイプ」を参考にしてみましょう。教材が実話なのか創作なのか，また話の内容が児童生徒の生活経験に身近かどうかで分類する教材の特質の捉え方です。また，教材のタイプを意識することで，教材を効果的に活用する力を高めることにもつながります。（永田繁雄氏が提唱）



②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを決めること

「資料活用類型」を参考にしてみましょう。授業者である教師の意図や指導観による活用方法の分類です。同一資料同一学年でも指導者によって活用方法は異なるため，活用の意図や発問例が参考になります。（青木孝頼氏が提唱）

活用類型	活用の意図	発問の例
範例的活用	登場人物の行為を，望ましい行為の一つの範例として受け取らせる。望ましくない行為の例として扱う場合もある。	・○○の優れているところは，どのようなところですか。 ・～する（しない）○○の行動から，どのようなことを学びましたか。
共感的活用	登場人物の考え方，感じ方に共感させることによって，現在の自分の価値観に気付かせ自覚を促す。	・○○に「～」と言われた時の，△△はどのような気持ちでしょうか。 ・この場面で，○○は迷っているようですが，どのようなことを考えているのでしょう。
感動的活用	児童生徒が教材から受ける感動を特に重視しながら，ねらいとする道徳的価値の理解を深める。	・最も心を動かされたのはどこですか。また，その理由は何ですか？ ・○○は人間ではなく鳥であるのに，なぜみんなの心をこのように感動させるのでしょうか。
批判的活用	登場人物の行為や考え方を批判させ，話し合わせることを通して，道徳的な問題に対する考え方，感じ方を深める。	・○○の考え方や行動について，どのようなことを感じましたか。また，それはなぜですか。 ・～しなかった周りの人たちについて，どのように思いますか。

教材の活用例　「二通の手紙」（東京書籍　新しい道徳３）C-(10) 遵法精神，公徳心

（あらすじ）動物園の飼育員である「元さん」は，動物園にやってきた姉弟を，入園終了時間後，保護者の同伴なしに規則を破って入園させてしまう。その後，閉園してもなかなか戻って来ない二人は，園内の雑木林で遊んでいるところを発見される。元さんは子供達の母親から感謝の手紙をもらうが，上司からも懲戒処分の手紙をもらい，自主退職する。

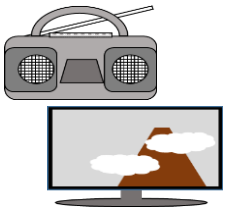
①教材の特質を教師が捉える

教材の特質		活用方法
創作であると共に，飼育員の話は子供から遠い話と言える **（教材群四タイプ右下）**	→	自由な意見交流を行う中で，「元さん」の行動について多面的・多角的に捉えさせ，規則を守ることの大切さや意義について深めさせる。

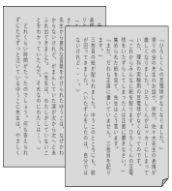
②教材のどの場面や発言等を取り上げるかを決める

活用類型	活用の意図		具体的な活用方法と発問
共感的活用	姉弟を入園させた元さんに共感させ，自分との関わりで道徳的心情を捉えさせる。	→	元さんの心情を捉えさせると共に，自主退職した元さんの思いや行動について，考えを出し合い，きまりを守ることの大切さとともに考えさせる。 発問「姉弟を入園させた時の元さんはどのような気持ちだったのでしょうか？」
批判的活用	元さんの行動を批判的に捉えさせ，元さんはどうすべきだったのか，考えさせる。	→	問題解決的な学習を取り入れ，ペアやグループでの話合いを学級全体で共有する。なぜきまりはあるのかということについても考えを深めさせる。 発問「姉弟を入園させた元さんの判断についてどのように考えますか」

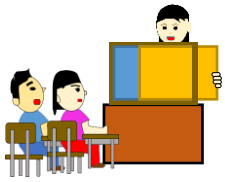
教材を提示する工夫



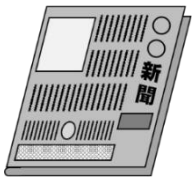
教材の**映像資料**や**音声資料**を活用すると，イメージを持たせるとともに，興味・関心を高めることができます。



資料の**分割提示**や**部分削除**，**新たな場面の追加**により意図的に議論を展開することができます。また，**事前読み**させておくと考える時間を確保できます。



教材を**劇**や**紙芝居形式**にして提示したり，**場面絵**のみを見せて範読したりすると興味・関心を引くことができます。



教材の**補助説明**で教材の理解を促す。また，ねらいとする道徳的価値に関する**補助資料**を用意し，価値を深める参考資料にする。

参考文献

[1]　道徳教育編集部：道徳教育　2016年　9月号　p71 - 73　明治図書
[2]　道徳教育編集部：道徳教育　2020年　1月号　p53 - 61　明治図書
[3]　青木孝頼：道徳資料の活用類型（1979）　p6 - 16　明治図書

教師の明確な意図

道徳科の授業づくりで
大切なことは何ですか？

道徳科の授業づくりでは，
教師の明確な意図を持つことが大切です。

教師の明確な意図とは
児童生徒に考えさせたい内容を
明らかにした**指導の方向性**のこと

→

内容項目の理解，児童生徒の実態把握，教材の活用の３点から
教師の明確な意図を持ちましょう。

教師の明確な意図の例

中学校 卒業文集最後の二行（文部科学省 わたしたちの道徳 中学校）「D-(11) 公正，公平，社会正義」

内容項目「公正,公平,社会正義」の理解

正義と公正さを重んじ，誰に対しても公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努めること。

→**差別や偏見のない社会を実現する大切さに気付かせたい。**

児童生徒の実態把握

いじめをしてはいけないと分かっているが，ダメなことをダメと言えない等，公正，公平な社会の実現に消極的な生徒が多い。

→**道徳的実践意欲と態度を育てたい。**

教材の活用

小学６年生の女の子が，服が汚いという理由で同級生からいじめの標的にされる。女の子は卒業文集最後の二行に，いじめに対する思いを込めた。

→**卒業文集最後の二行「･･･私が一番欲しいのは母でもなく，本当のお友達です。そして，きれいなお洋服です」に込められた，いじめに対する思いについて考えさせたい。**

教師の明確な意図

いじめられていた女の子の心の痛みに共感させることで，
いじめを許さない心について考えさせる。
「卒業文集最後の二行にはどのような思いが込められているか」を中心となる発問に設定する。いじめの被害者，加害者それぞれの立場でいじめについて多面的・多角的に考えさせる。

参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年	９月号	p68 - 70	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年	10月号	p68 - 70	明治図書

ねらいの設定

授業のねらいは，どのように設定すればよいの？

指導する内容項目と児童生徒の実態から，道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業をするのかを検討し，授業のねらいを設定します！

道徳性の諸様相に関する基礎知識

道徳性の諸様相とは，道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲，道徳的態度のこと。
様相は，一つ一つが独立しているものではなく，関わり合っている。
よって，授業のねらいを設定する際も，必ず一つに絞るということではない。
例）授業のねらい　「～道徳的心情を育てる」「～道徳的実践意欲と態度を育てる」

授業のねらいを設定する例　小学校高学年「B-(7) 親切，思いやり」

1．指導する内容項目の中から授業のねらいとする道徳的価値を明らかにする。
内容項目「親切，思いやり」の中で，授業では，相手の立場に立って親切にするという道徳的価値について指導する。

小学校第５学年及び第６学年「B-(7) 親切，思いやり」
誰に対しても思いやりの心をもち，**相手の立場に立って親切にすること。**

2．児童生徒の実態把握から授業のねらいを設定する。

児童の実態把握	授業のねらい
相手の気持ちを考えることなく，何かをしてあげることが親切と捉えている児童が多い。	相手の立場を考えて親切にしようとする**道徳的判断力**を育てる。
親切にすることが大切と分かっているがなかなか親切にできない児童が多い。	相手の立場に立ち，進んで親切にしようとする**道徳的態度**を育てる。

どうとくプラス　道徳性の様相を内容項目に当てはめると・・・

道徳性の様相を中学校の内容項目「礼儀」に当てはめると，例えば，以下の表のような道徳性の様相の具体的なイメージを持つことができ，授業のねらいを設定する際に役に立つ。

道徳性の様相	内容項目に合わせた道徳性の様相の具体的なイメージ
道徳的判断力	時と場に応じた適切な言動を判断する。
道徳的心情	自分から進んで礼儀にかなった行動をとると，相手と程よい距離を保つことができることのよさに気付く。
道徳的実践意欲	照れる気持ちやその場の状況に左右されず，尊敬や感謝等の気持ちを示そうとする。
道徳的態度	礼儀の意義や時と場に応じた適切な言動について主体的に考えて行動しようとする。

参考文献

[1]　道徳教育編集部：道徳教育　2019年　11月号　p68 - 70　明治図書

導入の工夫

導入で大切なことは何ですか？

主題に対する児童生徒の興味・関心を高めることです。「**考えたい**」と思わせ，**自分との関わりで考えさせる**ことが大切です。
学習指導要領解説には，以下の２つが例としてあげられています。

導入には，本時の(例１)**主題に関わる問題意識を持たせる導入**，(例２)**教材の内容に興味や関心を持たせる導入**などが考えらます。下のイメージを参考にしてください。

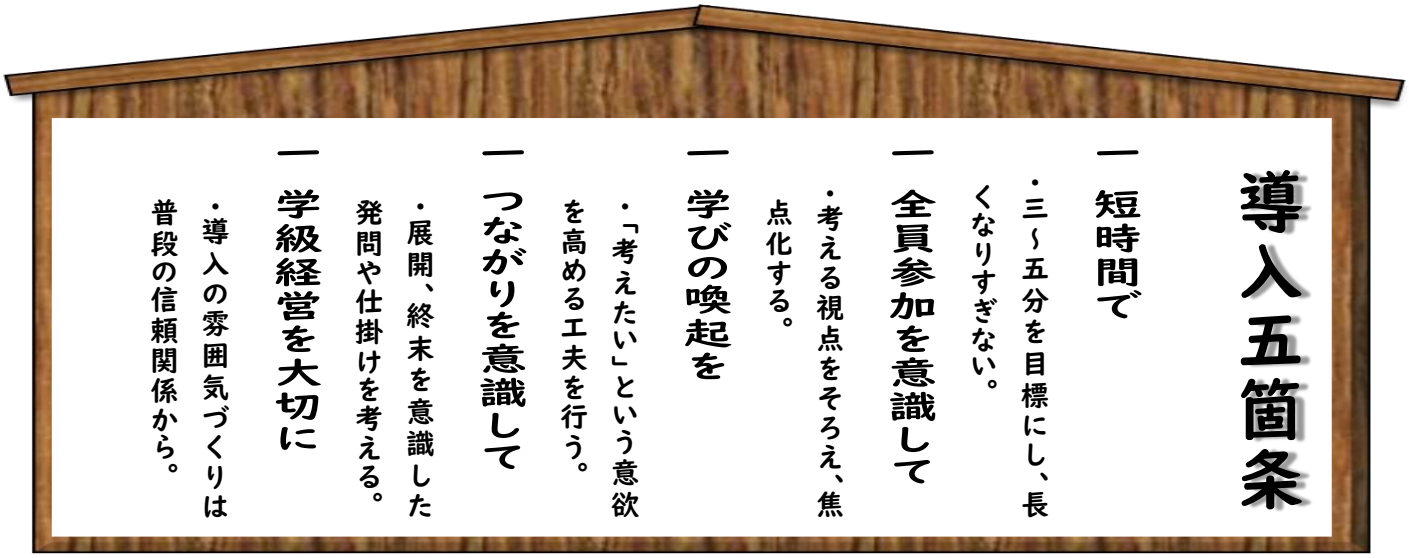
導入のイメージ（例１：主題に関わる問題意識を持たせる導入）

	授業の流れ「中学校 C-(13) 勤労」
導入	**○主題に関わる問題意識を持つ。** 教　師：働く上で大切なことは？ 生徒Ａ：一生懸命働くことが大切です。 生徒Ｂ：自分に合っているか，または好きかどうかです。 教　師：本当にそれだけですか？教材の主人公の行動を通して，働くことについて考えていきましょう。
展開	○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 ○物事を多面的・多角的に考える。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見詰める。
終末	○自分の持っていた価値観が，授業を通してどのように深まり，何が自分にとって大切なのか考え，児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。

「本当にそれだけですか？」と問うことにより，知っているつもりになっている価値観を崩し，児童生徒に，
「他にどのような考えがあるのかな？」
「自分の考えとの違いは？」
「なぜなのだろう？」
のような問題意識を持たせることができる。

指導の工夫例

例１：主題に関わる問題意識を持たせる	例２：教材の内容に興味や関心を持たせる
・日常生活のアンケート結果を提示する。 ・学校行事等の体験学習を振り返らせる。 ・新聞やニュース等から時事問題を取り上げる。	・クイズ形式で補足説明を加える。 ・教材の写真や場面絵，実物等を提示する。 （ＩＣＴ機器を活用するとよい。）



展開の工夫

展開で大切なことは何ですか？

教材を活用し，教材に含まれる道徳的価値について**自分との関わり**で「**考え**」させ，様々な方法で「**議論する**」ことを通して，物事を**多面的・多角的に捉え**させることが大切です。

考え，議論した内容を基に，**自己を見つめ**，道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めさせます。

展開では，児童生徒が導入で持った問題意識をどのように深めさせていくかが大切です。下に示した**展開のイメージ**を参考に，学習過程や指導方法を検討してください。

展開のイメージ

	授業の流れ「中学校 C-(13) 勤労」
導入	○主題に関わる問題意識を持つ。
展開	**○自分との関わりで道徳的価値を理解する。** →自分の中の「働くことの大切さ」ことについて，登場人物に自分を関わらせながら考えさせる。 **○物事を多面的・多角的に考える。** →最後まで仕事をやり遂げた登場人物の行動には，どのような思いがあるのか，様々な立場や視点，角度から考えさせる。 **○自分の問題として受け止め深く自己を見つめる。** →登場人物の思いや他の生徒の意見を聞き，自分ならどうするのだろうと再度考える。
終末	○自分の持っていた価値観が，授業を通してどのように深まり，何が自分にとって大切なのか考え，児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。

このような展開にするために

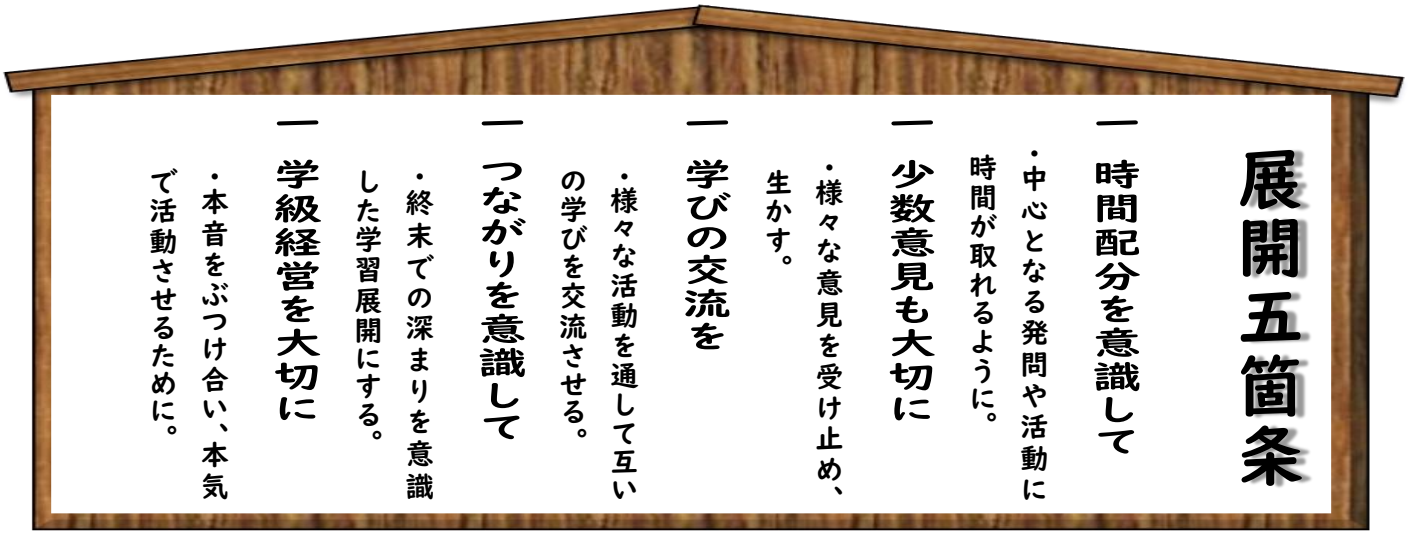
○教材のどこを中心場面として取り上げたらよいのだろうか？
→**教材の活用**へ

○多面的・多角的に考えさせる発問はどうすればよいのだろうか？
→**発問づくり**へ

○板書をどのように生かしたら，児童生徒の思考が深まるだろうか？
→**板書の工夫**へ

○表現活動を取り入れて，登場人物の心情を実感的に理解させるには？
→**道徳的行為に関する体験的な学習**へ

○どのように話合いを設定すれば様々な意見がでるだろうか？
→**問題解決的な学習**へ



終末の工夫

終末で大切なことは何ですか？

自分との関わりで考え，議論の中で出た多面的・多角的な考えを基に，**納得解を導き出させる**ことが大切です。
授業を通して**考えたことや学んだことをまとめ**，**今後の発展につなげ**させます。

児童生徒に，導入で持った問題意識がどのように深まったかを振り返らせます。価値を押し付けたり，決意表明をさせたりするような終末にならないようにし，**自己（人間として）の生き方についての考えを深めさせ**ます。**終末のイメージ**を参考にしてください。

終末のイメージ

	授業の流れ「中学校 C-(13) 勤労」
導入	○主題に関わる問題意識を持つ。
展開	○自分との関わりで道徳的価値を理解する。 ○物事を多面的・多角的に考える。 ○自分の問題として受け止め深く自己を見詰める。
終末	**○自分の持っていた価値観が，授業を通してどのように深まり，自分にとって大切なものは何か考える。児童生徒がそれぞれに納得解を導き出す。** 生徒Ａ：働く喜びを大切にしながら，**自分のやりたいことを第一に考えて**働きたい。 生徒Ｂ：好きな仕事をすることばかり考えていた。これからは，**家族や地域に貢献**することも考えたい。 生徒Ｃ：みんなの意見や主人公の生き方はとても参考になったが，やっぱり**一生懸命働くことを大切にしたい。**

振り返りの視点

感想を書かせる時には
「**何を感じたか**」
「**何を考えたか**」
「**何を学んだか**」
「**何が大切だと思ったか**」
「**これからに生かしたいことは何か**」
等の視点を与えるようにする。

ねらいを意識した振り返りをさせたい場合の発問例

道徳的判断力

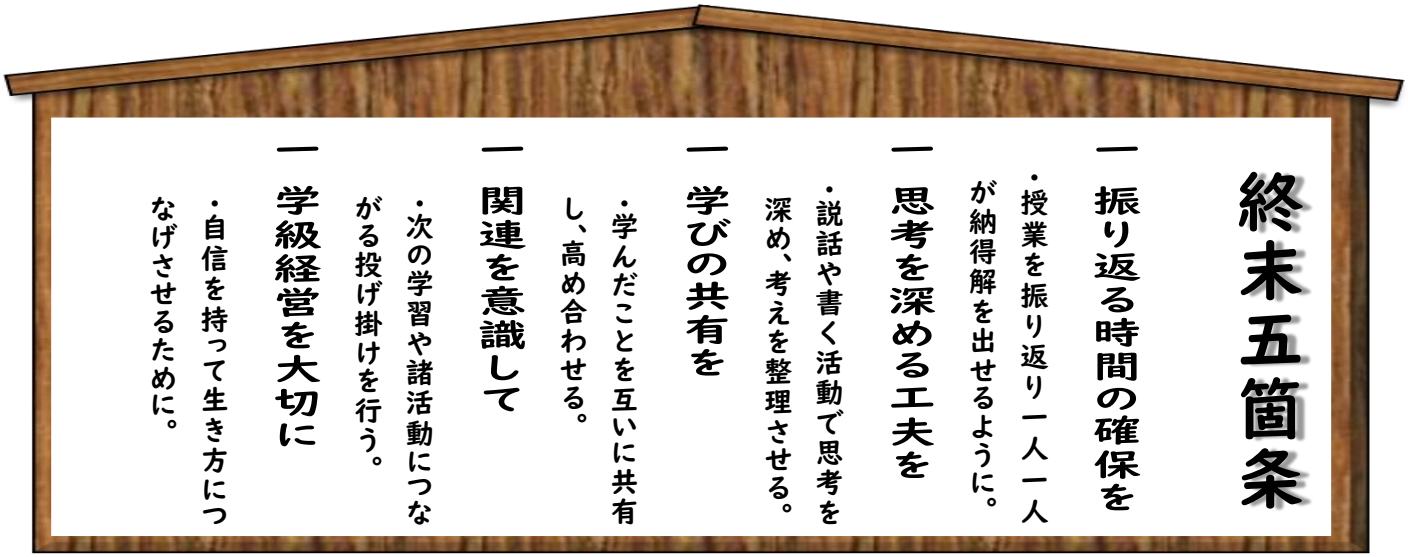
「あなたは**同じ状況に置かれたとき，どのようなことを大切に**したいですか」今日の授業を基に考えてみましょう。

道徳的心情

「あなたは**どのような気持ちを大切に**していきたいですか」今日の授業で学んだことを含め，感想を書きましょう。

道徳的実践意欲と態度

今日の授業で学んだことを，「**これからの生活にどのように生かしていきたい**ですか」感想も含めて書きましょう。



自分との関わりで考えさせる学習

自分との関わりで考えるって
どういうこと？

児童生徒がねらいとする道徳的価値について，**自分の問題として受け止め，自分の事として考える**ことです。

□自分との関わりで考えさせる学習の例

中学校　明かりの下の燭台（講談社 なせば成る！）「C-(15) 集団生活の充実」

導入	T　集団生活を充実させるために大切なことは何ですか。 S　・・・ T　体育祭や新人戦の時を思い出して考えてみましょう。 S　ルールを守る。 S　団結する。 S　自分勝手に行動しない。
展開	T　マネージャーを頼まれたら，どのような気持ちになりますか。 S　選手として認めてもらえなくて悔しい。 S　選手としてプレーしたい。 T　Aさんは，野球をしているけれど，全員が選手だったらチームは成り立つかな。 S　・・・(考え込む) S　誰かが引き受けないと，困る。 T　みなさんは，自分だったらマネージャーを引き受けますか。 S　選手になりたいから引き受けない。 S　わたしは，引き受けます。誰かがやらないといけないと思うので。 T　集団のために，選手になりたいという気持ちは我慢しないといけないのかな。 S　・・・(考え込む)

日常生活や共通体験の想起
自分との関わりで問題意識を持たせます。
→導入の工夫へ

自分だったら…
登場人物の立たされた状況に共感させ，これまでの自分の体験から感じたり，考えたりしたことを基に考えさせます。

意図的指名
児童生徒の実態把握から意図的指名をします。

建前から自分事へ
自分の事として考えないと，建前で答えてしまうことが考えられます。自分の事として考えられるように発問の工夫をします。
→発問づくりへ

学習の中で児童生徒の以下のような様子が見られるといいですね。
- ○教材の登場人物を自分に置き換えて考えているか。
- ○教材の問題点を自分のこととして受け止めて考えているか。
- ○日常生活や学校生活等を想起しながら考えているか。
- ○自分の生活を見つめ，振り返りながら考えているか。
- ○自分だったらどうするかなど考えているか。

参考文献

[1]　赤堀博行：「特別の教科　道徳」で大切なこと　P158-172　東洋館出版社
[2]　浅見哲也：宮城県総合教育センター　道徳教育研修会資料

問題解決的な学習

道徳科における問題解決的な学習って？

単なる日常生活の問題に関する話合いではなく，**道徳的価値に根差した問題を解決するための話合い等**を行う学習のことをいいます。決まった型があるわけではありません。

☑ 道徳的価値に根差した問題を把握する。（→児童生徒の実態把握へ）

日常の児童生徒との関わりの中で，本時のねらいとする道徳的価値に根差した問題を把握する。

→きまりを守ることが大切と分かっているが，自分の事を優先させてしまい，きまりを守ることができない。

→時と場合に応じて礼儀にかなった行動をとることのよさに気付いていない児童生徒が多い。

※　道徳的価値に根差した問題を把握するために，事前アンケート等をとり，導入で活用することも効果的

☑ 話合い等によって問題を解決する。

話合いの形態として，**ペアや少人数グループ等**が考えられる。

話合いでは，解決方法を考えることに終始するのではなく，自分だったらどのような解決方法がよいと考えているのか，その考えの根拠は何なのか等，児童生徒が問題を自分との関わりの中で考え，他者の異なる多様な考え方にも理解を示しながら，問題を解決するために必要な道徳的価値に気付くことができるような学習指導過程を構想することが大切です。

☑ 問題解決的な学習の例

小学校　ピアノの音が・・・・・・（東京書籍　新しい道徳６）「Ｃ－(12)　規則の尊重」

道徳的価値に根差した問題の把握

休み時間，自由に過ごす権利はあることを知っているが，騒々しくすることで静かに本を読みたい友達の権利を守っていないことには気付いていない。

１．導入

児童の実態把握を基に，道徳的価値に根差した問題を自覚させる課題を設定する。

お互いの権利を大切にするために，大事な思いや考えは何だろう。

２．展開

教材の登場人物である女性とおじさんの自他の権利を尊重するために解決する場面を問題解決の場面に設定し，問題を解決するための話合い等を取り入れる。

発問１「裁判を起こすと言ったおじさんの気持ちを考えよう」

発問２「おじさんにうるさいと言われた女の人の気持ちを考えよう」

発問３「**お互いの権利を尊重しながら解決する方法をグループで話し合いましょう**」

発問４「二人を解決に向かわせた思いや考えは何か考えよう」

３．終末

発問５「**自分にとって**お互いの権利を大切にするために，大事な思いや考えは何だろう」

参考文献

[1]　赤堀博行：「特別の教科　道徳」で大切なこと　p172 - 184　東洋館出版社
[2]　浅見哲也：宮城県総合教育センター　道徳教育研修会資料

多面的・多角的に考えさせる学習

多面的・多角的に
考えさせる学習って？

道徳科においては，多面的と多角的は，２つの言葉を合わせて意味をなすと捉えましょう。

多面的・多角的に考えさせる学習とは
道徳的価値に根差した問題を，一つの見方ではなく，様々な見方で考えさせたり，様々な角度から考察させたりすることで，道徳的価値についての理解を深めさせる学習のことです。
例えば，以下の **1** ～ **4** の４つの視点が考えられます。

多面的・多角的に考えさせる学習の視点

1 ねらいとする道徳的価値の様々な面から捉えて考えさせる

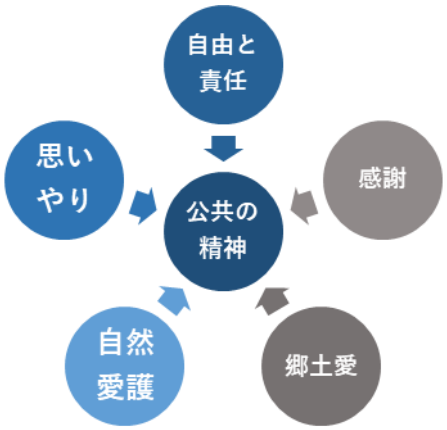
生命の尊さ
- 偶然性
- 有限性
- 連続性　等

「生命の尊さ」を
「偶然性」「有限性」「連続性」等の
様々な面から考えさせる。

▼

「生命の尊さ」に関するどの面について
考えさせることができる教材なのかを
教師が捉え，本時の授業の展開を考える。

2 ねらいとする道徳的価値を支える様々な根拠を考えさせる



「公共の精神」を支える道徳的価値には，
「自由と責任」「感謝」「郷土愛」「自然愛護」等，
人それぞれ，立場や場面などによって様々な根拠が
あることを考えさせる。

▼

発問例
「主人公が自分の生活を犠牲にしてまで
　地域のために尽くしたのはなぜでしょうか」

3　様々な登場人物の立場で考えさせる

「いじめる側」「いじめられる側」「傍観者」等の立場で捉えて考えさせる。

発問例
「本当の友達がほしいという言葉には，いじめの被害者のどのような思いが込められているのでしょうか」
「大いなる悔いという言葉には，いじめの加害者のどのような思いが込められているのでしょうか」

4　人間の強さや弱さを捉えて考えさせる

あきらめてしまいそうになる心の弱さとこんな自分になりたいという心の強さを捉えて考えさせる。

発問例
「薬物に手を出さないと決めていた〇〇選手がドーピングをしてしまったのはどうしてでしょうか」
「自分からドーピングを認める発表を行ったのはどうしてでしょうか」

多面的・多角的に考えさせる学習のイメージ（4の例）
中学２年　内容項目「よりよく生きる喜び」　教材　「本当の私」東京書籍

1．人間の“弱さ”について　「ドーピングをしたのはどうして？」
以下，予想される生徒の反応
・周りにばれないと思ってドーピングをした。
・どうしても試合に勝ちたかった。
・応援してくれている人を喜ばせたかった。

2．人間の“強さ”について　「自分からドーピングを認めたのはどうして？」
・自分を応援してくれている人にうそをついていることが辛かった。
・発表して周りから非難されることは怖かったかもしれないけれど，自分らしい生き方をしたかった。

3．自己の生き方について「よりよく生きるとはどのような生き方？」（終末）
・自分の弱さに負けてしまってもそのままにしないで，もう一度自分らしい生き方を見つけること。
・一度苦しい思いをしてもあきらめずに挑戦していくこと。私も嫌だなと思うこともあるけれど，あきらめずに挑戦していきたい。
・辛いこと，苦しいこともあるけれど，その先に楽しいこと，嬉しいことを見つけたりすること。そういう気持ちを持って，生きる喜びをたくさん感じたい。

参考文献

[1]　道徳教育編集部：道徳教育　2018年　11月号　p68 - 70　明治図書
[2]　浅見哲也：宮城県総合教育センター　道徳教育研修会資料

発問づくり

どのような手順で発問を考えていけばよいの？

まず，授業のねらいに深く関わる**中心的な発問（中心発問）**を考えます。次に，それを生かすためにその前後の発問を考え，全体を一体的に捉えるようにすると有効な場合が多いです。

■発問づくりの例

中学校 短文投稿サイトに友達の悪口を書くと（東京書籍 新しい道徳１）
「B-(８）友情，信頼」

【あらすじ】本教材は，同級生の悪口を「ネットに投稿してやる」と言い出した友達（イチロウ）を心配する，主人公（コウタ）の葛藤や行動を取り上げている。

【ねらい】友達の発言に対してはじめは同調した主人公が，次の日，友達に忠告するためにあわてて電話に向かわせたものは何かを考えさせることを通して，安易に友達の意見に同調するのではなく，お互いの幸せのために，正しいと思うことを伝えようとする道徳的判断力を育てる。

○主な発問（◎中心発問）・生徒の反応例	発問の意図
○　ネット上に人の悪口を書くと，どのようなことが起きるか知っていますか。 ・　炎上します。 ・　訴えられて処罰されるかも知れません。	教材の内容や，関連する知識を確認する。
○　コウタが，なかなか眠れなかったのはなぜでしょうか。 ・　イチロウが心配になったからです。 ・　自分の行動を後悔しているからです。	中心場面に向かうまでの，主人公の言動の変化が表れているところを取り上げ，その言動の背景にある道徳的価値について問う。
○　もしも，あなたがコウタの立場だったら，イチロウに忠告することはできますか。 ・　できます。友達が，後で大変なことに巻き込まれないようにするためです。 ・　できません。仲が悪くなったら嫌だからです。	ねらいとする道徳的価値を実現するよさや難しさについて，自分との関わりで考えさせる。
道徳的価値を実現するよさや難しさについて，多面的・多角的に考えさせるための**問い返し** ○「できる」と答えたけれど，もしも逆に文句を言われたらどうしますか。 ○「できない」と答えたけれど，大切な友達が大変なことに巻き込まれてもよいのですか。	
◎　コウタをあわてて電話に向かわせたものは何だと思いますか。 ・　友達を良い方向に導いてあげたいという，思いやりだといます。 ・　これからもずっと信頼し合える友達でいたいという思いです。	**＜中心発問＞** 中心場面で，主人公が，これまでの葛藤を乗り越えて実現させた行動の背景にある，道徳的価値について気付かせる。
○　友達と，お互いを高め合う人間関係を築くために，大切なことは何でしょうか ・　間違ったことを注意し合ったりすることが大切だと思いました。 ・　自分が言いたいことだけではなく，相手の話も聞いてあげることが大切です。	自己の生き方についての考えを深めさせ，納得解を得させる。

■ねらいに迫るための発問

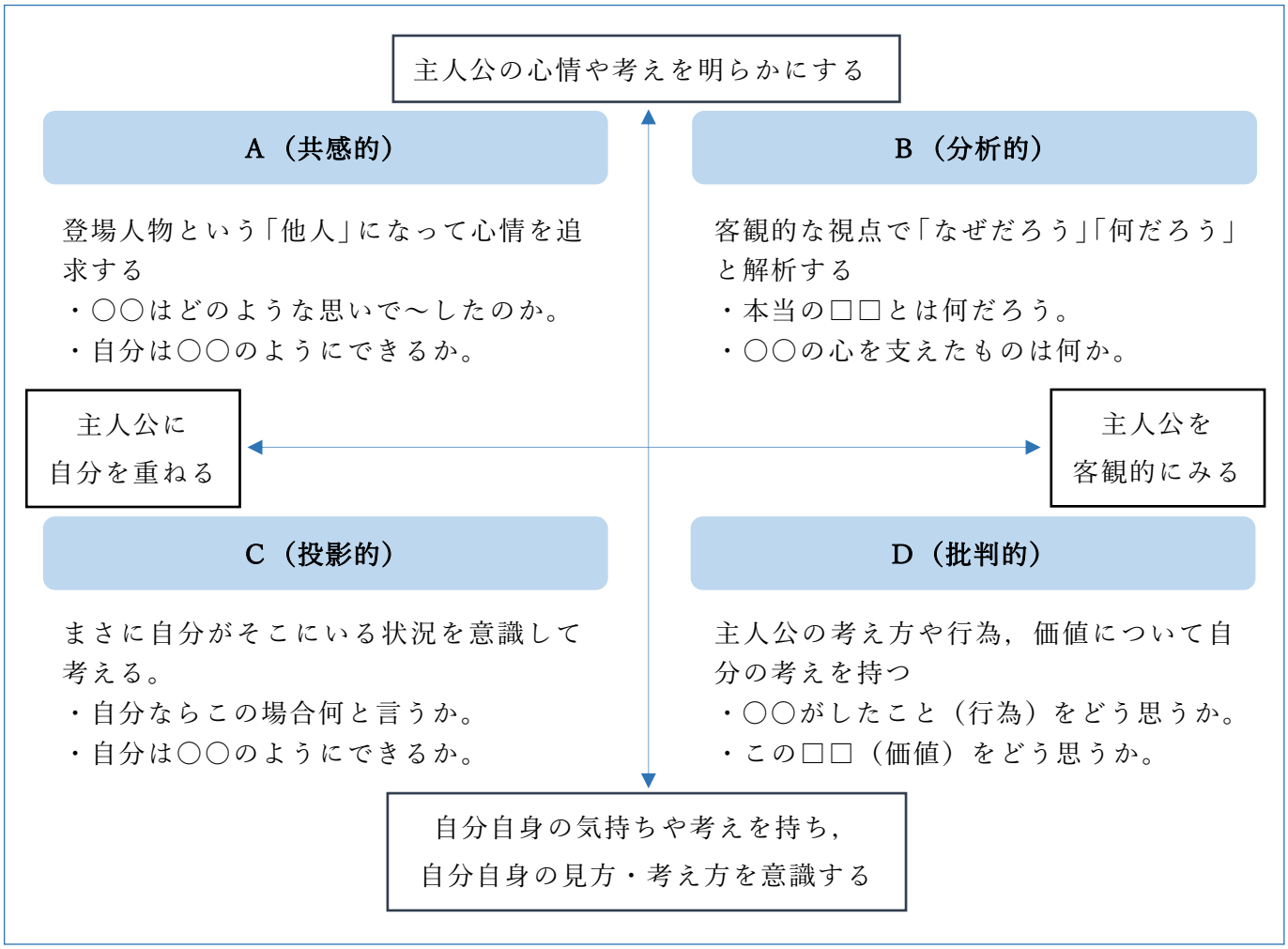
ねらいに迫るために，児童生徒の実態から道徳性のどの諸様相を育てたいのかを明確にして発問を考える。

育てたい 道徳性の諸様相	発問のポイント	発　問　例
道徳的判断力	様々な状況の中でどのように対処することが望ましいかを考えさせる	「もし自分だったらどうするか」「〇〇はどのような行動をとればよかったのか」
道徳的心情	登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えさせる	「〇〇はなぜ～したのか」「〇〇はどのようなことを思っていたのか」
道徳的 実践意欲と態度	自己を見つめ，自己の生き方と結び付けてどのようにしていきたいか考えさせる	「〇〇が大事にしているものは何か」「今後〇〇はどのような生き方をしていくと思うか」

■多面的・多角的に考えさせるための発問

教材や登場人物に対して多様な立ち位置で考えさせ，児童生徒の思考を広げる

発問の立ち位置の４区分（永田繁雄氏による）を基に作成



参考文献

[1]　道徳教育編集部：道徳教育　2018年　２月号　p71 - 73　明治図書
[2]　道徳教育編集部：道徳教育　2019年　２月号　p7 - 9　明治図書
[3]　ベネッセ教育総合研究所：VIEW21 教育委員会版2017 vol.3　p21　Benesse

道徳的行為に関する体験的な学習

道徳的行為に関する体験的な学習にはどのようなものがあるの？

児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技させる**役割演技**，動きやせりふのまねをさせる**動作化**，教材の内容を劇の形に変え，脚本にしたがって演技させる**劇化**などがあります。ここでは，役割演技を取り上げ，説明します。

▶役割演技の目的

児童生徒の演技の背景には，本人が自覚していない道徳的価値についての考えが隠れています。演技後に，演技の内容を振り返ることで，道徳的価値への理解を深めたり，新たな気付きを生んだりすることができます。

▶役割演技の留意点

□児童生徒が自分の考えを表現できる人間関係や学級の雰囲気が必要です。
□内容によっては（例：いじめに関すること等），演技させてよいかどうか，検討が必要です。

▶役割演技の前に

□ふざけない，からかわない，演技が上手いかどうかは学習には関係ないこと，登場人物の心情を理解するための学習であることを伝えます。
□演技をする場面（いつ，どこで，だれが，どのようなことをしているのか等）を明確に示します。

役割演技を取り入れた学習の流れ

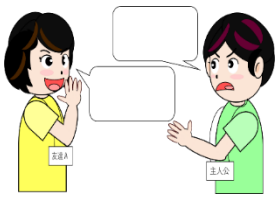
役割演技をする場面までの登場人物の心情や行動の根拠等を問う

「うそをついてしまった主人公は，どうして本当のことを言えなかったのでしょうか」　等

▼

中心場面で役割演技をさせる（葛藤場面や，道徳的価値を実現するよさや難しさに気付かせることができる場面）

「うそをついてしまった主人公は，どのような気持ちで電話を掛けたのでしょう。主人公が友達に電話をした場面を演じてみましょう」



■役割演技をさせるときの組合せ
・全員に役割演技をさせる（隣同士のペア，３～４人グループ）
・代表者にのみ役割演技をさせる（代表の児童生徒同士，代表の児童生徒と教師）

▼

演技後に演技の内容を振り返らせ，道徳的価値について考えさせる

※演技の背景にある道徳的価値についての考えを全体で共有し，理解を深めさせるために，演技後の話合いが重要である。

■教師→観衆役の児童生徒
「演技中，〇〇さんはどうして～と言ったと思いますか」
「２人の演技を見て，どのように思いましたか」　等

■教師→演じた児童生徒
「演じてみて，主人公はどのような気持ちで友達に電話を掛けたと思いますか」
「演技中，～と言ったのはどうしてですか」　等

※終末で，授業を通して大切だと思ったこと，今後の生活に生かしていきたいことなどを書かせる。

参考文献

[1]	赤堀博行：「特別の教科　道徳」で大切なこと	p184 - 200	東洋館出版社
[2]	道徳教育編集部：道徳教育　2019年　３月号	p13,15,51	明治図書
[3]	早川裕隆：体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業	p60 - 63	明治図書

板書の工夫

板書を生かすために重要なことは何ですか？

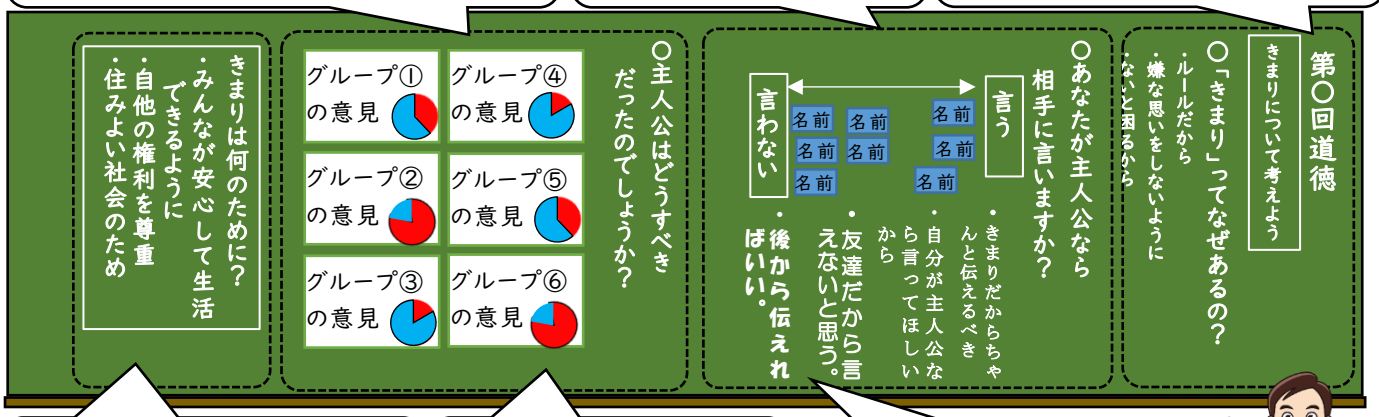
道徳科の板書は，児童生徒が**道徳的価値についての思考を深めるため**の重要な手掛かりです。思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく，対比的，構造的に示したり，中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることが大切です。

思考の深まりを意識した板書例

ホワイトボードの活用
グループでの話合いがスムーズになり，視覚的に意見を共有できます。

ネームプレートの活用
児童生徒が立場を表しやすくなります。

「第〇回」
道徳科の量的確保につながります。



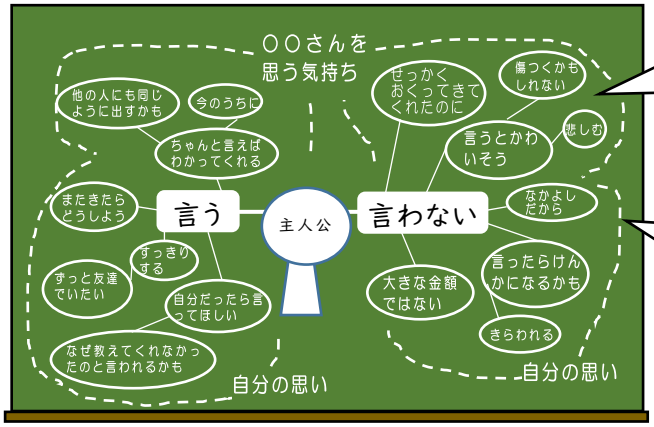
道徳的価値の深まり
終末に児童生徒の思考の深まりが分かるようにします。

心情円
個人やグループの立場を示す方法もあります。

黒板に書かせる
児童生徒の主体性が高まります。

思考を構造的に表す板書例

ウェビング（マップ）
関連したことをつなげて網のように発想を広げていく方法です。短い言葉で表現でき，自分の考えを表出しやすいほか，視覚的に分かりやすく，考えを広げたり，考えたりできます。



考えの類別
「友達を思う気持ち」と「自分中心の気持ち」を上下に分けます。

考えの対比
「言う」と「言わない」を左右に分けます。

紹介したものは，ほんの一例です。**ウェビングマップ**以外にも**座標軸**や**ベン図**，**マトリクス図**など，様々な**思考ツール**があります。学習指導案集「８　実践の記録」に実際の板書を掲載してありますので参考にしてください。

参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育	2017年	6月号	p34 - 35	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育	2018年	8月号	p38 - 39	明治図書

他の教育活動との関連

他の教育活動との関連について詳しく教えてください。

学習指導要領　第３章の第３には，「道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う**道徳教育の要**としての役割を果たすことができるよう，計画的・発展的な指導を行うこと」とあります。他の教育活動と相互に関連を図ることで児童生徒の道徳性を一層豊かに育むことができます。

▶他の教育活動との関連を意識した指導について

（小）解説p.89,90　（中）解説p.88,89

※学習指導案集の細案には，「５　他の教育活動との関連」に以下のように関連を示してあります。

他の教育活動
・国語
「生命は」（４月）

⇨

６月道徳
【自他の生命を考える】
「あなたはすごい力で生まれてきた」
・生きる力の尊さを自覚し，かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

⇨

他の教育活動
・美術（５～７月）
「私との対話」
・理科（６～７月）
「生命の連続性」
・部活動

⇨

９月道徳
【生命倫理について考える】
「人間の命とは」
・生命の尊厳について，様々な立場から考え，自他のかけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てる。

⇦

他の教育活動
・英語（10月）
「A mother's lullaby」
・社会（10月）
「人権と共生社会」
・委員会活動

道徳科の前後に道徳教育に関連する活動を示してあります。

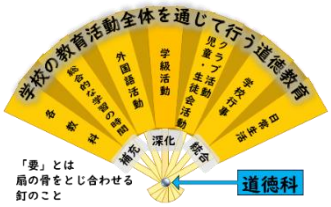
つながりが分かるように道徳科の計画は縦に並べて示してあります。

他の教育活動との関連は，各学校の「別葉」に示されているので参考にしながら作成します。
「別葉」は，道徳教育に関わる内容や活動，時期などを一覧にしたものです。授業を行う際，児童生徒の実態を踏まえて指導の関連を再検討することが大切です。

▶道徳教育の要としての「道徳科」について

（小）解説p.10－15（中）解説p.8－12

道徳科が道徳教育の要として，**補充，深化，統合**の役割を果たすことができるよう，計画的，発展的な指導を行うことが大切である。いわば，扇の要のように道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割を持つ。（右図）
※学習指導案集の細案には，「６　補充・深化・統合の視点」として示してあります。



補充→各学年の道徳教育において，それぞれの内容項目が十分に扱われているものとそうでないものがある。取扱いが不十分な内容項目について，それを道徳科で補うこと意識する。

深化→各教科等における道徳教育は，それが主たる目標ではないため，掘り下げが十分とは言えない。児童生徒の実態を踏まえ，授業で扱う内容項目の指導を，道徳科でより一層深めることを意識する。

統合→各教科等における道徳教育で様々な体験をしていたとしても，それらの相互の関連までは意識しないまま過ごしてしまうことがある。授業で扱う内容項目に関わる様々な道徳的価値について，道徳科で関連を捉え直したり，自分なりに発展させたりすること意識する。

その他の教育活動における道徳教育		道徳科（統合の例）
・職業講話で**働くことの意義**を理解する。 ・職場体験活動で**仕事のやりがい**を体験する。 ・学級活動で自他の**個性**について理解する。 ・総合的な学習の時間に**郷土**について学ぶ。	➡	・教材を基に，地域のために尽くした主人公の思いや行動について考えさせる。 ・これまで学んだことを振り返りながら，「**社会参画**」や「**個性の伸長**」「**郷土を愛する態度**」などとの関連についても考え，「**勤労**」の意義を捉え直させる。

道徳科の評価

道徳科の評価はどうすればいいの？

道徳科における児童生徒の学習状況や**道徳性に係る成長の様子**を把握し，道徳科の目標に照らし，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて**認め**，**励ます**視点から，**個人内評価**として記述します。その際，大くくりなまとまりを踏まえた評価とします。
※大くくり･･･年間を学期で区切る等大まかな時間的なくくり。

■評価の基本的な考え方

1　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

(1)道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉えようとしている。
(2)自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしている。
(3)道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

児童生徒のノート記述例

・役割演技でＡさんとＢさんの気持ちも分かるし，ＣさんとＤさんの気持ちもなるほどと思うので，すごく悩みました。そして，授業の最後には，互いに気遣い，相手の気持ちを考えることが大事だとよく分かりました。(2)

2　道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか

(1)読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりにイメージして理解しようとしている。
(2)現在の自分自身を振り返り，自らの行動や考えを見直そうとしている。
(3)自己の取り得る行動を教師や児童生徒と議論する中で，道徳的価値の理解を深めている。
(4)道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え，考えようとしている。

児童生徒のノート記述例

・大事なことは，相手の気持ちを考えて冷静に話し合うことで，今までは，自分は考えを相手のことを考えずに言ってしまうことがあったので，そこを直した方がいいのかなと思いました。(2)

☑評価のための具体的な工夫例

授業では
・発言（座席表に記録）
・感想（道徳ノートやワークシート）
・質問紙の記述（ワークシート）
・板書を写真で残す

年間や学期を通じて
・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの。
・児童生徒が道徳性を養っていく過程での，児童生徒自身のエピソードを累積したもの。
・作文やレポート，スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の成長を把握すること。

☑発言が多くない児童生徒や，考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒の見取り方

児童生徒が教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり，考えを深めようとしたりしている姿から見取ります。例えば，他の教師と協力して，複数の教師が一つの教室を参観して児童生徒の新たな一面を発見します。

参考文献

[1]　浅見哲也：宮城県総合教育センター　道徳教育研修会資料
[2]　文部科学省：小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　p107 - 114　あかつき
[3]　文部科学省：中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　p109 - 116　教育出版

指導要録と通信票における道徳科の評価の違い

指導要録と通信票の評価の違いは何ですか？

評価の基本的な考え方は共通ですが，記述の仕方が異なる場合があります。

■ 評価の記述の違い

指導要録は，個々の教材，内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価を記述します。

通信票は，難しい表現は極力避けて，児童生徒の学習状況や成長の様子が保護者に伝わるよう，分かりやすく記述します。教材名，内容項目，道徳的価値を記述してもよいかどうかは学校の判断とし，これらを記述する場合も，具体的な学習状況や成長の様子についての記述があるとよいです。

指導要録の記述例	通信票の記述例
（「多面的・多角的な見方」についての評価）	
立場を変えて考えると，相手の気持ちがよく分かることに気付くなど，多様な視点から考え，今後の生き方についての考えに生かすことができた。	いじめの内容が扱われた学習を通して，いじめをしたら，加害者，被害者，傍観者がみんな嫌な気持ちになるということに気付きました。
（「自分との関わり」についての評価）	
自分が主人公と同じ立場だったら，という目線で物事を考えていた。授業で考えたこと，学んだことを，これからの生活の中に生かそうとしている。	教材の主人公の立場に，自分を重ね合わせて考えています。思いやりについて考える学習では，相手の気持ちを察して行動することの大切さに気付きました。
（「自分との関わり」についての評価）	
役割演技では，登場人物になりきって，素直な心を表出するなど，自分との関わりで学びを深める姿が多く見られる。	父母の立場になって役割を演じる授業では，家族が自分を支えてくれる愛情の深さに気付き，自分の果たすべき役割の自覚と，家族への感謝の気持ちが高まりました。

■ 評価の記述のＮＧ例

「～を通して，道徳的判断力が高まった」・・・道徳性が育ったかどうかは評価しない。

「授業で学んだことを生かし，学校のきまりを守って」・・・道徳科の授業以外の学習状況を評価しない。

「役割演技を学級で一番一生懸命に取り組みます」・・・他の児童生徒と比較しない。

参考文献

[1] 鈴木明雄：主体的・対話的で深い学びを実現する中学校「道徳科」授業 p52 - 65 教育開発研究所

[2] 毛内嘉威：道徳授業のPDCA　指導と評価の一体化で授業を変える！ p122-143 明治図書

[3] 服部敬一：「特別の教科　道徳」の授業と評価実践ガイド p104-109 明治図書

【見取りと評価の工夫】

目次

評価の意義 ・・・・・・・・85

授業構想から評価までの流れ ・・・・・・・・86

見取りの方法 ・・・・・・・・87

見取りの工夫 ・・・・・・・・88

大くくりなまとまりでの評価 ・・・・・・・・90

Support Book

評価の意義

評価は何のために行うのですか。

児童生徒のよさを積極的に評価し，児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにするとともに，授業者自身が指導の改善に生かしていくために行います。道徳科も他教科と同じです。

■道徳科の評価

『学習指導要領』「第３章　特別の教科　道徳」第１には，次のように目標が示されています。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して，**道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度**を育てる。　※（　）は中学校

道徳科においては**「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」**ために，
道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てます。

道徳科の評価とは児童生徒の道徳性を評価するものではありません。道徳性は目に見えない内面的資質であり，授業において道徳性が育ったかどうかは容易に判断できません。そのため，道徳科の授業では児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子を評価します。

■評価の基本的な考え方

学習指導要領解説道徳編には，「評価の基本的な考え方」が示されています。
以下の２つの視点から評価を行います。

１　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。
いろいろな人の考えを参考にしながら，自分の考えを深めているか，など。

２　道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
教材の登場人物に自分を置き換えて考えたり，自分自身を振り返り自らの行動や考えを見直したりしているか，など。

２つの視点から，児童生徒のよさを認め，自分自身の授業改善につなげていきましょう。

指導と評価の一体化を意識して，児童生徒の学習状況を基に学習指導過程や指導方法を振り返り，**授業者自身の指導の改善**に生かすとともに，**児童生徒へのフィードバック**を行う。

考えを交流させる場を設定したら，色々な考えに気付かせることができた。次は，より自分事として考えられるような展開を考えよう。

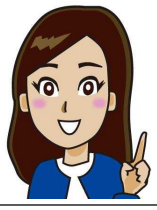
授業力が向上する

学習したことの意義や価値を実感できる

なるほど！そんな考え方もあるんだ…。もう少し考えてみたいなあ。

これまでの経験を振り返らせたら,改めて価値について考えさせることができた。

教師



私はこう考えるけど，友達の考えも聞いてみたいな。考えることって大切なんだね！

児童生徒

授業構想から評価までの流れ

評価をするまでの流れがよく分かりません。授業で見取った学習状況を大くくりなまとまりで評価するとはどのようなことですか。

評価までの流れのイメージが持てるように，学習状況を大くくりなまとまりで評価する流れを紹介します。
※大くくり…年間を学期で区切る等大まかな時間的なくくり。

■学習状況を大くくりなまとまりで評価する流れ（例）

1　授業の構想

内容項目の理解，児童生徒の実態把握，教材の活用から，明確な意図を持って授業を構想する。考えさせたい道徳的価値について，児童生徒の学習状況を整理しておく。

↓

2　授業

授業のねらいを基に，児童生徒の道徳科における学習状況を見取る。児童生徒へ認め励ます声掛けを行う。

↓

3　学習状況の記録と，児童生徒へのフィードバック

・児童生徒の発言やつぶやき，表情等を記録する。
・ワークシート等へのコメントや声掛けで児童生徒を認め励ます。

指導と評価の一体化

3　指導の改善

・発問や展開が児童生徒の考えや発言を引き出すものになっていたか，児童生徒が道徳的価値の理解を基に考えを深めていたか，振り返り，指導の改善を行う。

↓

4　1～3の積み重ね

・学習状況の記録を蓄積する。
・児童生徒の良さを見付けて認め励ます。
・授業の改善点を次の指導に生かす。

↓

5　大くくりなまとまりでの評価

・通信票への記述
・指導要録への記述

通信票は，受け取った児童生徒や保護者に学習状況や成長の様子が伝わるように記述する。
指導要録は，大くくりなまとまりを踏まえた評価を記述する。

通信票などで，児童生徒や保護者に学習状況や成長の様子を的確に伝えるためには，毎回の授業の見取りの記録が大切だと気付きました。
毎時間，授業後には，ワークシート等へのコメントや声掛けで，児童生徒を認め励ましています。また，指導の改善を意識して授業の振り返りを行っています。

見取りの方法

見取りの方法について教えてください。

見取りの方法については，大きく「ワークシートやノートなどの児童生徒が書いて残したもの」「児童生徒の発言や様子から教師が記録して残したもの」の２つに分けることができます。

■見取りの方法

見取りの方法の例として，以下のものが考えられますが，**児童生徒の実態等に合わせて，いくつかを組み合わせて**評価を行います。

▷児童生徒が書いて残したもの

ワークシート 道徳ノート 成長 改善	授業で扱う道徳的価値について，児童生徒が自分の考えを書くもの。中心発問で考えさせたいことを書かせる，思考ツールを活用して多面的・多角的に考えさせる，終末場面で自己（人間として）の生き方について考えさせることなどを通して，児童生徒の考えやその変容を見取ることができる。児童生徒の考えの内容から授業改善にも生かすことができる。
事前アンケート 成長 改善	授業前に授業で扱う道徳的価値等について，児童生徒がどのように捉えているかの実態を把握し，明確な意図を持って授業を構想することができる。また，授業の最後に事前アンケートと同じ発問をすることで考えの変容や深まりを見取ることができる。

ワークシートは毎時間の授業のねらいに応じて作成することができるので，ねらいに沿った授業展開ができます。そのため，児童生徒の考えが見取りやすいよさがあります。また，**道徳ノート（マス目，罫線のもの）**は，教師が記述項目（中心発問に対する考え，自己の生き方についての考え等の記述）のレイアウトを決めておくことで，児童生徒の考えの変容を見取りやすく，児童生徒にとっても振り返りをしやすいよさがあります。

▷児童生徒の発言や様子から教師が記録をして残したもの

座席表のメモ 成長 改善	授業中に児童生徒の考えを分類し記号として記録に残したり，メモをしたりして記録に残しておくもの。発問に対する児童生徒の考えが分かる。ワークシートや道徳ノートと合わせて，考えの変容や深まりを見取ることができる。
板書の写真 成長 改善	授業後（または授業中）に板書の写真を撮り，記録として残すもの。発問に対する児童生徒の考えが分かる。ワークシートや道徳ノートの記述と合わせて，考えの変容や深まりを見取ることができる。児童生徒の考えの内容から指導の改善にも生かすことができる。
道徳記録ノート （教師用） 成長 改善	道徳の時間における児童生徒の学習状況を，ノートなどに記録をして残しておくもの。あらかじめ抽出した児童生徒や，特に成長が見られた児童生徒の発言や様子を記録に残しておく。児童生徒が書いたノートやワークシートの記述以外にも，発言，つぶやき，ペアやグループ学習での友達との関わり，役割演技等のパフォーマンス，うなずき，表情などを記録する。そうすることで，児童生徒の学習状況や成長の様子の記録が蓄積でき，大くくりなまとまりでの評価につなげることができる。

※ 成長 は児童生徒の成長の様子が分かるもの， 改善 は指導の改善に生かせるもの

見取りの工夫

見取りの方法をもっと詳しく知りたいです。

ワークシート，板書の写真，道徳記録ノートの例を紹介します。少し意識したり，工夫したりするだけで，児童生徒の変容がよく見取れるようになります。

■見取りの工夫の実際

▷児童生徒が書いて残したもの「ワークシート」の例

月　　日 第　　回　道徳　「新しいプライド」

1 年　　組　　番 名前

☆将来の仕事を考える時に，何を大切にしたいですか。
本当にやりたいと思える仕事。
給料（家族を守るのに十分）

1 主人公が車両清掃の仕事に誇りを持てるようになったのはなぜだろう。

2 「働く」ということについて，この話を通して，どのようなことを考えました

3 「働くこと」について授業を通して考えたことを自分の将来のことをイメ　ながらまとめてみよう。

☆将来の仕事を考える時に，何を大切にしたいですか。
お金とかではなく誇れる仕事。
やりがいのある仕事を選ぶのが一番大切。

＜一面的な見方から　多面的・多角的な見方へ発展させている＞

授業で扱う道徳的価値に関して，授業の始めと終わりに同じ発問を設定しました。友達と議論する中で，友達の考えも参考にしながら自分の考えを深めていることが分かります。

＜道徳的価値の理解を　自分自身との関わりの中で深めている＞

事前アンケートで児童生徒の実態を把握し，授業を構想しました。授業では登場人物に自分を投影して考え，自分自身の問題として振り返ることができました。

▷児童生徒が書いて残したもの「事前アンケート」の例

道とく　アンケート

3年　　組　名前（　　）

1　家のお手つだいをすることはすきですか。（○をつけてください）

とてもすき　　すき　　少しすき　　すきではない

2　それはなぜですか？

ほかにやりたいことがあるから，少しめんどうくさい。

3　家のお手つだいをするとき，どんな気持ちでしごとをしていますか。

すぐにおわるけど，やりたい気もちのときはあまりない。

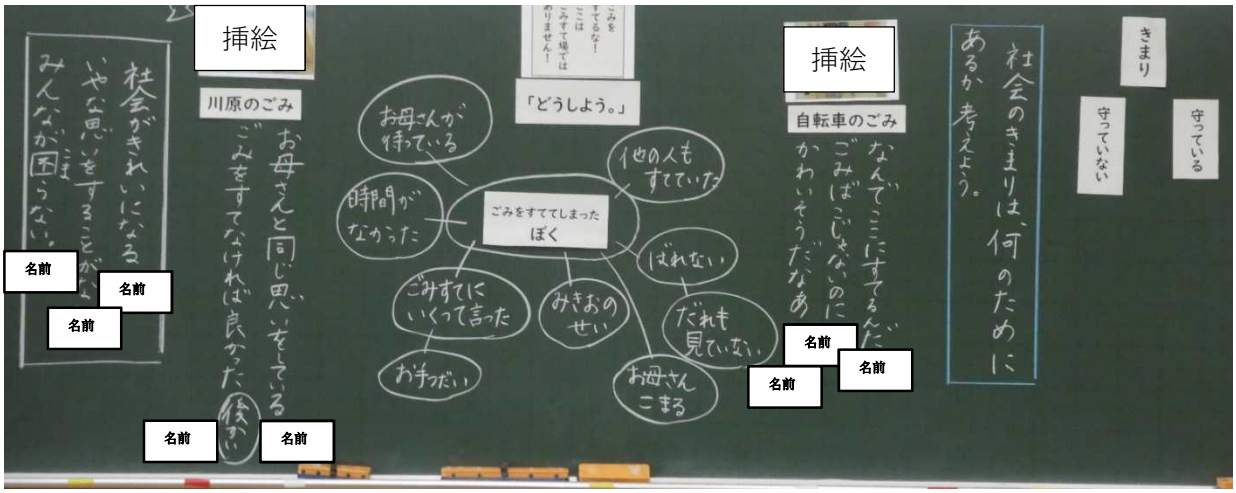
月　　日（　　）だい　　回　どうとく

ごみステーション

はたらくときに大切な気もちについて考えよう。

わたしがお手つだいをすると家ぞくのためになるので，これからはすすんでやってみようと思います。おじいさんみたいに，これからはみんなのためになるようにお手つだいをしてみようと思いました。

▷児童生徒の発言や様子から教師が記録をして残したもの「板書の写真」の例

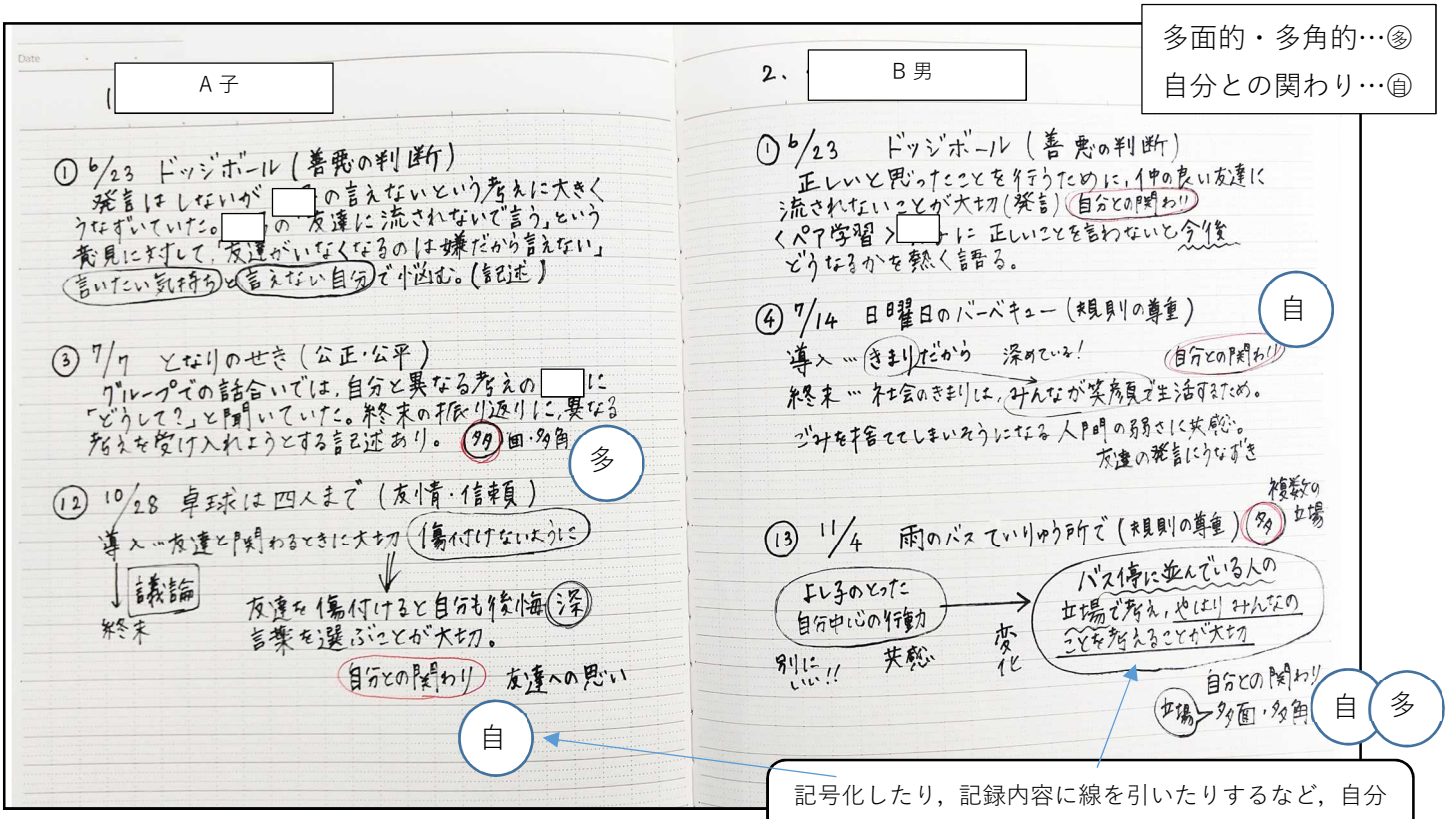


思考ツール「ウェビングマップ」を活用して，登場人物の心の迷いを可視化しました。児童生徒が出した考えから，発問は，児童生徒が多面的・多角的に考えることができる問いであったか，自分のこととして捉えることができる問いになっていたかなど，指導の意図に基づいて授業を振り返り，指導の改善に生かすことが大切です。

また，写真に発表者の名前を残しておくとワークシートと合わせて考えの変容や深まりが分かります。特に書くことが苦手な児童生徒の考えを把握したいですね。

▷児童生徒の発言や様子から教師が記録をして残したもの「道徳記録ノート」の例

多面的・多角的…多
自分との関わり…自



記号化したり，記録内容に線を引いたりするなど，自分なりに工夫をして効率的に記録することが大切です。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか，の２つの視点を重視し，記録に残すようにします。１時間の授業で全員分の記録を残すのは困難です。あらかじめ抽出した児童生徒や，特に成長が見られた児童生徒の発言や様子に絞って記録しましょう。

大くくりなまとまりでの評価

蓄積した学習状況の記録を基に，評価につなげるときに大切なことを教えてください。

授業の記録を残した道徳記録ノートや児童生徒が書いたワークシートを基に，児童生徒がいかに成長したかを積極的に認め励ます視点から評価を行うことが大切です。

■授業の記録を残した道徳記録ノートとワークシートから評価につなげる例

▷授業中，積極的に発言する児童

道徳記録ノート

ＮＯ．３　　Ｃ子

①６／23 ドッジボール　（善悪の判断）

授業中は反対の立場の「言えない」と言った児童の気持ちも理解しようとしていた（発言）㊀

④７／14 日曜日のバーベキュー（規則の尊重）

登場人物の人間の弱さに共感していた㊀（発言）

→きまりを守る意義を自分なりに考えている。㊀

⑫10／28 卓球は四人まで（友情・信頼）

導入時…相手の気持ちを考えて，言葉に気を付けている（発言）中心場面…友達の考えをよく聞き自分の考えと比較して，発言をつなぐ。（板書の写真）㊁㊀

ワークシート

７／14　日曜日のバーベキュー

６／23　ドッジボール

４年　　Ｃ子

正しいと思ったことを判断するために大切なことについて考えよう

言う　　言えない

自分が本当の事を知っていたら自信を持ってはっきりと言おうと思った。言いにくくても本当の事を言ったら，誰かが気付いてくれて賛成してくれると思う。

「一面的な見方から多面的・多角的な見方」へと発展させている通信票の記述の例

どの授業においても友達の話をよく聞き，自分の考えも発言していました。「ドッジボール」の学習では，自分と異なる立場の考えも理解しつつ，正しいことははっきり言った方が良いと，自分の考えを持ちました。

道徳的価値の理解を「自分自身との関わり」の中で深めている通信票の記述の例

教材の登場人物と自分を重ねながら学習に取り組み，自分にとって何が大切かを考えていました。きまりについての学習では，きまりの意義について自分やまわりの人たちが気持ちよく過ごすためにあると深く考えていました。

指導要録の記述の例

読み物教材の登場人物と自分を重ね，道徳的価値に関わる問題について主体的に考えていた。自分と異なる立場の考え方を理解しようとし，これからの自分の生活に生かそうとしていた。

話すことや書くことが苦手な児童生徒には，机間指導の際に聞き取りを行い，その場面で認め励ますようにしました。そうすることで，自信を持って発言できるようになった児童生徒もいます。授業後，忘れないうちに見取ったことを記録に残しておくことが大切だと感じました。

▷授業中，発言が少なく，書くことが苦手な児童

道徳記録ノート

ＮＯ．４　　Ｄ男

④７／14 日曜日のバーベキュー（規則の尊重）
声掛けをして，終末「社会のきまりはみんなで使うものだから大事にしよう」と記述し，みんなが笑顔でいられるようにと発言。㊀

⑫10／28 卓球は四人まで（友情・信頼）
導入時…友達がいて良かったのは友達に良いところをほめてもらったとき（発言）授業中は，教材の中の「しゅん」の気持ちになり，判断を誤った根拠を様々な視点から考えていた（発言）㊁

⑬11／4　雨のバスていりゅう所で（規則の尊重）
友達の話を聞き，みんなのことを考えるといいんじゃない？とつぶやく。㊀

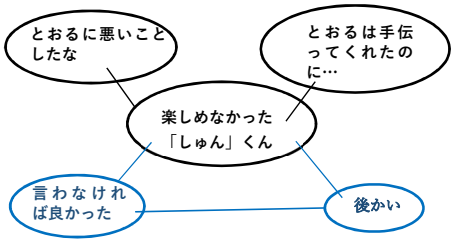
前時まで，発言や記述がほとんど見られなかったので，授業中に聞き取りを行い，認め励ましたところ，発言につながった。

ワークシート

11／4　雨のバスていりゅう所で

10／28　卓球は四人まで
４年　　Ｄ男

友達と関わるときに大切なことについて考えよう。



友達と関わるときは後かいしないようにしたい。

「一面的な見方から多面的・多角的な見方」へと発展させている通信票の記述の例

授業中は自分が教材の登場人物の立場ならどんな気持ちになるのかを考えながら発言するようになりました。「卓球は四人まで」の学習では，友達と関わるときは，相手を傷付けないように，話し方に気を付けようと考えていました。

道徳的価値の理解を「自分自身との関わり」の中で深めている通信票の記述の例

「きまり」についての学習では，教材の内容と自分の生活を照らし合わせながら考えていました。「日曜日のバーベキュー」の学習では，きまりはみんなが笑顔で気持ちよく過ごすためにあると考えていました。

指導要録の記述の例

読み物教材の登場人物に自分を置き換えて考えていた。道徳的価値を理解することの難しさを感じた上で，大切なことを考えようとしていた。

【「協働による授業づくり」の推進】

目次

● 協働による授業づくりの良さ ・・・・・・・・・９４

● 校内研修の年間計画 ・・・・・・・・・９５

● 校内研修の具体例

（１）５分コース ・・・・・・・・・９６

（２）30 分コース ・・・・・・・・１００

（３）60 分コース ・・・・・・・・１０２

● 指導体制の工夫，複数の教師による評価 ・・・・・・・１０４

「協働による授業づくり」の推進

自分一人で授業づくりをしていると，「考え，議論する道徳」の授業ができているのか，不安になります。

学校全体で**協働による授業づくり**を行うことで，教師同士が学び合うことが日常的になり，道徳科の理解の深まりや指導力の向上につながります。

協働による授業づくりの良さ

□道徳科の理解の深まりや授業の質の向上につながる。
□児童生徒の変容を複数の目で見取り，評価に対して共通認識を持つことができる。
□指導の系統性について考えることができる。
□異なる立場（学年，教科等）からの意見が，授業者の新たな気付きを促し，指導力が向上する。

学校全体で**共通の視点**をもって授業づくりに取り組むことが大切です。ぜひ「サポートブック」を使って，共通理解を図りながら協働による授業づくりを行ってみてください。

1　サポートブックを活用した校内研修

学校の実状に合わせて，**5分コース，30分コース，60分コース**の3種類の研修を，いろいろな組合せで行うことができます。

種類	内容	ねらい
5分コース **「ワンポイント研修」** Support Book p 98～101	○道徳科の基本的な理論等の共通理解を図る。 ○道徳科の用語の意味を理解する。	・年間を通して，継続して研修を行うことによって，道徳科の授業に対して意識の向上を図る。 ・理論編と演習編を組合せながら行うことによって，理論を知った上で実践に生かす。
30分コース **「実践ミニ研修」** Support Book p 102～103	○道徳科の基本的な理論等の共通理解を図る。 ○具体例を基に，授業構想や評価についての理解を深める。	・年度初めに検討・確認したいこと，学期の途中で確認したいことを共通理解しながら，道徳科の授業を進める。 ・「サポートブック」の内容と実際の授業を結び付けて考える。 ・学校全体の評価の捉えの統一を図る。
60分コース **「授業づくり研修」** Support Book p 104～105	○協働による授業づくりを行い，実践的指導力向上を図る。	・今後行う授業を構想したり，模擬授業を行ったりすることで授業を見る視点について共通理解を図り，授業実践力を伸ばす。

（１）校内研修の年間計画例

月	例１：実践力を高めたい場合			例２：道徳科の理解を実践力につなげたい場合			例３：道徳科の理解を積み上げたい場合		
	コース	研修内容		コース	研修内容		コース	研修内容	
4	30分	理論編１	「考え，議論する道徳」の実際	5分	理論編１	基本的な理論１	5分	理論編１	基本的な理論１
5	5分	理論編11	評価の基本的な考え方	5分	理論編４	教師の明確な意図	5分	理論編11	評価の基本的な考え方
6	5分	理論編３	内容項目の理解	30分	演習編１	見取りと評価の具体	5分	理論編２	基本的な理論２
	「基本的な理論」「評価」については年度初めに研修を行い，共通理解を基に道徳科の授業を進めていけるようにしましょう。								
7	5分	理論編10	発問づくり	5分	理論編５	学習指導過程４つのポイント	5分	理論編３	内容項目の理解
8	60分	演習編１	１時間の授業を構想する	60分	演習編１	１時間の授業を構想する	5分	理論編４	教師の明確な意図
	時間はかかりますが，「１時間の授業を構想する」演習はとても効果的です。ぜひ長期休業期間等に行ってみてください。								
9	5分	演習編１	自分との関わりで考えさせる展開例	5分	理論編６	学習指導過程４つのポイント	5分	理論編５	学習指導過程４つのポイント
10	5分	演習編２	多面的・多角的に考えさせる展開例	5分	理論編７	学習指導過程４つのポイント	5分	理論編６	学習指導過程４つのポイント
11	5分	演習編３	ねらいに迫るための発問を構想する	5分	理論編８	学習指導過程４つのポイント	5分	理論編７	学習指導過程４つのポイント
12	60分	演習編２	模擬授業を行う	5分	理論編９	学習指導過程４つのポイント	5分	理論編８	学習指導過程４つのポイント
1				5分	演習編１	自分との関わりで考えさせる展開例	5分	理論編９	学習指導過程４つのポイント
2				5分	演習編２	多面的・多角的に考えさせる展開例	5分	理論編10	発問づくり
3				5分	理論編10	発問づくり	5分	演習編３	ねらいに迫るための発問を構想する

理論編の研修を中心に行った次の年は，演習編を取り入れてみるなど，複数年を見通して研修を計画できるといいですね。

（２）校内研修の具体例

①５分コース「ワンポイント研修」（打合せ・職員会議など）

理論編

		研修内容	ねらいと流れ	
道徳科の基本を押さえる	理論編1	**基本的な理論１** 〈教科化の背景・道徳科の目標〉 理論 「教科化の背景」 「道徳科の目標」p５～７	ねらい	教科化の背景と道徳科の目標について，共通理解を図る。
			流れ	①これまでの道徳の授業を振り返り，教科化されて変わったことはどのようなことだと思うか，意見を交換する。 ②サポートブックで，「教科化の背景」と「道徳科の目標」を確認する。
	理論編2	**基本的な理論２** 〈「考え，議論する道徳」の捉え方〉 理論 「『考え，議論する道徳』の捉え方」p８	ねらい	「考え，議論する道徳」の捉え方について，共通理解を図る。
			流れ	①「考え，議論する道徳」の各自の捉え方をワークシートに書き，共有する。 ②サポートブックで，「『考え，議論する道徳』の捉え方」を確認する。
明確な意図を持つ	理論編3	**内容項目の理解** 授業づくりのポイント 「内容項目を理解するポイント」p６２ 内容項目集p１０～１１	ねらい	児童生徒の発達段階に応じて指導内容が異なることを押さえ，内容項目の理解を深める。
			流れ	①サポートブックで，「内容項目を理解するポイント」を確認する。 ②サポートブックの「内容項目集」で指導の要点について，確認する。
	理論編4	**教師の明確な意図** 授業づくりのポイント 「教師の明確な意図」p６６	ねらい	「明確な意図」を持つために必要な３点（内容項目の理解，児童生徒の実態把握，教材の活用）についての理解を深める。
			流れ	①道徳の授業づくりで大切だと思うことについて，意見交換をする。 ②サポートブックで，「教師の明確な意図」について，確認する。
	理論編5	**学習指導過程４つのポイント** （全体） 授業づくりのポイント 「学習指導過程４つのポイント」p６１	ねらい	１時間の学習指導過程を構想する時に押さえておきたい４つのポイントを確認する。
			流れ	①普段の道徳の授業をどのような流れで構想しているか，意見交換をする。 ②サポートブックで，「学習指導過程４つのポイント」を確認する。

学習指導過程を構想する	理論編6	**学習指導過程 4つのポイント**〈問題意識を持たせる〉 Support Book 授業づくりのポイント「導入の工夫」p68	ねらい	児童生徒が問題意識を持つための導入の工夫について，理解を深める。
			流れ	①普段の道徳の授業の導入場面でどのような学習活動をしているか，意見交換をする。 ②サポートブックで,「導入の工夫」について，確認する。
	理論編7	**学習指導過程 4つのポイント**〈多面的・多角的に考えさせる〉 Support Book 授業づくりのポイント「多面的・多角的に考えさせる学習」p73～74	ねらい	児童生徒が多面的・多角的に考えるための工夫について，理解を深める。
			流れ	①短めの教材を取り上げ，多面的・多角的に考えさせるために，どのような発問や学習活動ができるか，意見交換をする。 ②サポートブックで,「多面的・多角的に考えさせる学習」について，確認する。
	理論編8	**学習指導過程 4つのポイント**〈自分との関わりで考えさせる〉 Support Book 授業づくりのポイント「自分との関わりで考えさせる学習」p71	ねらい	児童生徒が自分との関わりで考えるための工夫について，理解を深める。
			流れ	①サポートブックで,「自分との関わりで考えさせる学習」について，確認する。 ②サポートブックの学習指導案集で発問や学習活動の例を確認する。
	理論編9	**学習指導過程 4つのポイント**〈自己(人間として)の生き方について考えさせる〉 Support Book 授業づくりのポイント「終末の工夫」p70	ねらい	児童生徒が自己（人間として）の生き方について考えるための終末の工夫について，理解を深める。
			流れ	①サポートブックで,「終末の工夫」について，確認する。 ②サポートブックの学習指導案集で発問や学習活動の例を確認する。
発問を工夫する	理論編10	**発問づくり** Support Book 授業づくりのポイント「発問づくり」p75～78	ねらい	授業のねらいに迫るための発問づくりについて，理解を深める。
			流れ	①普段の道徳の授業で，どのような発問をしているか，意見交換をする。 ②サポートブックでねらいに応じた発問の例を確認する。
評価の基本を押さえる	理論編11	**評価の基本的な考え方** Support Book 道徳科の評価「評価の意義」「授業構想から評価までの流れ」「見取りの方法」「見取りの工夫」p85～89	ねらい	道徳科の評価についての基本的な考え方と見取りの方法について，共通理解を図る。
			流れ	①道徳科の評価をどのように行ってきたか，どのように行えばよいと思うかを，意見交換する。 ②サポートブックで，道徳科の評価の基本的な考え方と評価を行う際に押さえておきたい大きな2つの視点を確認する。

演習編

		研修内容	ねらいと流れ	
思考ツールの使い方を知る	演習編1	**自分との関わりで考えさせる展開例** クラスメートが間違っていることをしていたら，注意できますか？ できる　できない 授業づくりのポイント 「自分との関わりで考えさせる」 「板書の工夫」p71，p78	ねらい	心情スケールを活用し，自分との関わりで考えることについて体験する。
			流れ	①サポートブックで要点を確認し，テーマを提示する。対立が生じる身近なテーマだとよい。 ②黒板か模造紙に心情スケールを書き，自分の考えに近い場所に名前を書く。 ③他の教師の考えとその理由を聞き，様々な考えを共有する。
	演習編2	**多面的・多角的に考えさせる展開例** 苦手だとは言えない 気持ちはうれしい もらったお土産が苦手な食べ物だったら とりあえずお礼を言わなきゃ こっそり誰かにあげよう 授業づくりのポイント 「多面的・多角的に考えさせる」 「板書の工夫」p73～74，p81	ねらい	ウェビングマップを活用し，多面的・多角的に考えることについて体験する。
			流れ	①サポートブックで要点を確認し，テーマを提示する。複数の感情や葛藤が生まれるような身近なテーマだとよい。 ②ワークシートに各自の考えを書く。時間があれば近くの人と意見交換をする。 ③進行役の教師（道徳教育推進教師等）が模造紙や黒板にウェビングマップを作成する。
発問を工夫する	演習編3	**ねらいに迫るための発問を構想する** 考えやすい教材の例 ＜小学校＞ ・大きな絵はがき（小4） ・手品師（小6） ＜中学校＞ ・銀色のｼｬｰﾌﾟﾍﾟﾝｼﾙ（中1） ・二通の手紙（中3） 内容項目集　p10～ 授業づくりのポイント 「発問づくり」p75～76	ねらい	実際の教材を活用し，ねらいに迫るための発問を構想する。
			流れ	※事前に教材を読んだ上で研修を行う。短めの教材や，長年活用されている教材にすると進めやすい。中心場面をどこにするか考えておく。 ①「『指導の要点』と教材関連表」を参考に，授業のねらいを共通理解する。 ②中心場面を設定し，ねらいに迫るための発問を考える。 ③他の教師の考えを聞き，様々な考えを共有する。

研修会の進め方

（例）５分コース「ワンポイント研修」
理論編２　「基本的な理論２」

ねらい	「考え，議論する道徳」の捉え方について，共通理解を図る。		
準備物	参加教師：サポートブック，筆記用具 進行役の教師：サポートブック，ワークシート		
研修の流れ	時間	活動内容	進行手順
	30 秒	ねらいの確認	「道徳科では『考え，議論する道徳』の授業への転換が求められています。今日は，『考え，議論する道徳』とはどのような授業なのか，みなさんで考えていきたいと思います。」
	4 分	「考え，議論する道徳」について考える	「『考え，議論する道徳』とは，どういう授業だと思いますか。ワークシートに書いてみてください。」 （書く） 「書いたことを３～４人の小グループを作って共有してください。」 （話合い） 「学年で話してみて，『やっぱりそうだよね』や『そんな考え方もあったのか』と思った考えはありましたか。今，先生方が行ったことが，道徳科で言う『議論する』ということの第一歩だと思います。」 ・サポートブックの「考え，議論する道徳とは」を基に説明する。
	30 秒	まとめ	「これから道徳の授業を行う際に，今日みなさんで考えて確認した『考え，議論する』ことを意識して進めていきましょう。」

ワークシート例

このような研修を継続することで，日常的に道徳について話し合える雰囲気ができ，学校全体の授業力を向上させることにつながります。

②30 分コース「実践ミニ研修」（放課後など）

理論編

道徳科の基本・明確な意図・学習指導過程

	研修内容	ねらいと流れ	
理論編1	**「考え，議論する道徳」の実際** 理論 「教科化の背景」 「道徳科の目標」 「『考え，議論する道徳』の捉え方」**p５～８** 授業づくりのポイント 「教師の明確な意図」**p６６** 「学習指導過程４つのポイント」**p６１**	ねらい	提案授業を基に，「考え，議論する道徳」の授業を構想する際に押さえておきたい理論について，共通理解を図る。
		流れ	①サポートブックで，基本的な理論を確認する。 ②サポートブックで，明確な意図を持って授業を構想することについて確認する。 ③サポートブックで，学習指導過程を構想する際に押さえておきたいことを確認する。 ④提案授業の学習指導案と「学習指導過程４つのポイント」を照らし合わせ，実際の授業のねらいや学習指導過程，発問について具体的なイメージを持つ。

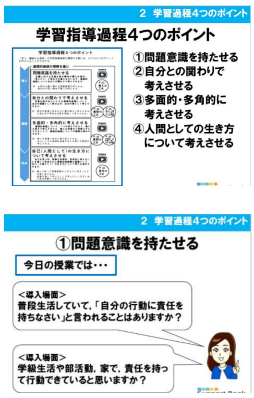
演習編

見取りを行う

	研修内容	ねらいと流れ	
演習編1	**見取りと評価の具体** 道徳科の評価 「評価の意義」**p８５** 「大くくりなまとまりでの評価」**p９０～９１**	ねらい	児童生徒の実際の記述を活用し，道徳科の評価の基本的な考え方を基に，見取りを体験する。
		流れ	①サポートブックで，評価の基本的な考え方を確認する。 （児童生徒の記述のコピーを配る。） ②児童生徒の実際の記述を見て，実際に見取りを行う。「自分との関わりで考えている」部分には青線，「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」部分には赤線を引く。 ③どの部分に線を引いたか，情報交換をする。 ④（可能であれば）事前に準備した評価の例を共有し，見取った情報をどのように評価につなげたらよいかを確認する。

研修会の進め方

（例）30 分コース「実践ミニ研修」
理論編１　「『考え，議論する道徳』の実際」

ねらい	提案授業を基に「考え，議論する道徳」の大まかな学習指導過程の構想の方法について知り，授業実践に生かすことができるようにする。		
準備物	参加教師：サポートブック，提案授業の指導案 進行役の教師：ＰＣ，大型提示装置（ＴＶ，プロジェクタなど），スライド ※事前に道徳の提案授業を全員で参観する。		
研修の流れ	時間	活動内容	進行手順
	30 秒	ねらいの確認	「道徳が教科化されたばかりで，不安なこともあると思います。今日は，道徳の授業の方向性をみんなで確認し，具体的にどのように授業を構想すればよいのか提案授業を基に考えていきましょう。」
	5 分	「理論」についての説明	・サポートブック「教科化の背景」「道徳科の目標」「考え，議論する道徳とは」を基に説明する。
	5 分	「教師の明確な意図」についての説明	・サポートブック「教師の明確な意図」を基に説明する。
	15 分	「学習指導過程４つのポイント」についての説明  スライド例	・サポートブック「学習指導過程４つのポイント」を基に，具体例を踏まえて説明する。 「ポイントの１つ目は，ねらいとする道徳的価値についての問題意識を持たせることです。主に導入の場面で，主題に対する児童生徒の興味関心を高める活動や発問を行います。児童生徒に「考えたい」と思わせ，自分との関わりで考えさせます。サポートブック６８ページをご覧ください。例えば，日常生活のアンケート結果を提示すること，学校行事等の体験活動を振り返ることなどの工夫例が示されています。今日行った「〇〇〇（教材名）」の授業では，導入の場面で〇〇を想起させ，〇〇を問うことで問題意識を持たせる働きかけを行いました。 ポイントの２つ目は・・・・・・・」
	4 分 30 秒	まとめ 質疑応答	「私たち教師が明確な意図を持ち，４つのポイントを取り入れながら授業を構想していきましょう。」

③60 分コース「授業づくり研修」（放課後・長期休業など）

演習編

※事前に，５分コースや 30 分コースの研修で，「基本的な理論」「教師の明確な意図」「学習指導過程４つのポイント」について押さえておく。

		研修内容	ねらいと流れ	
授業を構想する	演習編1	**1 時間の授業を構想する**	ねらい	・サポートブックを活用して実際に授業を構想する。 ・協働による授業づくりのよさを体験する。
			流れ	①（研修会の１週間程度前に）研修会で扱う教材を指定し，事前に各自で略案を作成する。 ※全体で１つの教材を扱うパターン，学年ごとに１つの教材を指定するパターンなど，学校の実態に応じて形態を工夫するとよい。 ②３～４人のグループを作り，各自が持ち寄った略案について意見交換をする。 ③グループで１つ，学習指導過程を構想し，略案を作成する。 ④それぞれのグループで考えた学習指導過程について情報交換をする。 ⑤（研修会終了後） 各グループが考えた略案を印刷し，配布する。
模擬授業を行う	演習編2	**模擬授業を行う**	ねらい	・サポートブックを活用して構想した授業を体験する。 ・模擬授業で得られた成果と課題を通して，指導の改善について考える。 ・協働による授業づくりのよさを体験する。
			流れ	①授業者はサポートブックを活用して授業を構想し，略案を準備する。参加教師は教材と略案を事前に読んでおく。 ※60 分コース　演習編１で構想した授業を行ってもよい。 ②模擬授業を行う。（範読は省略）（40 分程度） ③授業者が自評を述べる。授業構想や実際に模擬授業を行って悩んだことや困ったことがあれば挙げるようにする。（５分程度） ④参加者全員で意見交換をする。授業者が悩んだことや困ったことについても触れる。（15 分程度） ⑤模擬授業を行ってみて，思ったことや感じたことについて，意見交換をする。 ⑥授業参観カードを記入し，授業者に渡す。

研修会の進め方

（例）授業づくり研修【60 分コース】
演習編１　「１時間の授業を構想する」

ねらい	サポートブックを参考に，実際に行う授業の学習指導過程を協働で構想し，授業力向上を図る。		
準備物	参加教師：サポートブック，教材，各自で考えてきた略案 進行役の教師：ワークシート，大型提示装置（プロジェクタ，実物投影機など）		
準備	事前に研修会で扱う教材を指定し，各自で略案を作成しておく。		
研修の流れ	時間	活動内容	進行手順
	2 分	ねらいと進め方の確認 ワークシート例	「今日は『協働による授業づくり』ということで，事前に考えてきた略案を基に，グループで１つ，学習指導過程を作成します。今から 45 分間，グループ活動の時間を取ります。グループの中で司会･記録･発表の係を決めて進めてください。記録係の先生はワークシートへの記入をお願いします。○時○分から，それぞれのグループで考えた学習指導過程について，発表してもらいます。お互いに学び合い，より良い学習指導過程を構想しましょう。」
	45 分	グループ活動	・グループに１枚，ワークシートを配布する。 ・（可能であれば）質問への応答や悩んでいるグループへの声掛けやアドバイスをする。 ・残り時間の声掛けをする。
	10 分	シェアリング	「各グループで考えた学習指導過程について，２～３分程度で発表してください。」 （グループ数に応じて，全グループまたは抽出グループに発表してもらう。発表するグループのワークシートをプロジェクタ等で提示できるとよい。）
	3 分	感想発表 まとめ	・参加教師数人に感想を発表してもらう。 「今日は『協働による授業づくり』ということで，実際に行う授業の学習指導過程を考えてみました。私たち教師自身が『考え，議論』しながら，授業づくりができたのではないでしょうか。今日考えた学習指導過程をぜひ実践して，手応えや感想を共有することで授業力向上を図っていければと思います。」 ・（研修会終了後） 各グループで考えた学習指導過程を印刷・配布する。

2　指導体制の工夫

道徳科は，主として児童生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めることが望ましいとされていますが，学校の道徳教育の目標の達成に向けて，学校や学年として一体的に進めるものでなくてはなりません。そのために，全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切です。

指導体制の工夫例

○校長や教頭などの参加による指導。
○他の教職員とのティーム・ティーチングなどの協力的な指導。
○校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の得意分野を生かした指導。
○年に数回，教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う取組。

道徳科の授業を実施しやすい環境を整えること

○校長の方針の下に，道徳科で用いる教材や図書の準備・掲示物の充実・教材コーナーの整備などを分担して進められるように，道徳教育推進教師が呼び掛けをしたり，具体的な作業の場を設定したりする。

指導力向上のために

○全教師が，道徳科の学習指導案の作成や提案授業を少なくとも年に１回は担当して授業を公開するなど，学校全体で積極的に指導力向上に取り組むことが望まれている。

3　複数の教師による評価

学級担任以外からの児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について意見や所感を得るなどして，学級担任が児童生徒を多面的・多角的に評価したり，教師自身の評価に関わる力量を高めたりすることも大切です。

他の教師と協力的に授業を行うこと

○他の教師と協力的に授業を行うことで，児童生徒の変容を複数の目で見取ったり，評価に対しての共通認識を持ったりする機会となる。学級担任が普段の授業とは違う角度から児童生徒の新たな一面を発見することもできる。

他の教師による授業に対する評価

○道徳科の授業を公開して，参観した教師から助言を受けたり，ティーム・ティーチングの協力者などから評価を得たりする機会も重要である。その際，あらかじめ重点とする評価項目を設けておくと，具体的なフィードバックが得られやすい。

参考文献

[1]　文部科学省：小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　P87-88,113,116 あかつき
[2]　文部科学省：中学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　P86-87,115,118 教育出版
[3]　協働による授業づくりで目指したいもの　2019年　宮城県気仙沼教育事務所

どうとく Support Book

道徳科用語集

小・中学校学習指導要領(平成２９年告示)解説を参考に作成
（小）p.○，（中）p.○は学習指導要領解説のページ番号
本文中の（）は，中学校学習指導要領解説の文言

あ行

か行

価値理解

内容項目を，人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

（小）p.18

考え，議論する道徳

児童生徒一人一人が，答えが一つではない道徳的な課題を自分自身の問題と捉え，向き合う道徳。

論文→道徳的価値について，「これまでの経験や感じ方と照らし合わせ，自分との関わりで考えること」「多様な考え方，感じ方と出会い交流すること」で，「自分の考え方，感じ方を明確にし，議論することを通して，自己（人間として）の生き方について考えを深めること」。

（小）p.2　（中）p.2

さ行

主題

指導を行うに当たって，何をねらいとし，どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すもの。

（小）p.73　（中）p.71

重点的指導

内容項目は，関連的，発展的に捉え，年間指導計画の作成や指導に際して重点的な扱いを工夫することで，その効果を高めることができる。

○　小学校

各学年段階で重点化されている内容項目や学校として重点的に指導したい内容項目をその中から選び，教育活動全体を通じた道徳教育において具体的な指導を行うこと。

○　中学校

各内容項目の充実を図る中で，各学校として更に重点的に指導したい内容項目をその中から選び，多様な指導を工夫することによって，内容項目全体の指導を一層効果的に行うこと。

（小）p.25　（中）p.21～p.22

重点内容項目

○　小学校

各学年段階で重点化されている内容項目や学校として重点的に指導したい内容項目。

○　中学校

各内容項目の充実を図る中で，各学校として更に重点的に指導したい内容項目。

（小）p.25　（中）p.21～p.22

情報モラル

情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度。

（小）p.97　（中）p.99

説話

○　小学校

教師の体験談や願い，様々な事象についての所感などを語ったり，日常の生活問題，新聞，雑誌，テレビなどで取り上げられた問題などを盛り込んで話したりすることであり，児童がねらいの根底にある道徳的価値をより身近に考えられるようにするもの。

○　中学校

教師の体験談や願い，生徒の日常生活における身近な話題，生徒の関心や視野を広げる時事問題，ことわざや格言，心に残る標語，地域の自然や伝統文化に関することなどを盛り込んで話すことによって，生徒がねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにするもの。

（小）p.85　（中）p.85

た行

他者理解

道徳的価値を実現したり，実現できなかったりする場合の感じ方，考え方は一つではない，多様であるということを前提として理解すること。

（小）p.18

多面的・多角的に考える

○　小学校

物事を一面的に捉えるのではなく，児童自らが道徳的価値の理解を基に考え，様々な視点から物事を理解し，主体的に学習に取り組むこと。

○　中学校

諸事象の背景にある道徳的諸価値の多面性に着目し，それを手掛かりにして考察し，様々な角度から総合的に考察することや，いかに生きるかについて主体的に考えること。

（小）p.18～p.19（中）p.16～p.17

動作化

児童生徒が，教材または資料の登場人物の動きや言葉を模倣して（せりふのまねをして）理解を深める表現活動。

（小）p.85　（中）p.84

道徳科

道徳教育の要として，児童生徒が道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習である。

（小）p.16（中）p.13

道徳教育

自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり，道徳科を要として学校教育全体を通じて行うものである。

（小）p.10（中）p.8

道徳性

○　人間としてよりよく生きようとする人格的特性。

○　道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を諸様相とする内面的資質。

（小）p.20，p.109　（中）p.17，p.111

道徳性の諸様相

道徳性の諸様相とは，道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度のこと。

一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し，自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深め（深く考え），日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践することができるような内面的資質。

（小）p.20～p.21　（中）p.17～p.18

道徳的価値

よりよく生きるために必要とされるものであり，人間としての在り方や生き方の礎となるもの。

（小）p.１７　（中）p.１４

道徳的行為に関する体験的な学習

○　小学校

具体的な道徳的行為を通して，礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり，相手に思いやりのある言葉を掛けたり，手助けをして親切についての考えを深めたりする学習。さらに，読み物教材等を活用した場合には，その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習。

○　中学校

具体的な道徳的行為の場面を想起し追体験して，実際に行為することの難しさとその理由を考え，弱さを克服することの大切さを自覚する。また，道徳的行為の難しさについて語り合ったり，それとは逆に，生徒たちが見聞きしたすばらしい道徳的行為を出し合ったりして，考えを深めることも考えられる。さらに，読み物教材等を活用した場合には，その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習。

（小）p.96（中）p.97～p.98

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情のこと。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。

（小）p.20　（中）p.18

道徳的実践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳的実践意欲は，道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり，道徳的態度は，それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。

（小）p.20　（中）p.18

道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり，人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し，様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

（小）p.20　（中）p.17

な 行

内容項目

児童生徒が人間として他者と共によりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を，短い文章で平易に表現したもの。

（小）p.22　（中）p.19

人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること。

（小）p.18　（中）p.15

は 行

別葉

各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを一覧にしたもの。

（小）総則　p.131　（中）総則　p.134～p.135

補充・深化・統合

道徳科は，各活動における道徳教育の要として，それらを補ったり，深めたり，相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。

○　補充

各教科等で行う道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を道徳科の授業で補うこと。

○　深化

児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導を道徳科の授業でより一層深めること。

○　統合

道徳科の授業で内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすること。

（小）p.10, p.89～p.90　（中）p.8, p.88～p.89

ま行

問題解決的な学習

○　小学校

ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ，これからの生き方に生かしていくことを見通しながら，実現するための問題を見付け，どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり，他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うこと。

○　中学校

生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え，主体的に判断し実行し，よりよく生きていくための資質・能力を養う学習。

（小）p.95～p.96　（中）p.96～p.97

や行

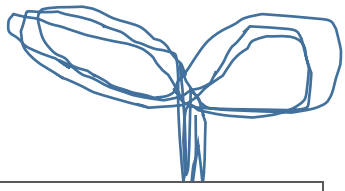
役割演技

児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技させる表現活動。

（小）p.85　（中）p.84

ら行

わ行



宮城県総合教育センター
令和元・２年度　専門研究　道徳教育研究グループ

どうとく Support Book

発行年月　初　版　令和２年３月
　　第２版　令和３年３月
編　　集　宮城県総合教育センター
住　　所　名取市美田園２丁目１番４号
電　　話　０２２－７８４－３５４１